
人を好きになる理由

はすみ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

人を好きになる理由

【Nコード】

N7611W

【作者名】

はすみ

【あらすじ】

幼い頃の出来事がキッカケで男嫌いになってしまった蓮花。そんな蓮花がどんな人にどんな風に惹かれていくのか…

第1話：蓮花の過去（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第1話：蓮花の過去

キウチレンカ
木内蓮花、16歳、男嫌い。

蓮花 小4 夏

父：蓮花、明日からおじいちゃんとおばあちゃんと暮らす事になるから…

小4だったが、状況を察するのに時間は要らなかった。父は新しい女ひとと生活するらしい…

母は小さい時に病気で亡くなった。

父までも…どうしようもない寂しさとなんとも言えない感情がこみ上げていた。

夏の日差しが強く、蝉の泣き声が頭に響いていた…

それから6年―

きつと私が意味もなく男子を嫌いなのはこれが理由だろう…

だけど…

第2話：高校の友人（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第2話：高校の友人

蓮花：ばあちゃん、行ってきまゝす！

祖母：蓮花、お弁当！

蓮花：あゝ！ありがとゝう！行ってきまゝす！

家を慌ててでた蓮花は駆け足で学校へ向かった。学校まで全力疾走！
！なんとか靴箱到着！

蓮花：（セーフッ！）はゝっ間に合った！。

ふつと前を見ると
タナカシユウ
中学の同級生、田中秀が立っていた。

田中：木内、おはよう！

田中が笑顔で言う。

蓮花：おはよっ！

すると後ろから声が：中学の同級生、加藤美里だ。

美里：2人ともおっはよゝ！遅刻しちゃうよゝ！

蓮花：あ！急がなくなちゃ！

田中くんまたね！

田中：おうっ！

田中、美里、蓮花は中学3年の時に同じクラスだった。3人とも同じ高校、同じ学科に進み、田中は高校で4組、美里、蓮花は3組。クラスは別々になった。

美里：蓮花、今日数学テストだねー！何も勉強してないしー！

すると、クラスの男子が会話に入ってきた。

女子人気すごいクラスのイケメン、瀬野颯真だ。
セノウマ

瀬野：俺もやってねー！成績悪かったら補習らしいぜー！

美里：まじ！？

蓮花はそっぽ向いたまま、しらっとしてる。

瀬野：相変わらず、木内はそっけないなあ…

美里：あんたにだけじゃないから、気にすんなって（笑）！

瀬野：お前なんでそんな愛想ねえの？

蓮花：何でもいいよ・・・あん・・・なんでもない。

蓮花は『あんたに関係ない』まで言いたかったが止めた。こういう言葉で人を傷つける度に罪悪感でいっぱいになる自分が嫌で、言わないでいいように苦手の男子を極力避けた。

ガラガラッ…教室のドアが開いた。

先生：オラー！席につけ！テスト始めんぞ〜！

第3話：クラスメイト瀬野（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第3話：クラスメイト瀬野

美里：あゝテスト最悪だったわぁ（泣）。そういえば蓮花さ、今日の放課後球技大会実行委員の打ち合わせだったけ？

蓮花：そうだゝ！忘れてた（泣）。美里先帰っててね、適当に行ってくるよ。

瀬野：放課後は危険がいっぱいだから俺待っててやるよ。

蓮花：余計な事しないで。

美里：あはは、瀬野ドンマイ（笑）！あんた補習で先生に呼ばれてなかった？早くいきなよ。

瀬野：だゝ！！なんで俺だけ補習なんだよ！

瀬野は叫びながら、教室を去っていった。

そして放課後

場所は、体育準備室。蓮花は早々と準備室に入り、窓際の前から3番目の席に座った。

すると、準備室のドアがガラガラッと空き、タナカシユウ田中秀が入ってきた。蓮花を見かけた田中は、蓮花の隣に座った。

蓮花：田中君も委員なの！？

田中：うん。球技大会男子はサッカーあるだろ？俺部活やってっから必然的に（笑）。よろしくな！

蓮花：うん。よろしく。

球技大会は女子がバレーで男子はサッカー、話し合いも着々と進んでいった。

田中：クラス離れるとあんま話できないな。

蓮花：うん、そうだね。中学ん時は同じクラスだったからね。朝とか・・・移動教室とかくらい？

田中：木内の笑顔、高校入ってからあんま見てねーな。見ると元気になんだけどなあ。

田中がボソツと言う。

蓮花：え？

田中：なんでもねえ。こっちの話！！

蓮花：へんなのっ（笑）

田中：へへっ

2人とも話をしていると、いつの間にか委員が終わった。

田中：部活だ。木内は帰るのか？

蓮花：うん。部活頑張ってるね。

田中：おうっありがとなー！（笑顔）

委員が終わって話をしていると、ドアの方から声がした。田中と同じクラスの佐藤拓^{サトウタク}だ。

佐藤：田中、委員終わったか？部活行こうぜっ！

田中：おー、あ、木内、こいつ同じクラスの佐藤な。

蓮花：よろしく・・・

すこしたたどしい挨拶をする蓮花。

佐藤：よろしくー！

田中：じゃ、俺ら部活行くな！気をつけて帰れよ！

蓮花：ありがとう、また明日（笑顔）。

田中は久しぶりにまた蓮花の笑顔を見て、つられて笑顔になった。

佐藤：あの子、男子嫌いで有名な3組の木内蓮花だろ？綺麗だな。
つつか、お前とは話すのな。

田中：おー、中学一緒だったからなあ。

少し意味ありげな顔をしながら佐藤に言った。

佐藤：なんだ、お前に気を許してるってやつか！

田中：なんだよ、うるせえよつ。そんなんじゃないんだ・・・そんなんじゃないんだよ・・・。

田中がまた複雑な顔をした・・・

第4話：中学の時のガールズトーク（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第4話：中学の時のガールズトーク

教室

美里：そういえばさ、昨日委員の前に田中に会ったよ。あいつも実行委員なんだって？

蓮花：うん。

蓮花の回想 中学生

クラス全員の英語の宿題ノートを持って、少しフラフラしながら廊下を歩く蓮花。

蓮花：（おっも、だけど往復したくないし！！がんばれあたし！！）

そこに田中が通りかかる。部活道具を忘れたので教室に取りに帰る途中らしい。

田中：職員室までだろ？半分かせよ。

蓮花：いいよ！自分でやるから！

聞かず、3分の2くらいを奪い取る田中。

蓮花：あー！

田中：先行くぞ！

蓮花が男子が苦手だとわかっている田中は、いつも距離を置きながら蓮花を手伝った。田中はみんなに優しくかった。そんな中で男子が苦手だという蓮花を田中なりに理解しての行動だった。

そして次の日

蓮花は朝の靴箱で田中に遭遇。

蓮花：田中くん、おはよう・・・あの・・・昨日はありがとう。

田中の目をみてお礼を言う。

田中：おはよ！俺、ほせくけど結構力はあるぞ（笑）。カアピールがしたかったんだ！

蓮花：ぷっ！なあにそれ！

普段、男子と話す時にあまり笑わない蓮花は口角を上げて笑いなが

ら言った。その笑顔を見て田中は少し照れた。

その日の夕方。秋の真っ赤な夕日が3階の教室の窓から綺麗に見えた。部活をしている人の声が小さく聞こえてくる。蓮花は窓際に座って友達とガールズトークをしていた。

友達：蓮花ってさ！すごい人気あるのにさ、男子とほんとんど話さないじゃん！告白されてもさ、片っぱしからフリまくってるし！なのに田中とは話すよね！

数人の女子が蓮花を囲みながら話をしている。

蓮花はおどおどしながら言った。

蓮花：そ・・・そうかな。

友達：だけどさ〜！田中って、全体的に普通だよね〜（笑）声だけではかいけど！てか、名前も田中だし！！普通〜。蓮花が男として意識する訳ないっか！唯一男を感じないから、話せるのかもー！

周りの女子：そうかも！それだ！

蓮花：ち・・・ちが・・・

その時、教室のドアを開ける音がした。体育祭の打ち合わせで職員室に行っていた、田中と美里が教室に戻ってきたのだ。

蓮花は声がでなかった・・・。

田中：・・・普通ってなんだよ！俺ラッキーじゃん！木内男嫌いだろ？じゃあ俺それに入ってねえって事は嫌われてねー！ラッキー！

全部聞こえていたらしい・・・

田中は笑顔で言った。

美里：どおんだけポジティブなんだか！今から部活でしょ？早く行って男磨いてこい！！

大笑いしながら美里は言った。周りの女子達も一緒に笑う。

田中：おう、言われなくても行くわ！んじゃ、木内また明日な！

蓮花：・・・また、明日・・・。

田中は、教室を後にし部活へ行った。周りにいた女子達も教室を後にした。

友達：美里、蓮花またね～！

蓮花は泣き出しそんな顔をしていたが、それを止め、何も言わず、美里と一緒に教室を後にした。

蓮花：美里、うちらも帰ろ！

美里：・・・うん、もう秋だから寒いしね。早く変えろ。そういえばね、今日夕日がすごいわっ赤で綺麗だったよ。

次の日田中は、普通通り蓮花に挨拶をしてきた。

田中：木内おはよ！

蓮花：・・・！！

蓮花はその場から消えてしまいたかったが、田中の目をまっすぐ見て挨拶をした。

蓮花：田中くんおはよう・・・それから・・・ありがとう。

この時、何を言っても言い訳になる様な気がした蓮花は、それ以外に何も言わなかった。

第5話：瀬野の女装（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第5話：瀬野の女装

蓮花：美里、明後日から球技大会じゃん。なんか、体育の小野（先生）が張り切っててさ、垂れ幕作るらしいのね、それ、今日の放課後実行委員で作るんだって・・・。

美里：え、迷惑う（笑）。って委員ほとんど男子じゃなかった？あんた大丈夫なの？手伝いたいんだけどさ、あたし今日からバイト入っちゃってて、手伝えないんだ！ごめんっ蓮花！

蓮花：ううん、いいの。ありがと美里。3人女子いるんだけど、1人はバレー部で部活でしょ？もう1人は陸上部で部活・・・部活の人はそれ終わってからだから、まあ・・・仕方ないやね！頑張るよ！

そこにクラスの瀬野が入ってきた。

瀬野：垂れ幕作んのか？俺手伝おうか？

蓮花：いいっ！！

美里：あんたも男子じゃん・・・

美里はあきれた顔で言った。

瀬野：つつかさ、そんな無理して行くなよ。ブッチぎればいいだろ

く忘れてたとか何とか言つてさあ。

蓮花：そういうの、嫌いな。美里、じゃあ、行ってくる！！バイト頑張って！

美里：うん。

蓮花は教室を後にし、準備室へ向かった。

美里：あの子、小さい事でもさ、やっちゃったもんは最後までキツチリするタイプなんだ。

瀬野：そつかあ。

美里：じゃあ、あたしバイトだから！また明日！

瀬野：おう・・・またな。

準備室

蓮花が準備室のドアをガラガラッと開けた。

蓮花：（うわぁ・・・男子だけ・・・吐きそう・・・ダメダメ！！やる事やって早く帰ろっ！）

小野（先生）：お、3組の木内か、人数足りなくて大変だったんだ。文字に色塗ってくれるか？

蓮花：はい。

蓮花は、他の男子が布を切ったり、木を切ったりしている中で文字を書く担当になった。筆を取り文字に色を塗っていった。

蓮花が準備室に入って1時間くらいした時・・・準備室のドアがガラツと開いた。

蓮花：あれ？あんな女子いたっけ・・・？・・・！！！！

小野（先生）：おまえ・・・確か3組の瀬野・・・だよな・・・。

準備室にいた、他の委員がドツと笑った。なんと、女装した瀬野が立っている。長いウィッグをつけて、スカートをはいていた。

瀬野：シャレだよシャレ！！手伝えればなんでもいいだろ！？

小野（先生）：まあ、いいが、そういう趣味か？

瀬野：っちっげえよ！！

周りの委員：なんだよ瀬野！！おまえ笑かすわー！！アハハハハ！！

瀬野は、つかつか歩き、蓮花の隣で筆を取り、一緒に作業を始めた。

蓮花：ちょ・・・なんなのあんた！どうしたのそのスカート！

瀬野：あ？演劇部から借りてきた。

蓮花：ぷっ！！ハハハハ！！

蓮花は、お腹を押さえながら笑った。

瀬野は、蓮花の笑顔を見て驚いた。

瀬野：（なんだ・・・笑う事もあるのか・・・）うるせっ、早くやるぞ！！

蓮花：う・・・うん・・・ぶくくっ・・・（笑）

瀬野：笑うなっ！結構綺麗だろ！！

蓮花：確かに綺麗！でも無理ー！（笑）

瀬野は恥ずかしかったが、蓮花の笑顔を見て、なんだか満足だった。そして、無事に垂れ幕が完成した。

小野（先生）：よし、みんなありがとな！気をつけて帰れよっ。

瀬野：木内、送るぞ。

蓮花：ぶくくっ（笑）、いいよ。早く着替えてきなよ。ぶくくっ（笑）。

瀬野：いつまで笑ってんだよっ、ちょっと待ってるよ！

瀬野はそう言い残すと、着替えに準備室を後にした。

蓮花：あつと・・・瀬野っ・・・あ、行っちゃった。

蓮花は帰る為靴箱へ向かって瀬野を待った。すると着替え終わった瀬野が来た。

瀬野：・・・待っててくれたのか・・・。

蓮花：あー、一応ね。

2人は歩きながら話し出した。

瀬野：送るよ。もう遅えし。

グラウンドではサッカー部が部活をしていた。

ディフェンス甘えぞ！！おい、もっとそこ攻めろ！（監督の声も響いている）

佐藤（田中のクラスメイト）：お、委員終わったみたいだぞ。あれ蓮花ちゃんじゃね？男子だらけの垂れ幕作成行ってたんだな。ボーイコットしなかったんだ。

田中：・・・あいつそういう奴じゃないんだ。

そういうと、佐藤が横を歩いている瀬野に気付いた。

佐藤：横にいるの3組のイケメン君瀬野だな。

田中：・・・。

田中は顔を伏せ、方向を変えて歩きだした。

佐藤：・・・そういう事か・・・。

そして正門

蓮花：送らなくていい！！あんた逆方向だし！！

瀬野：あー、わかったよー・・・また明日なあ。

瀬野が歩きだす。

蓮花：瀬野！！

瀬野はびつくりして振り返る。基本男子には、『ねえ』、『ちよつと』、『あのさ』で話掛ける蓮花が初めて名前で呼んだからだ。

蓮花：今日はありがとう。

蓮花はまっすぐ瀬野の目を見てお礼を言った。

瀬野：いや・・・

蓮花：瀬野、私ね、男子苦手なの少しずつなおればいいなって思ってたの。だからね、すぐには無理だけどね、ゆっくり頑張るよ。だからね・・・大丈夫だよ。本当にありがとう。

瀬野：そっか・・・今日の女装はウケ狙いだ！盛り上がるかなーと

思って冷やかしたよ。しかし、初めてな、木内がまともに話してくれんの。

瀬野は複雑そうに笑いながら言った。

蓮花：あはは。私も初めてだよ、女装までする人！じゃ、また明日！

瀬野：お、おう！！（笑顔）また明日な！！。

瀬野は蓮花の後姿を見送った。

瀬野：・・・・。

瀬野は蓮花の実直さに少し戸惑うと同時に、今まで感じた事がないような気持ちになっていた。

第6話：瀬野の願い（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第6話：瀬野のお願い

次の日

美里：瀬野さん（バカにしている）、聞いたわよ（まだバカにしている）。

美里は呆れた表情で瀬野を見ながら言った。

瀬野：『さん』付けすんな・・・冷やかしか・・・昨日、あいつにお礼言われたんだ。

何やら遠くを見つめるような表情で瀬野は言った。

美里：お礼。ふうん。

瀬野：多分、あいつ、ああいう事止めてくれて言いたかったんじゃないのかなあ・・・けど大丈夫だからありがとうって言われたよ・・・。

美里：っそつ。（蓮花らしいや・・・）・・・顔が曇ってるよつ。

聞きたい事あったらあ、本人に聞きなあ。蓮花の男子嫌いはさ、あの子自身、自分の問題としてずっと悩んでくるからね。あの子自身が誰かにどうにかして欲しいとは思ってないし、けど理由はどうかあれ、女装までしたんでしょ？単純に蓮花も嬉しかったんじゃない？

てかさ、あんたさ、女子に不自由してないじゃん？なんでわざわざ

蓮花にちよつかいだすのよ。

瀬野：いや、あいつと普通に話ししてえんだよ。なのに避ける避ける・・・。

そういうと、考え事をしながら教室を後にした。

美里：ていうか・・・あいつただのイケメンかと思ったら、結構人見る目あんじゃん。以外。

ああいう体当たりタイプ初めてだね・・・田中と真逆か・・・大体の男子は蓮花の男子嫌い目の当たりにして去って行くのに・・・フフフフ。ふうん。

美里は不気味な笑い方をした。

場所は体育準備室

蓮花は昨日作った垂れ幕の整備をしているとドアがガラガラっと開いた。

ドアの方を見ると・・・

蓮花：瀬野。おはよ。

瀬野：おすつ。木内、昨日の・・・

蓮花：女装？（笑）もうしないでよねえ、お腹よじれるから（笑）。

瀬野：いや、正直に言ってくれねえか？……………ああいうの苦手なんだろう？

蓮花：……………正直って……………。

蓮花は困った。しかし、瀬野がまっすぐこっちを見て聞いてくる。しばらくだまつた後……………

蓮花：正直に言う……………苦手！……………だけど嬉しかったのは本当！だからお礼言った。

瀬野：そっか！

蓮花は拍子抜けした。

蓮花：何！？確認だったの！？

瀬野：ああ。

蓮花：あそ。

蓮花は垂れ幕の整備を終わらせた。

瀬野：俺さ、木内がどれだけ男子苦手かわかんねえ！何が嫌かもわかんねえ。

そして、勘もそんなよくねえ。距離の取り方とかいちいちめんどくせえし。だからこれからは聞くぞ。そのかわり俺はへこたれねえから聞いたら正直に答えろよ。

・・・じゃあ関わるなとか言いたいんだろうが、俺は関わるぞ。

蓮花：何・・・

蓮花は何て応えていいか解らなかったが・・・

蓮花：よくわかんないけど、瀬野にそこまで甘えられない・・・。

あたし、何言葉にするかわかんないし、避ける以外思いつかない・・・
・避けるのが一番楽なのよ。中学ん時、それで失敗してんだよ。ひどい事言っちゃって、取り返しつかなくなるの・・・。

瀬野：まあ、過去の事は俺はわからんが、今度は相手が俺だからな。言つたろ！そうして欲しいんだよ。俺は少々的事じゃへこたれねえぞ。

蓮花：・・・。。。

すごく苦手だ・・・と心の中で葛藤があった。できれば即答で断りたいが、瀬野がまっすぐぶつかってくるので、避けられないと直感で思った。

蓮花：わかったよ・・・そうする・・・よつに頑張るよ・・・。

瀬野：おし！！約束な！

第7話：距離感（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第7話：距離感

球技大会当日

美里：っさあゝ！！勝つぞ！初戦は7組っしょ？

楓：クラスメイト美里ちゃん、元バレー部なんでしょ？頼りんなるわあゝ！

美里：まっかしといてえ！じゃんじゃんアタックするよ！！おりゃゝ！！（エアーアタック）

楓：クラスメイト美里ちゃんかっこいい

蓮花は遠い目で2人を見ている。

すると蓮花の真横に瀬野がきた。

瀬野：男子は初戦6組だな。

トーナメント表を見ながら瀬野が言う。蓮花はじいゝつと肩を見て・
・瀬野がそれに気づいた。

蓮花：・・・近い・・・

瀬野：お？始まったな。わかったよ。離れますよ。

蓮花：本当に大丈夫なの？

瀬野：あ？適当な返事こかれて、うわつつらな会話されるよりましだけど？

蓮花：そうなの？

瀬野：俺はな。

美里：何なにい、瀬野さん（バカにしている）また女装でもする気い？

瀬野：お前いつまで女装ひっぱるんだよ！！しつけーぞっ！！

美里：ハハハ！ごめんごめん。あ、初戦もうすぐだね。女子は午後からだから応援行くわ。あんたサッカーできんの？

瀬野：俺様の運動神経を甘くみるなよ！（片足を椅子に乗つけてちよっとポーズを決める瀬野）

美里、蓮花、楓：・・・じゃ、応援行こっか！

瀬野：俺、選手だつつうの！俺も行くわ！！

グラウンド

男子3組VS6組のサッカー試合が始まった。

応援団：キャー！！瀬野くん頑張ってー！！！！

美里：うわっ。すごい女子・・・あいつやっぱなんだかんで人
気あんなあ。しかもあいつ本当に足早っ！！運動神経もいいのか・
・そらモテるわな。

蓮花：すごい。そんなモテんの瀬野って。

クラスメイト

楓：知らないの？入学初日から告られて結構噂ってたよ。

美里：初日い？もろ外見じゃんね。信じれん。

蓮花：美里、あたしちよつと委員の集まりがあるから、事務局行っ
てくるわ。

美里：ここいるから、終わったらおいでね。

蓮花：うん。

蓮花は事務局へ向かった。
委員がみんな集まっている。

田中：お、木内、今3組男子試合してんだろ？

蓮花：うん、してた。田中くんは午後からでしょ。

田中：おう、午後1番だな。木内も午後？

蓮花：うん、そう。

小野（先生）：え、全員集まったかなあ？委員は、各自責任持つて審判と点数付するようにな！あと、全学年の集計を2人にやつてもらってから、1年は木内頼むな！・・・あと・・・

すると、

田中：先生、俺やる！

小野（先生）：お？じゃあ、田中頼むな。集計終わったら俺ん所来いよ。じゃあ、解散。

蓮花：田中くんいいの？

田中：ああ、やりたかったから。

蓮花：ありがとう。

田中：いや・・・そろそろ1試合終わる頃だから、点数聞いてくるわ！

蓮花：そうだね、じゃ、また後で！

田中は手を上げて笑顔でグラウンドへ行った。

蓮花は美里達の元へ向かった。

美里：お！蓮花！男子勝ってる！今3 - 0だよ！

蓮花：本当だ！

クラスメイト
楓：内2点、瀬野が決めてるよ。

蓮花：へえ、あ、また決めた！すごい4 - 0！？

ピー！！！！試合終了のホイッスルと応援団の黄色い歓声がグラウンドに響いた。

蓮花：美里、あたしトーナメント表書きに行ってくる！

美里：忙しいね委員は。いつてらっしゃい！

男子が帰ってきた。

瀬野：あれ？木内は？

美里：なんか、トーナメント表書きに事務局行ったよ。

瀬野：そっかあ。

事務局

事務局へ行くと、田中が先にトーナメント表書きに来ていた。

田中：3組勝ったな！

蓮花：うん、そうみたい！試合ほとんど見れなかったけど（笑）。

田中はトーナメント表を記入し始めた。

田中：ええつと、1組VS2組が・・・2-1・・・。

蓮花：あ、田中くん・・・。

田中：どした？

蓮花：あ、あの、2組じゃなくて、3組に書いてるよ！！

田中：あ、本当だ・・・っ。

蓮花は笑いながら言った。2人の間に距離感はなく、普通に楽しそうに会話をしていた。

その様子を事務局に來た瀬野が遠くから見ていた。

瀬野：・・・。

第8話：宣戦布告（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第8話：宣戦布告

高橋（3組クラスメイト）：おい、瀬野なんかイライラしてね？

瀬野：俺が！？

高橋（3組クラスメイト）：してるだろ、何かあったのかよ、次もシュート頼むよお）。

瀬野：っだー！！！！

高橋（3組クラスメイト）：おい！！落ち着けよ！！

瀬野：何で普通に会話できるんだよ！！！！

高橋（3組クラスメイト）：ハ？・・・瀬野、病院行くか・・・？

場所は体育館

蓮花：美里！ハイ！！

美里：おりゃー！！！！

元バレー部の美里は、相手チームも引くくらいの掛け声でアタックをする。

蓮花：（・・・本番でもその掛け声なんだ・・・（――；））

美里：おっしやあ！！勝！！！！

楓（3組クラスメイト）：やった！男子も今試合やってる！これ勝てば決勝らしいよ！グラウンド行こう！

美里らはグラウンドに向かった。すると丁度試合終了ホイッスルがなった。

美里：あ、終わった！勝ったっぽくない？

蓮花：あ！！1 - 0で勝ちだよ！

楓（3組クラスメイト）：て事は、明日4組と決勝だね。4組サッカー部結構いるから強豪らしいよ。

蓮花：そうかあ。

瀬野：お！！見たか！！俺様の活躍を！！

そつ言いながら男子らが美里らの方へ寄ってきた。すると・・・

高橋（3組クラスメイト）：おい、瀬野、2組の女子が呼んでるぞ。

瀬野が振り向くと、高橋の後に女子が2人立っていた。

楓（3組クラスメイト）：なんか告白っぽくない・・・？

美里：おーお。

瀬野はてくてく歩いて女子の元へ向かった。

蓮花：あいつ何であんなモテるのに彼女作らないんだろうね。

美里：なんでだろうね・・・。

蓮花：あたしまた事務局行ってくるわ！

美里、楓（3組クラスメイト）：いつてらっしゃあい！

蓮花がトーナメント表を記入、集計をしているとそこへ・・・

田中：早いなあ木内。3組バレーもサッカーも勝ったろ？俺ら次決勝で3組とだわ。

蓮花：みたいねえ。4組って強いらしいね。

田中：サッカー部多いからな。

蓮花：田中くん中学ん時から部活一筋だもんね。

田中：サッカーできれば飯いらねー！

蓮花：え！？

田中：そんな事もねえか・・・飯は大事だな。

蓮花：かなり大事でしょ（笑）。

2人が話しをしていると・・・

瀬野：木内事務局忙しいのなあ・・・

蓮花：あ、瀬野！田中くんうちのクラスの瀬野。

瀬野の事を名前で呼んだ蓮花に田中は少し驚いた。

田中：・・・次サッカーよろしく。

瀬野：こちらこそー負ける気はしねえけどなあ！

蓮花：瀬野、あんた初対面で失礼・・・（――；）。

田中：いや、いいよ（笑）。

蓮花：瀬野、さっきの女子やっぱ・・・

瀬野：あ？気きなるか！

蓮花：いや、全然。聞いただけ。（きっぱり）

瀬野：ああいうのばっかだよ・・・。

小野（先生）：田中、木内く、集計終わったかあ？

蓮花：あ、あたしもっててくよ。

そういうと、小野先生の所へ集計表を持って行った。

瀬野：木内・・・田中・・・だっけ？

田中：田中秀、タナカシユウ田中でいいよ。

瀬野：そっか、田中とだけは話すのな。俺なんかもろ避けられるぞ。

田中：あー・・・そっか・・・羨ましいな・・・。

田中は下を向き、目を伏せながらボソツと言った。

田中：あいつ男子嫌いだろ？その中に俺入ってねえんだ。特別うち

や特別な・・・。

瀬野：なんだそれ・・・つまりあれか、男として見られてねえって事か？本人が言ったのか？

田中：いや、中学ん時ガールズトークを聞いた。

そついうと田中は席を立った。

田中：木内も瀬野とはなんだかんだで話すよな。

瀬野：頼んだんだよ。

田中：頼む？

瀬野：嫌なんだよ。理由もなく避けられんの。どんな言葉使っても構わねえから本音で話せて言ったんだ。

田中：・・・・・・。

瀬野：サッカー負けねえからな！

田中：ああ。

小野（先生）：田中！！ちょっとこれどうなってんだ？

小野先生に呼ばれた田中は、その場を去った。

瀬野：なるほどなあ・・・。

瀬野は田中を見ながら独り言を言い、その場を去った。

田中：・・・。

田中は去っていく瀬野の後姿を見ていた。

第9話：徳川家康VS豊臣秀吉（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第9話：徳川家康VS豊臣秀吉

決勝の日

瀬野：美里、4組の田中ってどんな奴だ？

美里：・・・田中？・・・んゝ・・・そうねえ。

美里は腕を組んで深く考えて・・・

美里：徳川家康？

瀬野：おい、お前またバカにしてんのか・・・つくづくだな。お前に聞いた俺がアホだったよ。はよバレー行ってこい。

美里：いい感じで伝えてると思うんだけどねえ。蓮花ゝバレー行こ！

蓮花：勝てるかなあ！（＾　＾）！頑張ろっねえ！

瀬野：（・・・）たたくあいつは何が徳川だよ。（応援行くからよ！

クラスメイト
楓：緊張してきたねえ。

女子は体育館へ向かった。

瀬野：体育館俺らも向かうべ。．．．おい高橋、徳川家康っぽい奴ってなんだ？

クラスメイト
高橋：は？なんだ急に。

体育館

女子8組VS3組の試合が始まった。

女子は円陣を組、美里の掛け声で配置についた。

美里：おし！！行くぞ！！ファイ！！

女子：オー！！

クラスメイト
高橋：お、頑張ってるぞ女子。美里すげえな．．．そいえば、最近木内とよく話すよなお前。

瀬野：ああ、ちよつとなあ。

クラスメイト
高橋：あいつ男子嫌いなのに、お前すげえよな。
さっきの徳川家康は言われたのかあ？おまえは徳川家康タイプじゃねえだろ（笑）！

瀬野：なんだ！？意味わかんのかよ！！お前！！ていうか、意味あんのか！？

クラスメイト
高橋：あれじゃねえのか、鳴くまで待とうホトトギスと鳴かせてみ

ようホトトギスとかあるじゃねえか。大体なんでそんな例えになっ
たんだよ。

瀬野：……。 （美里よ、後で謝ろう）……。 徳川ってどっちだ！？

クラスメイト

高橋：鳴くまで待とうだろ？

瀬野：……。 そういう事が……。

そうして応援していると、女子の試合終了のホイッスルが体育館に
響いた。 試合結果は5 - 4で3組女子が勝った。

クラスメイト

高橋：おゝ、すっげ。 勝ったよ！

女子：キャー！！

女子は全員で喜んだ。

美里：おゝ！！ 男子見てたあ！？

男子：見てたぞ！！

瀬野：美里！！

美里：？

美里は瀬野の方を見た。

瀬野：さつきはすまん。わかった。徳川家康。

美里：あんたは……豊臣秀吉？

瀬野：秀吉か、だな、家康みたいには待てねえな……鳴かないって言われても、もしかしたら鳴くかもしれねえだろ。

美里：……そうだね。

女子：午後からは男子決勝だね！！どっちも優勝だったりして！

！！男子頑張つてよね！！

女子らが男子ら向かって、騒ぎながら言っていた。

第10話：瀬野の感情（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第10話：瀬野の感情

夏の日の夕方、球技大会の後片付けが始まった。

美里：結局男子4組に負けちゃったねえ！瀬野も相当頑張ってたけど現役サッカー部3人もいちゃあ勝てないわなあ。

蓮花：そうだね。男子が、というか、瀬野の悔しがり半端なかったね。

クラスメイト
楓：瀬野さんの応援団も泣いてたしねえ。そいえば、今日は打ち上げあるしょ？なんかカラオケらしいけど。2人とも行くの？

美里：うん行くよ。打ち上げは楽しみ（＾　＾）女子は優勝したし！いったん帰るでしょ？

蓮花：うん、そうする。

16：00 - カラオケボックス
クラスメイト
3組のクラス全員がワイワイ騒ぎ、高橋は歌を歌っていた。

美里：つか、高橋歌へたくそー・・・。

瀬野：おい、木内！！お前ちゃんと男子応援してたんだろうな！4組（田中の）の応援してたんじゃないな！

蓮花：うっさい！ていうか、近いし！離れてよねっ！ちゃんと応援

してたしっ。

美里：実力不足じゃん？（笑）。

そこに歌い終わった高橋が乱入してきて・・・

高橋：何だと美里ー！俺ら頑張ったんだぞー！

美里：まあまあ、女子は優勝できた訳だし？結果オーライって事で（ハハ）あの強豪って言われてた4組に2-1だったんだからさあ。現役サッカー部3人もいたんでしょ？

高橋：何が結果オーライだ！！絶対次こそは勝ってやる！！チクショー！！

美里：まあ、コーラでも飲め！

高橋はコーラを一気飲みした。

美里、蓮花：！！ちよっ！！

高橋：ブホッ！！！！！！

おもいつきり高橋の噴出したコーラが蓮花の洋服にかかった。

蓮花：！！！！・・・。

高橋：わりい木内・・・。

美里：最低。

ハンカチで拭きながら美里は言う。

蓮花：いいけど・・・よくないけど・・・まあいいよ（――）。
気にしないで。

蓮花は席を立ち、トイレに向かった。そこで、洋服を吹いて、トイレから出てくると、ドアのそばに瀬野が寄りかかって立っていた。

蓮花：瀬野。

瀬野：や、あいつ悪気は全然なくて。すまん。

蓮花：・・・いいよもう。なんで瀬野が謝るの。

瀬野：なんとなく・・・男子代表。

蓮花：そ。

蓮花：そいえば瀬野ってモテるんだね。初めて知った。応援団とか

沢山いたよ。

瀬野：あー・・・嬉しかねえけどな・・・あのさ・・・田中とはさ・・・木内話すのな。

蓮花：田中くん？うん、唯一話す男子かなあ。

瀬野：男子・・・。

蓮花：うん、田中くんにはもう中学ん時からお世話になりっぱなし。遠くからいつも助けてくれてさ、気が効くというか・・・優しいし、いつも救われてる。

瀬野：ふーん、そうか・・・。

瀬野は今まで感じた事がない感情が湧いてきた。2人はカラオケに戻った。

美里：蓮花大丈夫だった？

蓮花：大丈夫だよ。

高橋：・・・木内、ごめんな。

蓮花：いいよ。

美里：瀬野、なんかあった？何か急にイライラしてない？

瀬野：俺が！？

美里：瀬野って言ったでしょ！？あんた以外誰がいんのよ。

瀬野：……なんでもねえよ！

瀬野は何でこんなにイライラするのかこの時は解らなかった。

第11話：文化祭の準備（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第11話：文化祭の準備

美里：蓮花おはよ～！！

学校へ着いた美里が靴箱で蓮花に挨拶をした。横には偶然出くわした田中も一緒にいた。

蓮花：おはよ！あ、田中君もおはよ！

田中：おはよ。

蓮花：球技大会大活躍だったねえ。

美里：そうそう、うちら打ち上げで男子荒れて大変だったよ（笑）。

田中：あはは（笑）。や～、現役サッカー部としてはやっぱり負けらんねえよ。

3人はわいわい話しながら教室へ向かった。

美里：じゃね、田中！

田中：じゃあなあ～。

田中は笑って手を振りながら4組の方へ歩き出した。すると3組の教室から瀬野が出てきた。

瀬野：お！田中。

田中：おすつ。

瀬野：お前球技大会次は負けねえからな〜！

田中：お〜こつちもなあ！

田中は教室へ入っていった。

美里：おはよ。何、2人とも顔見知りになったの？

瀬野：お〜つす。ちよつとなあ。おす木内！

蓮花：はよ。

3組教室

矢崎（担任）：えー球技大会終わってすぐだが、文化祭の準備に入っていくぞ〜。結構大変だからな。実行委員は加藤と瀬野か。何やるかだけでも先に決めとけなあ。今日HR時間結構あるから、今日決めるか？

美里：何やるか意見ある人ー！

美里の進行で何やらクラス会議が進行して行つた。

瀬野：ええっと、お菓子屋、カフェ、コスプレ、お化け屋敷、迷路・
・こんな所かあ？ぱつとしねえなあ・・・。

すると、クラスお調子ものの高橋が・・・

高橋：ハイー！！コスプレとカフェを合わせて、メイドカフェなんて
どうでしょうかー！！！

男子：おー！！

美里：ちよつとー！！裏方で男子はサボる気かー！！

瀬野：メイドカフェ反対。

ところが、クラスのあちこちから『結構面白そう』の聲が上がつてきた。

高橋：な？メイドカフェやって、男子は裏方で頑張りやいいだろ？

瀬野：今時流行らんし、違うので行こう・・・。

それとは逆に、クラスの雰囲気、メイドカフェでいいじゃん？の
雰囲気になってきた・・・苦肉の策で瀬野は・・・

瀬野：あー・・・じゃあ、メイド・ボーイズカフェは！？

するとクラスの雰囲気がそれもいいな　の雰囲気に・・・。

美里：えっと、それじゃ多数決取るね！・・・瀬野のメイド・
ボーイズカフェがいい人！

クラスの3分の2が手を上げた。

美里：メイド・ボーイズカフェ・・・決定・・・。

瀬野：早かったな・・・決まるの。

美里：あたし先生報告してくるわ。

そういうと、美里は職員室へ向かった。すると田中と遭遇。

美里：田中聞いてよ、うちら3組メイド・ボーイズカフェだつてよ！

田中：文化祭か。面白そうじゃねえか。

美里：メイドの格好させられんだろうな……。もう、ハマらないと絶対面白くないから、ハマんなくちゃ！！

田中：お前ハマるとすごそうな。木内とか男子に接客できんのかよ。

美里：多分、そこまで考えてないよ蓮花は……。

田中：变つてねえなあいつ。いつも爪甘いよな。結局自分で頑張るけどな……。ほっとけねえつつうか、なんつつか……。

田中は笑いながら言った。

美里：（クスッ）じゃ、あたし職員室行くから。

田中：おう！

美里：（まったく……ぷっ）

3組教室

瀬野：おい木内、お前もメイドになるのか。

蓮花：は！？そうなの！？

瀬野：お前、あれだな、結構アホだな・・・

蓮花：うつさい！！そこまで考えてなかった！！

瀬野：結構似合いそうだぞ。

蓮花：うわっやらしつ。キモい。

瀬野：なんだ！！キモいとは！！男としては正常な証拠だぞ！！大丈夫だよ。ボーイズも入ったから女子の客も沢山来るだろ。

瀬野に対して最初はものすごく構えていた蓮花だったが、蓮花は瀬野に段々慣れてきていた。近づけば離れると言われ続け、その都度距離を置き、瀬野も段々蓮花の男子嫌いに慣れてきた。最近は離れると言われなくても、蓮花が大丈夫だと思う距離もつかめて来る様になったので、それ以上は近づかなかった。

そんな風にある程度距離を取ってくれる瀬野に蓮花は気づき、どこか安心して普通に話ができる様になっていた。そして瀬野は、やっぱり解らない時はその都度聞いた。

瀬野：おい、こういう話をする男子は嫌か！？

蓮花：え？別に嫌じゃないよ。

瀬野：そうか！！

蓮花：好きでもないけど。

瀬野：おいっ！！

蓮花は少し笑った。その笑顔に一瞬ドキッとした自分に瀬野はまた少し、戸惑った。

蓮花：ボーイズカフェ案……。

瀬野：あ？

蓮花：なんでもない……。

第12話：ある日の休日（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第12話：ある日の休日

蓮花は休みの日、祖母とスーパーへ夕食の買い出しにきていた。

蓮花：ねえ、ばあちゃん、青のりいるよねえ？

祖母：お好み焼き、青のり無いとじいちゃんうるさいからね（笑）。

蓮花：あと、キャベツと〜・・・

一通り買い物を終えた2人は歩きながら家へ向かった。すると、途中のコンビニに・・・

蓮花：（れ・・・？あれ瀬野・・・？）

祖母：知り合い？

蓮花：クラスの男子だよ。

瀬野は祖母と歩いている蓮花に気付いた。

瀬野：お〜！！木内！偶然な！

蓮花：あんたん家逆方向じゃなかった？こんな所まで買い出し？

瀬野：ああ、たまには違ったもん食おうと思ってなあ。

祖母：まあ、夕飯？

瀬野：こんにちは！あー・・・これは夕飯です。俺んち父子家庭で、大体いっつもこんなんで。

蓮花：・・・。

祖母：それ何買ったの？

瀬尾：これ？・・・これは焼きそばですけど・・・。

祖母：それなら、今日うちお好み焼きだから一緒に食べない？食事は人数多い方が楽しいし。

蓮花：ちよつ！！！！ばあちゃん！

祖母：あらぁいいじゃない。ねえ瀬野くん。

瀬野は唐突の出来事に少し驚いた。

瀬野：あゝ・・・木内がいいなら・・・。

蓮花は少し間を置いて・・・

蓮花：・・・ばあちゃんが呼びたいつつうなら・・・。

祖母：じゃあ決まりねえ。うちねえ、お好み焼きにたっぷり山芋入れるのよ、おいしいよ。

瀬野：ハハハ。そりゃ楽しみ！

話をしながら、3人は家に着いた。

祖母：じいちゃんもつすぐ帰ってくると思うから適当にくつろいでいてね。

瀬野はリビングに座った。

瀬野：・・・なんか今日すまん・・・。

蓮花：いいよ別に。なんかばあちゃん楽しそうだし。

2人は話をしていると玄関のドアが開いた。

祖父：ただいまあ！あれ？お客さんかあ？美里ちゃんにしては靴がでかいな。

祖母：蓮花のクラスの同級生よ（＾＾）。

祖父がリビングへあがってきた。

祖父：お？男の子か？蓮花の彼氏か？（＾＾）。

蓮花：ちよっ！じいちゃん違うから！

瀬野：はじめまして！こんにちは。

祖父：そっかそっか。蓮花が男の子をつれてくるのは2回目か？（＾＾）。

瀬野：（・・・2回目・・・）

蓮花：ばあちゃんが呼んだの！偶然会ったの！

祖父：そっかそっか（＾＾）。1度目は田中くんだったよな。確かに中学生の時、蓮花が倒れて家まで連れて帰ってくれた子だ。その時は美里ちゃんも一緒だったか。

瀬野：（・・・ほっ・・・ん？なんでほっとしてんだ？）

祖母：あ、瀬野くん、コンビニで買った焼きそばは私に頂戴！うちでも焼きそばを作るから！うちの焼きそばはコンビニよりおいしいわよ（＾＾）。

瀬野：はい・・・頂きます。

瀬野は蓮花のばあちゃんといじいちゃんの温かさに顔がほころんだ。

蓮花：ばあちゃん、あたし手伝うよ。

そういうと、蓮花はキッチンの方へ向かった。

祖父：いやあ、瀬野くんかあ、あの子は学校で男の子と話せてるか？

瀬野：いや・・・あまり・・・だけど本人はがんばってるみたいで
す・・・。

祖父：そうかあ、蓮花が小さい時に母親は病気で亡くなってなあ、
その後息子が1人で育ててたんだが・・・息子も精神的ショックも
大きくて・・・子育てできる状態じゃなかったんだ。その時息子には
あいつを支えてくれる人がおったもんだから・・・事態が悪化せん
うちに、蓮花だけはうちで預かる事にしたんだけどな、

どうも蓮花の中では捨てられたという風にしか受け止められてない
んだよ・・・。それからかなあ・・・学校で男の子と喧嘩ばかりし
だしたのは・・・。

瀬野：・・・そうですか・・・。

そう言いながら祖父は本棚に手を伸ばし、古いアルバムを開き始め
た。

祖父：これ蓮花の小さい頃のアルバムなんだけどな・・・お、これが小学４年生、うちで預かり始めた頃の写真だな。この頃はおてんばでね、転校したてで男子と喧嘩ばかりして、何度か学校に呼ばれたぞ（笑）！

瀬野と祖父は笑いながら話しをした。しばらくして・・・。

祖父：それとなあ・・・。

蓮花：つちよつと！！じいちゃん！！あたしのアルバム！！

瀬野：ハハハハ！！

蓮花：もー！！何で見せるのよ！！瀬野も笑ってないで食べて早く帰れ！！

祖母：あんた！！何て事言うの！！謝りなさい！！

蓮花：・・・ごめんなさい・・・。

瀬野：ぶくくつ・・・いいよ。

テーブルの上に鉄板と、お好み焼きの材料と焼きそばの材料が並んだ。みんなでワイワイ焼きながら食べ始めた。

瀬野：お！うまい！！こんなうまいお好み焼き食ったことないっす！

祖母：でしょ？私の得意料理なのよ（＾＾）。

瀬野くんて男前だし優しいわねえ。

瀬野：・・・いや。。。

蓮花：ちよつと誉めすぎじゃない！？

瀬野：誉めすぎてどういう意味だよっ！？

祖父、祖母：ハハハハ！ねえ。

時間は刻々と過ぎ、蓮花は後片付けをしていた。

祖母：瀬野くん、あの子言葉きついだよ。

瀬野：そんな事ないですよ（笑）、あいつ・・・いや木内は・・・確かに男子嫌いで、接し方最初戸惑ったけど、向き合ってちゃんと話すれば、あいつ実直で嘘がないし、優しいですよ。

祖母：・・・そう。ありがとね。

祖母は瀬野が蓮花をちゃんと見てくれている事に安心して、嬉しかった。

祖母：あの子よく誤解されるのよ。不器用だし鈍感だしね〜（笑）

瀬野：アハハ！

祖父：そろそろ帰らんといかんよな。蓮花〜、瀬野くん玄関まで送ってやれ〜。

蓮花：はあい。

祖母：瀬野くんまた来てね（^^）。

瀬野：はい！今日は本当にごちそうさまでした！

祖父：いいえ〜。

蓮花：あたしちょっとそこまで行ってくる。

そういうと、瀬野と蓮花は玄関のドアを閉め、少し歩いた。

蓮花：瀬野今日ありがとね。2人ともすごい楽しそうだった・・・
あの・・・うち両親がさ・・・

瀬野：あー・・・じいちゃんに少し聞いた・・・2人とも本当に優しいな・・・

蓮花：ありがとう。

瀬野：・・・また明日学校でな！

蓮花：うんまた明日！

家では・・・

祖母：ねえ、蓮花あんな風に男の子と話せたのねえ。

祖父：おお、いい青年だったしなあ。男子と喧嘩してないか心配だった^が、大丈夫そうだな・・・安心したよ。

祖母：あの子鈍感だから・・・そこだけねえ。

第13話：蓮花の今（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第13話：蓮花の今

瀬野：昨日木内ん家行ったよ。つか、コンビニ寄った先で偶然ばあさんと木内に会って招かれたんだけどな。

美里：ほおんとく、咲さんらしい（〓ハハ〓）。建三^{ケンゾウ}さんも優しくかったしょ？

瀬野：ああ。すげ優しくかった。

2人は教室で話しをしていた。するとそこへ・・・

蓮花：おはよう。

瀬野、美里：噂をすれば！おはよ！

瀬野：昨日はどうもなあ！

蓮花：ううん、こっちこそ。

美里：咲^{サキ}さん達喜んでたつしょ？

蓮花：うん、なんかあたしが結構普通に？瀬野と話してたからか？
ちよつと安心してた。

するとクラスメイトの高橋が瀬野を呼んだ。

高橋：瀬野、この前の球技大会の時の女子がまた呼んでるぞ。

瀬野：は？何で？

高橋：ん〜、何かも一回聞いてほしいだと。

瀬野：はあ？・・・

美里：お〜お、あの子確か球技大会の・・・

瀬野は席を立ち、2組の女子と教室を後にした。

高橋：羨ましいなあ瀬野・・・チクショウ！！

美里：まあまあ、落ち着きなさい。

蓮花：なんか凄いな瀬野。

美里：ん〜、こればかりはねえ・・・。

そついう話をしていると瀬野が帰ってきた。

高橋、美里、蓮花：早！！！！

美里：・・・で？

高橋：・・・で？

蓮花：・・・。

瀬野：？あ？何だよ。

高橋：いいなあお前！！！！

瀬野：どこがだよつ。

教室のドアが開いた。

矢崎（担任）：よし、SHR始めるぞ。

美里、高橋、蓮花：・・・。

瀬野はそれ以上何も言わなかった。

その日の放課後、蓮花は教室に誰もいなかったので、観葉植物に水をやっていた。するとそこへ・・・

瀬野：・・・毎日やってんの？

蓮花：あ、瀬野っ。毎日やる訳ないじゃん！やったら腐るし・・・。

瀬野：そうか・・・お前以外な所だらけな。悪い奴じゃないのはすぐ解ったけど、近寄るなオーラすげえし、話せば結構抜けてるわで・

蓮花：そ？・・・瀬野ってさ・・・父子家庭なんだね。寂しくないの？

瀬野：あ？もう慣れたなあ。兄ちゃんが母親と住んでんだよ。たまに会うし。寂しかねえよ。

蓮花：そっか・・・ごめん立ち入った事聞いて・・・。

瀬野：いやあ、俺様に興味が出てきた良い証拠じゃねえかあ？

蓮花：・・・？ああ、そうだねえ。そういえばあたし普段こんな話聞かないね（笑）。とくに男子に・・・（笑）。

瀬野はちよつとびっくりした。

瀬野：認めるのかよ！！

蓮花：え？認めるって何が？興味？・・・気になってたから聞いたけど・・・。

瀬野：そそ・・・そっか！！

蓮花は何でそんなに瀬野がびっくりしているのか、不思議だったが正直に答えた。

蓮花：そんなびっくりする話なの？

瀬野：いや・・・何か俺！格好悪・・・。

蓮花の言動にいちいち動揺している自分にそう思ってしまった。

蓮花：瀬野の事、格好いいなんて思った事ないから（笑）別に格好悪いもないよ。

瀬野：（グサツ）どういう意味だよ！！

瀬野はまた動揺した。

蓮花：アハハ、瀬野は・・・なんだかんだで私は瀬野とこうやって話しできる様になるくらいまで距離とってくれるし。優しさの押し売りしないし。きつつい言葉言っても本当にへこたれないでくれるし、やっぱり優しいや。ありがとね。

蓮花は笑顔で言った。

瀬野：・・・。

蓮花の笑顔を見て、瀬野はまた動揺した・・・自分の気持ちに気が付き始めていたと同時に蓮花とのこの距離感が保てるか自信が無くな

り
つ
つ
あ
っ
た。
。

第14話：田中の誤解（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第14話：田中の誤解

美里：次選択、あたし楓と音楽だから行くね。

クラスメイト
楓：蓮花ちゃん行ってくんね（、、）。

蓮花は美術を選択しているので準備をしていたら廊下から蓮花を呼ぶ声がした。

田中：おっす。木内。

蓮花：田中くん！

田中：美里から聞いたよ、文化祭。

蓮花：そうなのよ、自分もまさかメイド姿になるなんて考えてなかったからビックリだよ（笑）。

田中：4組はクレープ屋だよ。

蓮花：いいなー。次田中くんも美術だね？・・・よいしょと・・・。

蓮花は荷物をまとめると教室を出て田中と美術室へ向かおうとした。すると後ろから瀬野に呼び止められた。

瀬野：おい、美術か？

田中：おー瀬野、お前選択何？

瀬野：俺は体育だ。

田中：おれら美術。そいや始業に遅れんぞ。急ぐか。瀬野体育頑張れよ。

瀬野：！！おうつ。

高橋クラスメイト：瀬野くグラウンド行くぞー（＝＾　＾＝）。

瀬野：わかってるよっ！

クラスメイト

高橋：お前また何か怒ってんのかよ、。最近多いな！。

瀬野：怒ってねーよ！

クラスメイト

高橋：怒ってんだろ、がつ、！

美術室ー

橋口（先生）：えっと、今日はカップの絵を鉛筆で書いていきます
ー。鉛筆で影やー・・・

授業が始まった。

田中：瀬野っていい奴だな。

蓮花：瀬野？ああ、いい奴だよ（笑）。

田中：・・・木内は俺にちゃんと本音で話せてるか？

蓮花：田中くん！？勿論。てゆか、話す前に田中くん悟ってくれてる感じだから言わなくても良くなっちゃう感じだけど。だからいつも感謝してる。

田中：そか。

蓮花：中学ん時から助けられっぱで・・・

田中：助けてねえよ。俺がそうしたくて、してる事だから助けられてると思うな・・・

蓮花：ありがとう。

蓮花は田中を見て笑った。

田中：やっぱり木内は笑った顔が一番可愛いな。

蓮花：え！！！！なんか男の人からそんな事言われた事無いからビツクリなんですけど！

田中：俺・・・男か・・・？

蓮花：え？男子じゃなかったら新たな発見だけど・・・

田中：！！いや！そっちじゃねーよ！

蓮花：それならそれで受け止めるよ・・・

田中：だから！そうじゃねーからっ！

蓮花：アハハハ。中学ん時からさ、あたしの男子苦手なのコッソリ受け入れてくれて接してくれてたでしょ？だから今度はあたしの番かと思っで。

田中：なんだよそれ！

蓮花：だって理解者必要でしょ。だからあたしも田中くんと話す事ができたしっ。

田中：え？

蓮花：？あれ？・・・悟ってくれてるって勝手に思ってた・・・。

田中：なんだ・・・そうなのか・・・なんだ・・・そうか・・・そうだったんだ・・・。

蓮花：？・・・。

田中：俺の勘違い・・・。

美術を終えて2人は教室へ戻った。

瀬野：おい木内、美術は楽しかったか？

蓮花：ハ？まゝ絵を書くの好きだから楽しかったけど・・・。

瀬野：ふーん。

蓮花：何かあんな変。

美里：ねゝ瀬野ー、文化祭のメイドとボーイの衣装どうするよー？

瀬野：借りるしかねーだろー。

美里：だよなー、衣装見に行くか。

瀬野：おお、俺いつでもいいぞー。

美里：了解、バイト無い日は．．．明日？

瀬野：おゝ了解！

美里：えっと、私とアホ瀬野だけじゃ不安だから、蓮花もね！

蓮花：え？別にいいけど。

美里：サンキュー！じゃ明日ー！

瀬野：おい．．．アホ瀬野って聞こえたぞ．．．

第15話：好きだ（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第15話：好きだ

美里：瀬野、帰れる？

瀬野：おー衣装だろう？木内は？

美里：職員室呼ばれたから靴箱先行ってる。

2人は靴箱へ向かうと、蓮花が待っていた。

美里：ごめん、蓮花長く待った？

蓮花：ううん。どんなの借りるか決まってるの？

美里：やっぱりミニがいいよね、女子はっ、男子はー…考えてない。

瀬野：おいつ、男子は下は制服でいいだろ。あとはベストとネクタイか。

美里：1時間おきに、男子2人と女子2人で表に出る感じだから、S、M、L各2着ずつありゃー大丈夫だよな？

そんな話をしながら歩いていると、コスプレショップに着いた。外観からドピンクで、キラッキラしたシヨップだ。

瀬野：俺入るのかなり抵抗あるぞ・・・

美里：うわゝ初ショッピングうゝ！

3人はショッピング内に入って、衣装を探した。

美里：ね、やっぱ黒にレースで頭のリボンは白って感じじゃない？
男子は、女子とおそろにしてえ、この黒のベストと蝶ネクタイ！

蓮花：・・・すごいね・・・メイドだー・・・。

瀬野：おー！いんじゃないか！それ！

美里：なんで店内入って、急にテンション上がったんのよつ。

蓮花：・・・。

瀬野：普通だろっ！木内、普通だよっ普通！

蓮花：あたし何も言っていないし（――；）・・・。

美里：はい、蓮花。はい、瀬野。

美里はメイド服を蓮花に、ベストと蝶ネクタイを瀬野に渡した。

瀬野、蓮花：は？

美里：（ニツコリ（*^|^*））

瀬野、蓮花：は！？

美里：試着 お・ね・が・い

蓮花：あんた・・・最初からそれが目的でしょ・・・（-_-;）。

美里：だあって、着たり選んだり大変じゃあん！後でマックおごるからさあ！お願い！！！！

蓮花：やる！！

瀬野：マックそんなに好きなのかよ・・・（-_-;）。

そう言つて試着室に瀬野と蓮花は入った。

蓮花：美里！着替えたよ！

試着室のカーテンを開けた蓮花を見て、美里は驚いた。

美里：・・・ちよゝ可愛い・・・。

美里：やっぱいコレ当日行列かぁ？・・・あれ？瀬野まだ？

すると瀬野が試着室のカーテンを開けた。

美里は瀬野を見た。

美里：瀬野、顔赤い。

瀬野：うるせー！！！！

美里、蓮花：瀬野似合う！

瀬野は蓮花を見た。

少しカールのかかった長い黒髪で色白の蓮花にすごく似合っていた。

瀬野：！！！！

美里：やっぱりメイドはそれが一番かわいいよねえ。

瀬野：おい美里、やっぱりメイド・ボーイズカフェなんて止めねえか！！！！

美里：はあ？？クラス結構乗り気だったし今更無理しよ。あゝ、男子も女子に合わせるからそれに決定！

瀬野：！！

瀬野は蓮花のメイド姿を見て、当日の文化祭に対する妙な焦燥感を感じていた。

美里：店員さん、文化祭で借りたいんだけどこの服。

怪しげな髭を生やした、おねえ風のおじさん店員。

店員：あらあ、メイドカフェでもするのお？

美里：そうなの。各サイズ2点ずつ借りたいんだけど。

店員：今ねえ、他の高校にLサイズ貸しちゃってるのよお。来週には戻ってくると思うから、水曜日ごろには用意できると思うけど。

美里：ああ、大丈夫。じゃあ来週取りにきます！

レンタルの手配を済ませ、3人はショップを後にした。

それから、約束通りマックに入り食事していると美里の携帯が鳴った。

美里：はいはい美里・・・

美里はしばらく話しをすると電話を切った。

美里：ごめん、今から急遽バイト来てくれて・・・！！ああ！私のポテトがー！！！！

瀬野：そっちかよつ。

蓮花：・・・。

美里：蓮花、ごめん！！！！

蓮花：ううん、いいよ。仕方ないし。

美里：瀬野！！これ！！あたしのポテト（泣）・・・。

瀬野：ああ、大事に食ってやるよ。頑張れバイト。

美里：じゃ、また明日ね！

瀬野、蓮花：また明日あ。

そいうと美里はバタバタとバイトへ向かった。

瀬野：・・・おい、俺と2人だけ大丈夫か？大丈夫じゃなけりや、持ち帰るぞ？

蓮花：・・・（笑）大丈夫だよ。

本当は少し不安な蓮花だったが、瀬野の言葉に少し安心をした。

蓮花：ていうか、大丈夫じゃないって言えくない？

瀬野は少し笑って、少し真面目な顔で答えた。

瀬野：最初に全部言えつつたろ。無理すんな。俺はお前が何言ってもへこたれねえよ。

そういつと、瀬野は嬉しそうにまた食べ始めた。

蓮花：ありがとう。

蓮花は安心して食べ始めた。

瀬野：お前そんなマック好きなのか？

蓮花：え？超好き！

蓮花は口角の横にケチャップをつけながら笑って答えた。

瀬野：おい、ケチャップついてるぞ。

蓮花：！！

蓮花は慌てて口を吹いた。瀬野は最初の近寄るなオーラを放っていった頃の蓮花を思い出して、少し噴出した。

蓮花：マツク嫌い？

瀬野：・・・いや・・・好きだ。

瀬野は蓮花を見て言った。

蓮花：（笑）マツク嫌いな人いないか（、、）。

瀬野：・・・。

第16話：慣れる（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第16話：慣れる

美里：昨日あの後大丈夫だった？

蓮花：うん。

美里：蓮花さ、なんだかんだで瀬野には慣れた？

蓮花：うん、よくわかんないんだよねえ。構えないでいいように前もって色々聞いてくれるからさ、変に気は使わなくて大丈夫になるっていうか・・・今までそんな人、周りにいなかったから不思議まあ、周りつつつても男子と話さないから比べる術がないんだけどさ・・・。

美里：まあ、あんた男子寄ってた時の眉間のシワすごいもんねえ。そこの登竜門を通ってからの・・・だから貴重な男子だねえ。田中も瀬野も。大体最初でフェードアウトするもんな。

蓮花：ハハハ・・・自分家の事があって妙に苦手意識持つちゃってそれからというものの、避けてたら急に怒られたり・・・そしたらもうどう接していいかまで解なくなっちゃった。そしたらいつの間にか自分の方がキツイ言葉放つようにまでなっちゃって・・・したら大体みんな腫れもの触るみたいに避けるようになって・・・当然だけど・・・言わないで済むから、いつの間にかそっちのが楽になっちゃって・・・。

美里：・・・慣れるよ。きつと。

蓮花：だといいいけど・・・瀬野や田中くんみたいに、あたしが男子

嫌いなのが解つてて接してくれる人は、勝手に理解者みたいな感じがして少し安心すんだ……。最初瀬野が思ってる事全部言えって言ってきた時は焦ったけどね。

美里：焦った？

蓮花：うん、あたしがずっと避けてきた所だったから……。

蓮花：美里もありがとね。

美里：あたし？

蓮花：変に気を使って、あたしを守ろうとしない所がすごい有難いの。だけど、なんだかんだで空気呼んでくれてるし。

美里：へへへ。何かあったら言ってきた。基本あたしその姿勢なの知ってっしょ？

蓮花：うん。優しい。へへへ。

2人が話しているところへ瀬野が入ってきた。

瀬野：おおい、昨日マックごちそうさまあ！ポテトすんげえ旨かったぞお！

美里：大体何であんたまでゴチになってんのよ！！蓮花は別として！！

瀬野：ハハハついでだよ。ついで。

蓮花：瀬野マツク好きなんだってさ。

瀬野：・・・ああ！好きだよ！マツクもな！！

蓮花：ファーストフード全般好きなのね！（笑）。

瀬野：・・・。

美里：まあいいけど。てかね、文化祭のカフェさあ、男女ペアで4人ずつ表でるじゃん。勝手に決めていいよね。

瀬野：まあ、仲良さそうな奴ら同士で組ませて、男子と女子は別勝手にペアにすればいいんじゃない？お前と木内はペア だろ？

美里、蓮花：そうだね。

瀬野：おい！高橋！お前文化祭のカフェ、俺とペア な！

遠くにいた高橋に瀬野が言った。

高橋：？よくわかんねえけど、いいぞ（＾＾）！

瀬野：おい！お前らは俺らとペアな！！！！

美里、蓮花：？は？

美里：・・・（ははあん・・・監視か・・・笑）。いいけど、別に。あたし達のメイド姿に鼻血ださないでよねえ。

美里はニヤニヤしながら答えた。

瀬野：出すかつ！！何だよっお前のその顔は！！

美里：べっつにいゝ

蓮花：？瀬野と組めば女子多そうだからむしろいいけど。

瀬野：お！！決まりな！！

美里：瀬野、あんた来週の水曜、メイド服取りに行つてね。

瀬野：！！おま・・・！！1人で行けるかあんな所！入ったら目立つだろ！！

美里：えゝ？あんなにテンション上がったじゃなあい。今更あ？

瀬野：アホ！お前も行けよ！

美里：あたしバイトがさあ、次の日とかでもいんだけどねえ、取り置きつてのができないんだつてえ。

瀬野：わざとバイト入れてないかお前・・・・おい、木内、お前付き合えよ・・・。

瀬野が蓮花を見ながらダメ元で聞いた。

蓮花：いいけど別に。

瀬野、美里：…………。

2人は蓮花が嫌がらなかった事にビックリした。

蓮花：？

瀬野：嫌じゃないのか？

蓮花：…………え？瀬野と行くのがって事？…………ああ、そうか…………。

蓮花は目をつぶってしばらく考えて…………

蓮花：うーん…………大丈夫。

瀬野：…………そ…………美里！！バイト頑張れよ！！

美里：あんだね…………、ま、助かるからい…………宜しくねえ。

第17話：自肅（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第17話：自粛

美里：蓮花、今日の放課後本当に大丈夫？ごめん！委員私なのに！
！頼んじゃって！

蓮花：ハハハ。いいよ別に。

美里：今度埋め合わせするね。

放課後

瀬野：おい木内、帰れるかあ？

蓮花：帰れるー、じゃあ行こうかあ。

瀬野：おう！

2人は教室を後にした。

2組の前を通り過ぎようとした時、蓮花は2組の女子と目が合った。すぐ目を逸らされたが、球技大会の時に顔を見ていたので、瀬野に以前告白をした子だとすぐに解った。

蓮花：……。瀬野さあ。。。

瀬野：あ？

蓮花：あんたモテるのに何で彼女いないの？

瀬野：・・・モテるのと彼女いるのってイコールなのか？

蓮花：・・・違うの？

瀬野：違うだろ。選択肢が増えるとかって解釈か？・・・俺の選択肢は1つしかねえよ。

蓮花：ああ、そうかあ。そうだよねえ。色んな人から好きになられても自分が好きじゃなくちゃダメだよねえ・・・。

瀬野：・・・。

そんな話をしながら、靴箱を出てグラウンドを横切りながらシヨップへ向かった。グラウンドではサッカー部がまた練習をしている。

佐藤（田中のクラスメイト）：あれ？あれまたイケメン君と蓮花ちゃんだ。

田中：・・・。

佐藤：・・・田中！練習の続きすんぞ！！

田中：ああ・・・。

田中は2人を見て、今までに感じた事が無いような焦燥感を感じていた。

・
・
・
・

蓮花：やっぱさ、瀬野とこうして話すんの慣れてきた。

瀬野：お！いい傾向だな！

蓮花：うん。最初は本当に苦手だったけどね。避けて通ってきた道だったから・・・。

瀬野：そんな苦手だったのか・・・？

蓮花：だってさ、下手したら自分だけならともかく瀬野も傷つけて共倒れだよ？そんな危険な賭けできないでしょ。自分の問題で他人を利用できないと思ったし・・・だから何回も聞き飽きてるだろうけど、ありがとね。

瀬野：・・・よし！！じゃあ本当に慣れたか手でも繋いでみるか！！

蓮花：それは無理（即答）。

瀬野：そ・・・冗談だよ。

蓮花：アハハ。

そんな話をしながら2人はコスプレショップについた。

店員：あらあ、この前のお2人さん！今日は赤毛の元気なおじょうちゃんはいないのねえ。

瀬野：（美里の事か・・・）ああ、バイトらしいです。

店員：ところで、お2人さんて、美男美女のカップルさんねえ。

蓮花：カップルじゃないです！

瀬野：・・・。

店員：あらそうなの？お似合いなのにい。

瀬野：あ、衣装！・・・衣装！借りていきます！

瀬野は少し照れながら店員に言った。

店員：はいはい。

文化祭の衣装を借り、2人はショップを後にした。蓮花が最初にショップを出た。すると後から慌てて瀬野が・・・

瀬野：おい、俺持つよ。

蓮花：え？大丈夫だよ、結構軽いし！

蓮花は後を振り返りながら瀬野に答えた時、足をグラつかせて転びそうになった。

蓮花：え？

瀬野：おい！

同時に瀬野が蓮花の腕を引っ張り自分の方へ抱き寄せた。

瀬野：・・・。

蓮花：・・・。

瀬野は、蓮花を抱き寄せたまま・・・

瀬野：・・・ふうつ。

蓮花はパツと瀬野から離れた。

蓮花：ご……ごめん！

瀬野：あ、いや……ほらな！！だから俺が持つって言ったろ！かせつ。

蓮花：はい……。

蓮花は衣装を瀬野へ渡した。

2人は少し緊張したまま帰りの道を歩いた。

瀬野：なあ、木内。

蓮花：？

蓮花は瀬野の方を向いた。

瀬野：いや……さっきさ、俺が傷ついたら共倒れって言ってたけど……俺、何度も聞き飽きてるかもしれないけど……俺、傷つかねえから。だから俺に何か言ってお前も傷つく必要ねえよ。

蓮花：うん。聞き飽きた。

蓮花はクスリと笑みを浮かべて言った。

瀬野：・・・家まで送ろうか？

蓮花：ううん、大丈夫こつから逆方向だよね。また明日ね！

瀬野：・・・ん、また明日。

瀬野は蓮花の後姿を見送り、彼女を抱き寄せた時の自分の両腕を眺めた。

瀬野：俺、自粛できる自身全然ねえ・・・。

瀬野は独り言を言いながら歩き出した。

第18話：それぞれの思い（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第18話：それぞれの思い

美里：蓮花昨日ありがとねえ！衣装。大丈夫だった？

蓮花：うん、大丈夫だったよ。ちゃんと全部あったから良かった。

2人が廊下で話をしていると、田中と佐藤が話かけてきた。

田中：おっす。

美里：おっす！コスプレの衣装借りたよ昨日！当日楽しみにしててねえ！

田中：おゝまじか！加藤、こいつ佐藤な。木内は2度目だよな？

蓮花：確か垂れ幕作成の時に・・・

美里：あたし美里！加藤でも美里でもどっちでもいいよ！宜しくね！

佐藤：じゃあ、美里ちゃんで！3組メイドカフェだって？楽しみだなあ

美里：ううん、メイド・ボーイズカフェね・・・。

佐藤：あ、そつかあ、ボーイズもあつたねえ（笑）。そういえば、蓮花ちゃんさ、昨日3組のイケメンくんと一緒に帰ってたね。部活してたら見かけてさあ、蓮花ちゃん男子苦手って噂で聞いてたのに

珍しいなあと思ったんだよねえ。あ、俺も男子なんだけどね（笑）。

蓮花：（蓮花ちゃん・・・）・・・・あ・・・衣装を借りに・・・。

美里：・・・私の代理い（^^）　バイトだったんだもん　頼ん
じやったの〜！

田中：・・・だから昨日瀬野と帰ってたのか・・・。

尾崎（4組の担任）：田中〜！ちよつといいかあ？

田中が担任の尾崎から呼ばれた。

田中：ああ、ハイ！・・・じゃ、またな！

そう言うとき田中は尾崎の方へ走っていった。

美里：佐藤くんって人懐っこいね。

佐藤：佐藤でいいよ。ていうか2人ともかわいいよねえ。

美里：あ・・・ありがとう。

蓮花：・・・。

3人がそのまま話をしていると、女子が蓮花を呼んだ。蓮花がその女子の方を見ると、瀬野に思いを寄せている2組の女子、矢野美咲とその友達、安藤美香だった。

矢野：あの、木内さん、ちょっといいかな・・・。

蓮花：・・・ハイ・・・。

美里：・・・。

蓮花：美里、あたしちょっと行つてくんね。

美里：・・・解った。

すると美里は教室にいた瀬野と目があつた。瀬野は教室からでてきて美里に聞いた。

瀬野：おい、なんだ今のは？

美里：蓮花が呼ばれた・・・多分、あの子の事だから大丈夫だとは思う。

瀬野：そっか。

そついうと瀬野は蓮花達が行った方へ歩いて行つた。

美里：・・・。

佐藤：美里ちゃんも大変だねえ、色々。

美里：え？

佐藤：いいやあ、こつちの話だけ・・・。

渡り廊下

矢野：あの・・・木内さんで・・・昨日、瀬野くんと帰る所見たんだけど、2人は付き合ってるのかな！？

蓮花：は！？いや・・・付き合っていないけれど・・・昨日は文化祭の貸衣装を取りに行ったけど・・・。

矢野：あ、そうなんだ！あの、ごめんなさい、急に！

蓮花はなんとなく自分が呼ばれた理由が解ってきた。

蓮花：あの、あたし、こういうのよく解んないけど・・・直接本人に聞いた方がいいと思う。

矢野：・・・。

蓮花：あいつ、聞けばちゃんと応えると思う。

矢野：だけどあたし、もう2度振られてて、なんか聞けなくてっ！

蓮花：事情は知らないけど、瀬野は・・・こういうの嫌いだと思う・
・もう行っていい？

矢野：・・・うん・・・あの！！

蓮花：？

矢野：木内さんは瀬野くんの事好きなのかな！？

蓮花：・・・。。。

その時、瀬野は渡廊下で壁越しに話を聞いていた。なんとなく動けず
にいたが2人に話掛けた。

瀬野：あれ？木内こんな所にいたのかあ。美里呼んでたぞ。

蓮花：瀬野・・・美里が？

矢野、安藤：・・・！！

瀬野：行くぞ、木内。

蓮花：あ・・・うん・・・。

瀬野は先に歩き出した。

蓮花：この事は言わない・・・。

蓮花は2人にこう言い残して瀬野の方へ向かった。

瀬野と蓮花は3組へ向かった。蓮花はさっきの質問が頭にずっと浮かんでいた。

美里：あ！帰ってきた！

蓮花：美里、呼んでたって？

美里：は？（はっ！）あー・・・そうそう！呼んだのよお！呼んでた！

蓮花：？どうした？

美里：ええっと、もう忘れちゃった！

蓮花：なにそれえ！（笑）あたしトイレ行ってくるねえ！

美里：うん！いつてらっしゃい！

美里は瀬野の顔を見て、察してそう答えた。

瀬野：．．．あいつ多分俺に言わねえよな．．．。

美里：言わないだろうね。あたしが蓮花でも言わないもん。モテる男はつらいねえ．．．。

瀬野：俺が周りにいて、あいつに迷惑かかるのか．．．？

美里：ねえ、あんたズレてるよ。そう思うかどうかは蓮花が決める事だし、あんたが蓮花のそばに居たいと思うんなら居ればいいと思うけど？勝手に妄想して勝手に決められたら蓮花の気持ちは無視じゃん。大体あんたでしょ？思った事は全部言えていったのは。蓮花はそういう約束破る子じゃないよ。あんたが真っ直ぐぶつかった分、真っ直ぐ返すよ。らしくないわねえ、どうしたのよ！！

瀬野：．．．お前．．．いい奴な．．．。

美里：どうせなら、いい女って言うてくれない！！

瀬野：．．．．．。

美里：言葉に詰まるんじゃないわよ！！

瀬野：アハハ！サンキューな！！

女子トイレ

蓮花：（（矢野：木内さんは瀬野くんの事好きなのかな！？）．．．

答えそびれたな・・・考えた事もないけど・・・
(

第19話：意外な告白（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第19話：意外な告白

蓮花は職員室にS H Rの資料を取りにきていた。

瀬野：おゝ、木内おつす！

蓮花：おはよゝ。

瀬野：今日の放課後から文化祭の準備だろ？お前今日来るのか？

蓮花：まだ決めてない。

瀬野：来いよ。お前いた方が楽しいだろ。

蓮花：あたし？・・・あたしいた方が楽しいの？

瀬野：俺はな。

蓮花：・・・そう・・・じゃあ・・・残ろつかな・・・。

瀬野：放課後な！

蓮花：（男子にとってはあたしは盛り下げ側だと思っけど・・・）

放課後

クラスで文化祭の装飾品を制作し始め、瀬野はクラスの男子とワイ

ワイ話をしていた。

蓮花：（今まで気にしなかったけど、瀬野って女子にモテる割にはあんま女子と話してる所見ないよね・・・だから余計矢野さんもあんな必死に聞いたのかな・・・）

美里：あー！！ガムテープ切れたー！

蓮花：あ、あたし売店で買ってくるよ。

美里：ありがと！頼むわ！

そう言うつと蓮花は教室を出て1Fの売店へ向かった。

瀬野：美里、木内はどこ行った？

美里：ガムテ切れたから売店行った。

瀬野：そっかあ。

1F売店ー

売店でガムテを購入した蓮花が教室に戻ろうとしていると・・・

田中：木内、何してんの？

蓮花：田中くん！これ？文化祭の準備。

田中：そうか・・・。

蓮花：田中くんは部活もう終わったの？

田中：いや今から・・・木内見えたから、ちょっと抜けてきた。ちよつと・・・いいかな・・・。

蓮花：うん。

田中：あのさ、あの・・・俺さ・・・木内の事、最初すげえ不器用な奴なんだろうなと思ってずっと見てたんだ・・・けどな・・・木内と接していくうちに、気づいたらほつとけなくなってきた・・・

蓮花：あの・・・。

田中：・・・俺、中学ん時からお前がずっと好きだ。

蓮花：！！えっ！！

急な田中の告白に蓮花は驚いた。

田中：あの、だからってどうこうしたいとかそういう意味じゃなくて！木内の事助けたりしてたのも下心あってやってた訳じゃなくて・・・けど、話すキツカケは探してたかもしれない。

蓮花：うん・・・。

蓮花は、田中がみんなに優しいのは知っていたので、下心は無いと言葉で言われなくてもなんとなく理解できた。

田中：俺・・・ずっと木内は俺の事男として見てはくれないだろうなって勝手に思ってた。本当はこういう事言うのもすげえ迷ったんだけど・・・中学ん時みたいには、接する余裕もなくて・・・。

蓮花は真っ直ぐ田中を見て聞いていた。

田中：これから、また違った形で前に進みたいんだよ。

蓮花：・・・うん。

田中：男苦手なの知ってるのに、ごめんいきなり！！

蓮花：・・・ううん・・・あの・・・ありがとう。あたし、男子は苦手だけど、田中くんは中学ん時から苦手じゃないよ。ただ・・・なんか・・・急な事でビックリで・・・。

田中：俺、また告白するよ。そんな時、俺の事を男として好きになつてくれたら俺と付き合っただけいい。嫌われてなけりゃただけど・・・。

蓮花：・・・まさか・・・あたしこそ鈍くてごめんなさい・・・あの・・・新たに宜しく・・・ってこれでいいのかな・・・。

田中：うん！いい！

2人が話しているとマネージャーが田中を呼びに来た。

谷口（サッカー部マネージャー）：田中くん！監督呼んでる！！

田中：お・・・おうっ！

マネージャーはチラリと蓮花の方を見てグラウンドへ走って行った。

田中：じゃ、俺部活戻るわ。

そう言っつて、グラウンドへ向かった。

蓮花：あの、田中くん！部活頑張っつてね！

田中：おお！

田中が去った後、後から声がした。

瀬野：・・・ガムテ見つかったか？

蓮花：！！！！瀬野！！何でここに！？

瀬野：いや・・・遅えなと思って。

蓮花：あーごめん！もう買ったから、教室戻るよ！

瀬野：・・・。

2人はなんだかぎこちない空気のまま階段を上がって教室へ向かった。すると、蓮花が階段を踏み外しそうになった。

瀬野：おっと！

すかさず瀬野が蓮花の手を取った。

蓮花：フッフ！セーフ！

瀬野：よく転ぶなあ・・・。

瀬野が蓮花を自分の方へ引き寄せながら言った。

蓮花：ごめん、ありがとう。

瀬野は何か言いたそうな、聞きたそうな表情をしながら、蓮花の手を掴んだままだった。

蓮花：瀬野・・・手・・・。

瀬野：あ、おう！・・・。

瀬野はそつと掴んだ手を離した。

瀬野：・・・教室戻るか・・・。

蓮花：・・・うん。

第20話：パーソナルスペース（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第20話：パーソナルスペース

教室―

美里：あ、瀬野！おかえり蓮花く　　ガムテあった？

瀬野と蓮花は教室に戻って、瀬野は文化祭の準備を始めた。

蓮花：・・・はいガムテ。

美里：・・・？何か・・・あったの？

蓮花：あのさ・・・。

蓮花は田中に告白をされた事を美里に話した。

美里：っえー！！

美里は大きな声を上げた。

蓮花：っしー！！静かにつっ！

美里：ごめん、ごめんっ！・・・て事は、待つって事？

蓮花：・・・うんそう言ってた。

美里：そうか・・・（機が熟すまで待つのか・・・）・・・あれ？瀬野と会った後？

蓮花：ううん、田中くんとはばらく話た後に瀬野は来たよ。

美里：そっかー・・・。

蓮花：どした？

美里：ああ、ううん。蓮花、焦らないでゆつくし考えなね。何かあったらいつでも言ってきた。

蓮花：うん、ありがと。

そう言つと、美里は瀬野の方へ向かった。

美里：ちゃんとやってるー！？

瀬野：ああ、やってるよ・・・。

美里：（やつぱりか・・・ったく・・・）暗。

瀬野：美里よ、やっと普通に話をしてくれる様になった奴に・・・いや、なんでもね・・・。

美里：・・・何言ってるの？（解るけど・・・）

瀬野：いや、距離感を保てなくなったらどうするよ。

美里：んー・・・距離感でさ、傷ついた分大きくなるし、傷つかなくてもいい距離。自分を守る距離じゃないのかな。誰かがその距離に入ってくると、また傷つけられるんじゃないか？傷つけるんじゃないかって怖くなる感じ？だから難しいよね。

瀬野：・・・。

美里：これが例えば男女の場合さ、相手の間合いに入れるかどうかなんて、少しずつ近づいてかないと解んないよね。そうしないと傷が痛むと思っていたのに、実際は大丈夫だったかとかも解んないと思うし。だから保つ必要なんてないと思うけど。まあ、あんたがどんな距離感を大切にしているかわかんないけど、そんだけ一生懸命思っただけで接してるんだし、相手に伝わらないなんて事あるのかな・・・。

瀬野：おまえ・・・やっぱいい奴な。

美里：だあかあ、いい女ってどうせなら言っただけでいいよ！！

瀬野：・・・。

美里：言葉につまるなっつうの（、ハ、）！！

瀬野：ハハっ。サンキュ。

美里は蓮花の所に帰った。

蓮花：ねえ、美里大体こっちの看板は枠組み終わったけど次になにする感じ？

美里：あゝ・・・じゃ、瀬野らの方の装飾がまだだから、あっち手伝おうか。

蓮花：オッケー！

蓮花は返事をすると言飾の方を手伝いに行き、瀬野の横にストンと座った。

蓮花：どれから手伝う感じ？

瀬野：・・・。

大体今まで1mくらい離れて接していたのに、手で触れられるくらいの距離に蓮花が自分から座って、話掛けてきた事にビックリしていた。

蓮花：？・・・瀬野？

瀬野：！！は！？

蓮花：もう終わっ・・・た感じじゃないよね・・・？こんなに散ら
かってるしね・・・。

瀬野：や、これ！この、これ！ここに！つける！

蓮花：ぷっはははっ！あんたいつから韓国人？（笑）

瀬野：・・・まだ終わってねえし！

蓮花：わかってるし！

瀬野：・・・韓国人じゃねえし！

蓮花：わかってるし！

瀬野：・・・笑った顔かわいいし・・・。

蓮花：わかって・・・！！えっ！！

瀬野：プハッ！わかってんのかよ。

蓮花：ち・・・違うし！照れるしっ！

瀬野：ホントだし。

蓮花：！！・・・。

蓮花の心臓はすごい速さで動いていた。

第21話：変化（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第21話：変化

文化祭前日

クラスメイト

楓：美里ちゃん、看板こんな感じ？

美里：そおねえそんな感じでオッケー！

クラス全員がメイド・ボーイズカフェのセッティングをしていた。

蓮花：ねえ、美里、あたしら明日何時から何時に表出るの？

美里：なんだかんだでさあ、みんな盛り上がってるからさ、うちら12時〜13時に出ようかと思って。

蓮花：そか。なんでまたその時間なの？

美里：だってさ、みんなお昼どきだからカフェなんてこないっしょ？
丁度穴場かなあって思ってた。

蓮花：ほお〜頭いい〜 あたし装飾品取ってくるう〜

美里：でっしょお？ふふふっ宜しく〜

蓮花は装飾品を段ボールに詰めていたら、瀬野が寄ってきた。

瀬野：入口の分か？

蓮花：うん！

蓮花は一瞬昨日の瀬野の言葉が頭をよぎって、また動悸がした。瀬野も座り、段ボールに入口の分の装飾品を詰めだした。

瀬野：お前のメイド姿もいよいよ明日か。

蓮花：いやらしい言い方しないでよっ！

瀬野：健康な証拠だろうが！！

蓮花：どんな健康よ！

瀬野：こういう話する男子は嫌いじゃないんだろ？

蓮花：好きでも無いっていったし！

瀬野：なんだよ。俺好かれてねえのかよお。

蓮花：瀬野は……………（あれ？）……………。

瀬野：俺は？

蓮花：よく……………解んない。

瀬野：そっかー……先は長いなあー。

そう言うと、段ボールを持って入口の方へ歩いて行った。

蓮花：……。

蓮花は最初、瀬野が近寄ると、気持ちがザワザワしていたが、今は全くそれが無くなっている事に気付いていた。蓮花の気持ちを確認しながら接してくれていたので、怖かったはずの距離感に少しずつ慣れてきていた。蓮花の中で瀬野の存在が変り始めていた。というより既に……この気持ちが一体何なのかはこの時彼女はまだ知らない。

瀬野：おい！手伝え！

蓮花：（はっ！！）ああ、ごめんごめん。

ドアの付近に高橋は椅子に座りながら絵を描き、その周りを瀬野と美里と蓮花は飾り付けしていた。

美里：高橋、邪魔だよ、ちょっとそこどいて。

高橋：おいっ！俺も絵〜一生懸命描いてんだよ！>（、^、）<

4人が作業していると、部活を終えた田中と佐藤（田中のクラスメイト）が3組の前を通った。

田中：おー、様になってきてるな！。

瀬野：田中・・・。

蓮花：田中くん、部活終わったんだ。今から文化祭の準備？

田中：そ。過酷だわあゝ本当は家帰って寝てえ（笑）。

蓮花：アハハ！大変だね！

美里：田中！うちら明日12時から1時間表出るからね！見に来てよね！あたしたちの晴れ姿！（^^）。

佐藤：えゝ楽しみだなあ（^^）。

田中：見に来るわ！

瀬野：お前は来んな！

田中：何でだよ！

美里：まーまー落ち着いて。

田中：じゃ、準備頑張れな！

蓮花：そっちもね。

佐藤：じゃあね、美里ちゃん、蓮花ちゃん！

美里：じゃあねえ！

蓮花：・・・。

田中と佐藤は自分の教室へ戻って行った。

瀬野：（蓮花ちゃん！！！！？）なんなんだあの男は・・・！！

美里：田中の友達、で同じ部の佐藤くん（＾＾）。人懐っこいのよね。

高橋：まあた瀬野の機嫌が悪くなつてねえかあ？

瀬野：うるせつ！！

高橋は軽く頭を殴られた・・・。

高橋：いてえ！！＞（、＾、）＜

美里：・・・大丈夫かな明日・・・（――）。はあ・・・。

瀬野：お前も蓮花ちゃんとか呼ばれてヘラヘラしてんな！！

蓮花：っはあゝ！？してないし！！

瀬野：何であいつは名前で呼んでんだよ！！馴れ馴れしいな！

蓮花：しらないわよっ、美里もあたしも最初からちゃん付だったし！どっちで呼ばれても別にいいでしょ！

瀬野：じゃあ俺が蓮花でも大丈夫なのか！！

蓮花：大丈夫だよ！！

少し間を置いて・・・

瀬野：え？大丈夫なのか。

蓮花：え？あんた美里は美里でしょ？大体なんであたしは木内なのよ。そっちのが不自然じゃない？

瀬野：・・・そ・・・そうか・・・。

高橋：木内はー・・・名前で呼べない雰囲気があるつつうかあ・・・。

また高橋は軽く瀬野から殴られた。

高橋：いてえ>(^、^)<！なんなんだよ・・・。

美里：よしよし・・・（笑）。

美里は高橋を笑いながら慰めた。

美里：じゃあ、今日から名前で呼べばあ？考えてみたら変よねえ。

美里はニヤニヤしながら言った。

蓮花：蓮花^{レンカ}でいいよ別に・・・。

瀬野：・・・・・・れ・・・！！急に言えるか！！

美里：はあ？

瀬野：・・・・・・蓮花^{レンカ}。

蓮花：はい。

瀬野：！！・・・。

瀬野は大分照れながら言った。なんだか蓮花は嬉しかった。

第22話：文化祭（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第22話：文化祭

美里：メイド・ボーイズカフェオープンです！中へどうぞ！

3組！

『いらっしやいませえ！ご主人様あ！』
『いらっしやいませお嬢様！』

メイド・ボーイズカフェがオープンした。瀬野は委員なので裏方の手伝い、美里は入口で誘導をして、蓮花は入口を手伝っていた。

瀬野：おい・・・すげな・・・。

瀬野が裏方でカフェの様子を観察していると・・・

クラスメイト
楓：コーラ2つと珈琲2つ！

クラスメイト
桜木：やっぱ萌えるなあ！メイド姿あ！

瀬野：おいつ、見てねーでお前も働けつ。

桜木：ほいほーい！

瀬野：楓、はい珈琲！

楓：サンキュ！あとコーラね！

楓：ご主人様あ、珈琲お待たせしましたあゝ

美里は誘導をしながらカフェを覗いた。

美里：反響すくくない？つうか隣がクレープ屋だから相乗効果で入
ってる感じだよね。3、4組、人すごい。

蓮花：だねー・・・つうか並んでるよー・・・。

メイド・ボーイズカフェは4組のクレープ屋との相乗効果で大盛況
だった。

瀬野：今どんな感じだ？ちよつとは落ち着いたか？

美里：朝よりは少しね。

瀬野：そか（ホッ）。

楓：美里ー！美里らもう直ぐ出番でしょ？案内変わるよ！

美里：ありがと！頼むね！

美里：じゃ、うちら着替えようか！

蓮花：うん！

瀬野、高橋、美里、蓮花は準備に入り、美里と蓮花は着替室で着替えた。

蓮花：美里似合う！なんかエロかわいいー！

美里は身長160cm、肩下でカールをしている赤毛ボブ。細身でメイド姿がとても似合っていた。

美里：やだありがとー！蓮花も似合うよー！

蓮花は身長165cm、美里とは髪の色が対照的な黒。セミロングに色白で細身の蓮花にもまた似合っていた。

蓮花：あ・・・ありがとー・・・。

2人は着替室からでると、瀬野と高橋はもうスタンバっていた。

高橋：！！2人とも超かわいいーな！！

瀬野：－－－！！

美里：ありがとー 2人とも素敵！

瀬野は身長182cmで女子人気の高いイケメンだ。黒ベストと蝶ネクタイがさらに彼を引き立たせていた。高橋は身長172cm、瀬野とは対照的なベビーフェイス。彼にもまた黒ベストと蝶ネクタイが似合っていた。

瀬野：サンキュー。

高橋：モテるかなあ！

美里：知らん。さー頑張るか！

高橋：>(´^｀)< なんだよっ冷てえなっ。

瀬野：・・・蓮花・・・。

瀬野はまだ呼びなれない名前で蓮花を呼んだ。

蓮花：はい？

蓮花は瀬野を覗きこむ様に見て返事をした。

瀬野：！！お前大丈夫なのかよっ。

蓮花：大丈夫、大丈夫！やるときはやるよっ！

高橋：あいつ本当に大丈夫か？

美里：多分・・・。

心配はさて置き、4人は表にでた。

美里、蓮花：『いらっしやいませえ！ご主人様あ！』

客：おー！かわいいー！

瀬野、高橋：『いらっしやいませお嬢様！』

客：キヤーー！！

美里：ご主人様、ご注文は何に致しますかあ？

客：エロかわー！俺珈琲！

客：俺もー！！

蓮花：（ニコッ）・・・・・・ご注文は！！？

蓮花は満面の笑を作った後、怒った口調で注文を聞いた。

瀬野、高橋、美里：！！（おいつ！！）

客：………ツンデレだゝ 萌えるゝ

瀬野、高橋、美里：（そっちかよっ！！）……奇跡だな。

瀬野：あいつすげーな（笑）。

瀬野：お嬢様、お飲み物は？

客：キヤー！あ……あの！私、オレンジで！

客：私、グレープで！

高橋：お嬢様、お飲み物は？

客：私、グレープで！なんか、可愛いですね！

高橋：！！すぐ、お持ちします！

瀬野は蓮花を気にしていた。

瀬野：（……あいつ何だかんだで大丈夫なのか………しかしあの姿！何がツンデレだ！超可愛いじゃねえか！あー早く終われ！

！この野郎！！あと何分だ！）

4人は、注文を受けたら持つていき、受けたら持つて行き・・・バタバタとしていた。その時カフェを除く他校の生徒がいた。

遠野（他校生）：あの、ツンデレな子綺麗！。

野崎（他校生）：本当だー。俺は赤毛の子派かな。

第23話：予想外な展開（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第23話：予想外な展開

蓮花：ねえ美里、この時間少ないって言ってなかったっけ・・・？

美里：その予定だったのよねえ・・・予定外（――；）。・・・一番多い気がするよ。

瀬野：俺もー限界！！

3人は裏の方で、接客の合間に話をしていた。そこにオーダーを受けたばかりの高橋が入ってきた。

高橋：楽しいなあ今日！

瀬野、美里、蓮花：・・・（――；）。

蓮花：あ！田中くんだ。

瀬野：！！

入口の方を見ると、田中と佐藤（田中クラスメイト）、サッカー部のマネージャー谷口が立っていた。

4人はカフェの方へで行った。

美里、蓮花：いらっしやいませえ！ご主人様あ！

瀬野、高橋：いらっしやいませ！お嬢様！

佐藤：2人ともすげえかわいい！

美里：サンキュ あ！！また違うお客だ！高橋！行くよ！

高橋：おお！

そう言うと、2人はまた新規の客を出迎えに行った。

田中：・・・。。。

蓮花：（@_@）へん？

田中：いや・・・可愛い。

田中は少し照れながら言った。

瀬野：！！

マネージャー
谷口：・・・。。。

蓮花：あ！ありがとう。

瀬野：はよ座れ！！お嬢様、お飲み物は？

谷口：あたし、オレンジで。瀬野くんだよね？かつこいいね。

瀬野：どーもー。

蓮花：ご主人様、お飲み物は？

田中：（笑）、俺コーラ。

佐藤：俺も！

蓮花：かしこまりましたあ！

瀬野：お前、ツンデレキャラはどうしたんだよ！！

蓮花：忘れてた。

瀬野：なんだそりゃ！！

瀬野と蓮花は田中らのテーブルに飲み物を運んだ後、バタバタとしてる所へ、教室を覗いていた他校の生徒が入ってきた。

蓮花：いらっしやいませえ！ご主人様あ！……ご注文は！！？

野崎（他校生徒）：おーツンデレ！超可愛い！俺コーラ！

遠野（他校生徒）：ねえねえ、名前はなんてーの？教えてよ！

蓮花：・・・・・・・・教えません！

蓮花はツンデレキャラを守りつつ、その場を去ろうとしたその時に遠野から腕を掴まれ引っ張られた。

遠野：ちよつと待ってよ。

蓮花：！！

田中：！！

田中が席を立とうとした瞬間、様子を気にしつつ女子のオーダーを聞いていた瀬野がすかさず・・・

瀬野：お客様ー、申し訳ございません。当店のメイドは男慣れしておりませんので、ご遠慮くださいませー。コーラすぐお持ち致しますー。

野崎：なんだよ。

そう言うと、蓮花を連れて裏へ引っ込んだ。

瀬野：美里コーラ持つてけるか？

美里：うん、大丈夫！

蓮花：大丈夫、大丈夫、あたし持つてけるから！ちょっとビックリしけど！

そういうと、蓮花は遠野と野崎の所へコーラを持つて行った。

美里：大丈夫かなあ。

瀬野：ああ・・・。

蓮花：ご主人様あ！お待たせ致しましたあ！

遠野：おーサンキュ！名前はNGなのな！

蓮花：木内蓮花だよ。

蓮花はキャラを守りながらツンデレ口調で答えた。

遠野：蓮花ちゃんね！宜しく！

蓮花：宜しく。

蓮花はまたツンデレ風にその場を去った。

裏の方へ帰ると、瀬野が頭をポンッと撫でた。

蓮花：！

瀬野：おかえり。お疲れさん。

瀬野は笑顔で言うと、カフェの方へ出て行った。蓮花はその場で瀬野の撫でた頭を触った。

美里：蓮花！！もうすぐ終わりだ！

蓮花：（はっ！）・・・本当！やった！

こうして4人のカフェはようやく終了した。美里と蓮花は着替えてから廊下に出ると、田中らが待っていた。

田中：木内大丈夫か？

蓮花：あーもしかして心配してくれて！うん。大丈夫だったよ。ありがとう。

マネージャー
谷口：・・・。

佐藤：大変だったねえ。2人のメイド姿は写メばっちり撮ったからねえ。

瀬野：おい！！それ貸せ！！

佐藤：嫌だよー。お前消しそうだし！

瀬野：消せよ！

佐藤：何でだよー！！

美里：・・・ったくもう（-_-;）。

田中：俺らクレープ屋戻るから来いよな。

美里：うん勿論！ね！蓮花！

蓮花：うん！

田中：おい佐藤帰るぞ！

佐藤：おう！

瀬野：アノヤロー！

田中、佐藤は教室へ戻ったが、マネージャーの谷口が蓮花の所へ来た。

マネージャー

谷口：あの！木内さん！あたし、負けない様に頑張るから！

蓮花：・・・・・・？

美里、瀬野：・・・・・・。

マネージャーの谷口はそう言うと、4組に戻って行った。

蓮花：どうしたんだろ。メイドになりたいのかな・・・・。

美里、瀬野：（おいっ！（――）違うだろっ）

美里：さあ！あと半日楽しもう（＝^ ^＝）！

高橋：楽しかったなあ〜カフェ（、、）〜。

蓮花：瀬野、さっきはありがとね。

瀬野：いや、よくやったな。

第24話：戸惑い（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第24話：戸惑い

美里：蓮花、クレープ屋行こうよ。楓らが入口やっててくれるって
ついでに瀬野も呼んでくるよ。

蓮花：本当？・・・あの美里・・・あたしちょっと具合悪いから保健室行きたい。ごめん。

美里：！まじ！？楓！ここ頼む！

楓：わかった！

美里：行くよ蓮花っ。

蓮花：や、1人で大丈夫だよ。

美里：いいから。

蓮花：・・・ごめん、ありがとう。

美里：ごめん、気付けなくて。

蓮花：アハハ、いいよっありがとう。みぞおちあたりがムカムカして
て・・・少し休めば多分大丈夫。瀬野とクレープ食べてきて。

美里：うん。

美里は保健室に付き添い、教室に戻った。

蓮花はベッドに横になった。カフェの接客で見知らぬ男子との接触もあったのが、少しストレスになったようだ。

美里：瀬野く、クレープ食べ行く？

瀬野：蓮花は？

美里は事情を説明した。

瀬野：まじか！？

瀬野は保健室に行こうとした。

美里：今行つたばっかだから、気持ちは解るけど、もうしばらくしてから行きなよ。

瀬野：そうかー……。じゃーもう少ししてから行くわ。

美里：今、客少ないから今のうち休憩しとこ。

美里と瀬野は4組にクレープを食べに行き、田中にも事情を説明した。

田中：木内が？

佐藤：蓮花ちゃんメイド頑張ってたもんね！。

美里：てかこのクレープ美味し！

瀬野：おお旨い。

佐藤：美里ちゃんに言われると嬉しいなあ

瀬野：俺も言ったぞ。

佐藤：あー瀬野、居たんだ！。

瀬野：あゝ？

美里：まーまー（――）。。

そんな話をしながら2人はクレープを食べた後、また教室に戻り力
フエを手伝った。それから2時間後、時間は午後4時。

保健室――

保健室のドアが開く音で蓮花は目を覚ました。

田中：木内？

蓮花：田中くん！

田中：具合は？

蓮花：あ・・・大丈夫みたい。すっかり。ごめんね、クレープ屋行けなくて・・・。

田中：そか。はいコレ。食べて。

田中はクレープを差し出した。

蓮花：わあい（〃＾　＾〃）感激！わざわざ？ありがとー！おいしそう

蓮花は今日何も口にしていなかったので、その場でクレープを頬張った。

蓮花：おいしー！（>＜）。しかもいちごー！

田中：加藤が多分それだろうって（笑）。

蓮花：美里が？さすが解ってるね（笑）。もうすぐ文化祭終わるよね。

田中：ああ、今4時過ぎだからな。

蓮花：もうそんな時間？

田中：ああ、元気そうで安心した。俺教室戻るわな。無理すんなよ。

田中は安心した優しい笑顔で笑って言った。

蓮花：わざわざありがと……。。

そう言うのと田中は教室へ戻って行った。

蓮花：（田中くん優しいなあ……。あたし、田中くんの事、ちゃん
と考えなくちゃな……。）

そして入れ違いの様にまた保健室へ誰が入って来た。

瀬野：蓮花ー、気分はあ？

蓮花：瀬野。

蓮花はクレープを食べていた。

瀬野：お前元気そうな。

蓮花：コレは田中くんが持ってきてくれたから！ていうか、今日何

も食べてないからお腹すいたし・・・。

瀬野：先越されたか・・・良かったよ。元気になって。ほいつ。

瀬野はポカリスエットを差し出した。

瀬野：で、これは美里からな。

そう言うと、ポケットから出したのはキャンディーだった。

蓮花：フフッ。ありがとう。

瀬野：無理して接客すっからだよ。

蓮花：だって・・・

瀬野：まあお前のそゆ所嫌いじゃないけどなあ。もちつと甘えとけよ。

蓮花：・・・はい。

瀬野：素直だな。相変わらず。アハハ。

蓮花：なんか・・・本当にありがとう。情けないやら何やらで・・・アハハ。結局色んな人に迷惑かけてるね・・・。

瀬野：・・・いんじゃないか別に。それでどうのここの思っ連中は

お前の周りにやいねえだろ。俺含め。

蓮花：ハハハ・・・そっか。片づけで挽回するわ。

瀬野：もう大丈夫なのかよ。

蓮花：うん、すっかり！

瀬野：だよな。クレープも全部食ったしな。

蓮花：嫌み！

瀬野：アハハ。まあた頼っぺたついてんぞー。

蓮花：嘘！！！！

蓮花は慌てて頼っぺたを触った。

蓮花：何にもついてないじゃんか！！

瀬野：アハハハ！一緒戻れるか？教室。

蓮花：うん。

瀬野：じゃ、戻ろう。お前いねえと俺元気でねえから。

蓮花：なにそれ。

瀬野：そのまんまだよ。だから無理してもいいけど、頼れよ俺には
！。

蓮花：・・・無理していいの（笑）？

瀬野：すんなつつつてもするだろーお前はー。

蓮花：・・・。

蓮花は、瀬野の言動に戸惑いを感じていた。

蓮花：（・・・瀬野は好きな子とかいたりするのかな・・・）

第25話：遅刻（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第25話：遅刻

美里：おゝ帰ってきたゝ 具合はどう？

蓮花：ごめんごめん。もう全然大丈夫！クレープもキャンディも貰ったし！（笑）。

美里：良かったあ。

瀬野：もう片づけだろ？

美里：そだよ！

その時美里の携帯が鳴った。 『

』

美里：はい美里・・・はい・・・えええっ！・・・はあ・・・解りました。明日持つて行きます。はあい。

瀬野：？どした？

美里：何かね、メイド服、別の客が欲しいって言ってるから明日までに持つて来てくれないかって。あたし明日バイトだよ・・・。

瀬野：お前・・・またお得意のバイトか・・・！

美里：言うと思った・・・だって・・・。

蓮花：あたし持つて行こうか？

美里：・・・いいの？

瀬野：！！いいや、俺が行く！！だから蓮花付き合え！

蓮花：いや・・・よくよく考えたら別にあたしが行けば何の問題もないなと思ってさ・・・そんな服返すくらいで・・・大丈夫だよ？

瀬野：俺が一緒だと嫌か？

蓮花：ううん。だってせつかくの土曜日だから、あたし何の予定もないし、瀬野の方をむしろ氣使ってるんだけど？

瀬野：俺！？

蓮花：暇なあたしが行けばいけない？

瀬野：俺も暇だよ！！

蓮花：そっか（笑）。じゃあ、付き合うよ。

美里：（瀬野よ・・・感謝しろよ美里様に・・・）蓮花、サンキユ。

蓮花：いいよー別に。

瀬野：美里バイト頑張れよお

美里：はいよー（-_-）。

3組は文化祭の片づけを始めた。

楓：なんか大変だったけど超楽しかったねえ。

高橋：だなあ（ハ　ハ）！またやりてえなあ！

瀬野：俺はもう勘弁・・・（――；）・・・。

片づけをしていると、瀬野が女子から呼ばれた。教室の戸口の方へ近づいていくと、そのまま瀬野は女子と歩いて行った。

高橋：チクショー！また告白かな！あいつだけ何であんなモテるんだよー！！

蓮花：瀬野どんなスパンで女子から告られてるのかな。

楓：文化祭のボーイ姿が効いてるんじゃないのかなあ。女子の反応すごかったみたいよ。

美里：ふうん。すごいねえ。

蓮花：（やつぱモテるんだなあ・・・瀬野って・・・）

そんな話をしていると瀬野が帰ってきた。

高橋、美里、蓮花、楓：早！！！

瀬野：何だよ！！

高橋：お前呼ばれる度に早ええよなあ、帰ってくんの。告白だったんだろ？

瀬野：ああそудだよっ！うるせつ。

美里：いつも即答で返してるの？

瀬野：ああ、そудだよっ。もういいかつ。

楓：おゝお、即答かあ。

瀬野：ああ・・・どんだけ言われても響かんもんは響かん。

高橋：贅沢だなあ・・・お前。

瀬野：どこがだよっ！！はよ片づけろ！！

瀬野は高橋をまた軽く殴った。

高橋：いてえ！>（、^、）<最近お前俺に八つ当たりしてねえか！？

瀬野：してるよっ！

高橋：認めるのかよっ！>（、^、）<

美里：アホらし・・・とつとと片づけよ。

楓：そだね・・・。

蓮花：・・・（やっぱり好きな子いるのかな・・・）。

文化祭の後片付けも終わり、下校時間になった。

美里：蓮花！明日頼むね！

蓮花：うん。

瀬野：おい、明日北公園の前集合でいいか？

蓮花：いいよ。１１時くらいで大丈夫？

瀬野：おお！北公園前に１１時な！！

そして翌日

蓮花は北公園の前のベンチで瀬野を待っていた。蓮花の洋服は、ミルクティーベージュでVネックのドルマンニットワンピースに、ダークブラウンのナウシカブーツ。とても良く似合っていた。

瀬野を待つ事20分・・・

蓮花：（瀬野の携帯聞いとくんだっとなあ・・・美里に聞くか・・・
バイト中電話でれるかな・・・）

瀬野を待つ事40分・・・

蓮花：（あいつすっぱかすタイプじゃないし、もしかして事故とか・・・不安なってきた・・・）

瀬野を待つ事1時間・・・

蓮花は美里に電話した。

美里：はいはい美里

蓮花：今大丈夫？美里。

美里：うん、少しなら！どした？

蓮花：瀬野さ！来ないの待ち合わせに！あいつさ、ブッチする様な性格じゃないし、もしかして事故とかかと思って美里、瀬野の携帯

知らない！？

美里：あいつ遅刻してんの？えゝ！！大丈夫、事故じゃないって！
寝坊かなんかじゃないの？（ったくあいつ何やってんだかつ）携帯
言つよ！090 ×××× ××××！また何かあったら電話して！

蓮花：ありがと！

そう言つと電話を切り、蓮花は瀬野に電話を掛けたが、電話に出なかった。蓮花は1人でどんどん不安になっていった。すると、遠くから蓮花を呼ぶ声が聞こえた。蓮花が声の方を振り向くと・・・

瀬野：悪い！！！！

瀬野が慌てて走ってきた。瀬野の格好は・・・寝ぐせ付の上はパルカ。下は7部丈のパンツにサンダルだった。よほど慌てて家を出たらしい。蓮花は安心したと同時に怒りがこみ上げてきた。

蓮花：！！！！遅いし、心配したし！！もう！！

瀬野：本当にすまん・・・昨日寝れなくて・・・。

蓮花：何！夜更かし！！？？

瀬野：いや・・・そんな所で・・・（緊張して寝れなかったとはとても言えん・・・）。

蓮花：マック！！

瀬野：？

蓮花：ポテト付ね！！

瀬野：それで許してくれんのか？

蓮花：事故にでもあったのかと思ったじゃん！来たからいいよっ、マックで許す！！

瀬野：ハハ・・・サンキュ・・・！

瀬野は我に帰り私服の蓮花を見て、また可愛いと思った。と同時に自分の格好にビックリした。

瀬野：おいっ！一旦俺ん家行くぞ。

蓮花：っはあゝ？何でっ！

瀬野：だって俺の格好見てみ！パジャマだろ！こんな奴と歩きたいかよお前！

蓮花：瀬野は瀬野じゃん！別にどんな格好でもいいよっ。

瀬野：・・・それはそれで嬉しいか・・・って違う！！嬉しいけど、俺が嫌だ！頼む蓮花！

蓮花：あゝはいはい。行きますよ（――）。遅刻した上に・・・。

瀬野：ごめんなさい・・・サラダも付けます。

蓮花：勿論。

瀬野は遅刻はしたものの、1時間強も待っていてくれた事がすごく嬉しかった。そして、蓮花と待ち合わせをして休日に出かけるという事がまた、たまらなく嬉しかった。そして寝れず寝坊した・・・。

瀬野：お前、可愛いな・・・。

蓮花：！！照れる！！

瀬野：超！可愛いな。

蓮花：！！

瀬野：アハハ。

蓮花はすごいドキつとした。2人は瀬野宅へ向かい、蓮花は美里にメールをした。

美里バイト先

「 」

美里：・・・（まったく、なあに遅刻してんだか・・・）（――）

第26話：携帯（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第26話：携帯

蓮花：瀬野ん家ってこの付近？

瀬野：ああ、こっから10分くらい歩いた所かな。

蓮花：そっかあ。

2人は話ながら歩いて瀬野宅へ到着した。

蓮花：あたし外で待つとくよ。

瀬野：え？家入るの抵抗あるか？男所帯だけで結構散らかってるし
（笑）親父いるけどな。

蓮花：・・・おじゃまして平気なら・・・中で待ちます。

瀬野：どおぞ。

蓮花は中へ入り、辺りを見回すと、ソファには脱ぎっぱなしの服が置いてあった。

蓮花：・・・。

瀬野：悪い！

瀬野はソファの服を慌ててどかした。

瀬野：適当に座って待っててくれ！

蓮花：はあい（笑）。

そこへ、瀬野のお父さんが入ってきた。

蓮花：！！あ！おじゃましています。瀬野くんのクラスメイトの木内蓮花と言います！

瀬野（父）：颯真^{ソウマ}の彼女かあ？こりゃまたべっぴんさんだなあ！

瀬野：違うよ・・・。

瀬野（父）：颯真^{ソウマ}が女の子連れてきたのなんて初めてだなあ！そうかそうかあ！

瀬野：いいから部屋戻ってくれよう！

蓮花：そんなんつ、あの、すぐ家出ますんでっ。

瀬野（父）：いやあ、俺はゴルフ行ってくるからゆっくりしてきなさい！

蓮花：ゴルフ？

瀬野（父）：ああ、休みの日はもっぱら（笑）！蓮花ちゃんみたいな子が颯真ソウマはタイプなのかあ。いやあ、我が子ながら目が高いというかなんというかあゝわはははっ。

瀬野：だから！！早く打ちっぱなし行ってくれ！！

瀬野（父）：まあそう言うなよ。蓮花ちゃんまた家に来てくれなあ。男所帯でつまらんからゝ（笑）颯真ソウマを宜しく頼むね。

蓮花：はっはい！！行ってらっしゃい！

瀬野：・・・・。

そついうと、瀬野の父はゴルフへ向かった。

瀬野：すまん・・・・。

蓮花：ううん、瀬野に似てる（笑）。

瀬野：ああ、俺父ちゃん似。そこ座ってちょっと待っててくれな。

蓮花：うん。

そう言つと瀬野は着替えに行き、10分くらいすると居間に戻ってきた。瀬野の格好は、下はダメ ジ風ブルージーンズに、上は白黒

グレーのボーダーのニット。それに黒のネックウォーマーをしていた。

蓮花：瀬野雰囲気全く変わるね・・・私服だと・・・。

瀬野：お互い様だろ。

蓮花：格好いいね。

瀬野：！！照れるだろ！！

蓮花：超！格好いいね！

瀬野：！！

蓮花：アハハ！

瀬野：お前、さっきのお返しか！！

蓮花：アハハ！行こうか！マック！

瀬野：マックが先だな。

蓮花：もう１時だよ！！先！

瀬野：はい。

そう言うと、２人は瀬野宅を出てマックへ向かった。

蓮花：瀬野さあ、家に彼女とか連れていった事ないの？

瀬野：俺、彼女今まで居た事ないぞ。

蓮花：ええ〜！！あんなモテるのに！？

瀬野：だから、モテると彼女居るのは比例しねえって話したろ。

蓮花：……。ああ、した……。

瀬野：お前は……。居た事ないよな？。

蓮花：おっしゃる通り。居る訳ないよね（笑）。

瀬野：アハハ。

蓮花：じゃあ……。なんでもないや……。

瀬野：何だよつ。

蓮花：別にい。

蓮花は好きな子はいた事ないか聞こうとしたが、何となく聞くのを止めた。

蓮花：マック到着う

瀬野：・・・ポテトとサラダ付だろ？よく食うよな。

蓮花：わあい！ラッキィ　瀬野遅刻して良かった！

瀬野：何だそりゃ・・・。

2人はマックで食事をした後、コスプレショップに服を返却しに行った。

瀬野：ようやく今日のメインだな。

蓮花：ん？あたしのメインはマックだったな！

瀬野：そっか（笑）。

蓮花：ごちそう様！ありがとね。

瀬野：いやぁ・・・よく1時間も待ってくれたよな。

蓮花：ん？ああ・・・そうだねえ・・・あたしも意外（笑）・・・。

瀬野：なんだそりゃ。お、着いた着いた。何回来ても慣れんわつ。
ちわ～！！

店長：あらあ、お似合いのお二人さん！ごめんなさいねえ急かしちやつてえ！助かるわあ！

瀬野：いえ、どうもです・・・。

店長：末永くお幸せにねえ！

蓮花：・・・アハハ・・・。

2人はようやくコスプレショップに服を返却できた。それからしばらく歩き・・・

瀬野：家まで送ろうか？

蓮花：・・・逆方向になるからいいよ。ありがとう。

瀬野：そか・・・今日はありがとな。

蓮花：全然！楽しかったよ。マックもご馳走になったしね！・・・それじゃね！

瀬野：おお明後日なあ。

瀬野と蓮花はお互いの家に歩いて帰った。

午後10時

瀬野は携帯のランプが光っているのに気付いた。

瀬野：あれ？俺今日携帯1回も見てねえな・・・誰だこの着信・・・
昼過ぎ・・・？

見知らぬ番号からの着信があつて、瀬野はリダイヤルした・・・
『・・・』

蓮花：はいはい？

瀬野：・・・もしもし・・・。

蓮花：どしたの瀬野。

瀬野：！！え！！？蓮花！？この着信お前か？

蓮花：何でよ今頃（笑）！美里に聞いて掛けたんだよ。

瀬野：今気付いた・・・すまん。

蓮花：ううん、瀬野今日ズレてばっかだね（笑）！

瀬野：ハハ・・・お前今何してたの？

蓮花：お風呂上がり。瀬野は？

瀬野：俺も風呂上がり・・・お前・・・俺の番号消すなよ。

蓮花：もう保護ったよ（笑）。

瀬野：そっか！俺も保護るわ。

蓮花：うん、お願い。

瀬野：あー・・・じゃあ・・・おやすみ！

蓮花：うん、またね・・・おやすみなさあい。

2人は電話を切った。

瀬野：（おやすみなさい・・・か。ていうか）・・・番号・・・
やったあ！！

瀬野は大きく声を上げた。

蓮花：フフッ。何か不思議・・・。

第27話：彼氏彼女の定義（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第27話：彼氏彼女の定義

次の日

瀬野：おっす美里お！

美里：あんた昨日！

瀬野：ああすまん・・・。

美里：すまんじゃないよー！蓮花すごい心配して電話掛けてきたよ。
瀬野はブツチする様な奴じゃないから事故じゃないかーって。

瀬野：・・・そか。そんで携帯を。

美里：だよーあんた何で携帯も聞いとかないのよ。

瀬野：すまん。携帯は聞かれんの嫌かと思ってたしよ、先に美里に
掛けりゃよかったよ。サンキューな。

美里：いいええ、もとはと言えばあたしが頼んだ事だしねえ。

2人が話をしていると蓮花が教室に入ってきた。

瀬野：おっす！昨日はどうもなあ。

美里：今説教したからさ！

蓮花：アハハ！ありがとね！

瀬野：・・・本当に・・・すまん。

蓮花：アハハ！ぜんぜんいいよ。結果楽しかったし（笑）。

楓：美里ちゃん、次選択だよー！教室行こー。

美里：あ！そうだった！じゃ、あたし行くね！

蓮花：はいはい！いつてらっしゃあい！

すると廊下から蓮花を呼ぶ声がした。

田中：木内！美術一緒行こう。

蓮花：あー田中くん！うん、今準備する！

蓮花はロッカーに美術の用意をしに向かった。

瀬野：お前は4組だからさっさと1人で行けよ！

田中：選択一緒なんだから一緒行っても問題ねえだろう。お前もグ
ラウンドじゃなかったのかよっ。

瀬野：ああ、そうだよ・・・（－－）

蓮花：田中くんごめん！お待たせ！

蓮花はバタバタと用意をして帰ってくると、絵筆を1本落とした。

瀬野：蓮花落としたぞ、ホレ。

田中：・・・（蓮花・・・）。

蓮花：あー！ありがとー！じゃね！

田中と蓮花は美術室へ向かった。

高橋：瀬野、グラウンド行くぞ！

瀬野：ああ行くよ！

高橋：・・・ははあん、段々お前の機嫌損ねる原因が解ってきたよ・・・。

瀬野：！！あゝ！？

高橋：そうかぁ・・・片思いか・・・瀬野ともあろう奴が・・・ぶくくつ（笑）片思いつ。

瀬野は高橋の頭をまた軽く殴った。

高橋：いてえ！！>（、^、）<凶星だな！！

瀬野：グラウンド行くぞ！！

高橋：けどお前と話す時の木内さ、すげえ話し易そうな奴に見えるよなあ。

瀬野：言ってる意味がさっぱり解らん。だって話し易いぞ。

高橋：・・・（いや、それはお前だからじゃねえのか・・・）。

美術室

蓮花：田中くんこの前クレープありがとね。すんごい美味しかった。

田中：そりゃ良かった（笑）。気分悪くて保健室行っただって聞いた時は心配したけどな。クレープ美味しそうに食べてくれたから安心したよ。

蓮花：アハハ。

蓮花は田中の告白を思い出しながら授業を受けていた。

蓮花：（真剣に考えなきゃな・・・みんなどうやって付き合うんだろつか・・・普通の友達の定義と彼氏彼女の定義って何が違うんだろっ・・・あたしそこからなんだな・・・普通が解らんなあ・・・）

田中：・・・なんか難しそうな顔してんな。

蓮花：（はっ！）えっ！本当！？

田中：ああ、今いつもの木内に戻った（笑）。

蓮花：らしくなく考え事・・・アハハ・・・。

田中：そっか（笑）。

橋口（先生）：じゃ、今日はここまで来週は自画像入るからなあ～！

美術の授業が終わり、田中と蓮花は教室へ戻った。すると佐藤と美里が何やら話をしていた。

美里：何、来週って。

佐藤：だからーサッカー練習試合あるから応援きて！

美里：あたしバイトあるしさ～。

佐藤：あ～蓮花ちゃん！蓮花ちゃんも来てよ！美里ちゃんと一緒にさ！

蓮花：は？

田中：お前何事だ？

佐藤：いや来週土曜日俺ら練習試合だろ？美里ちゃんら来てくれたらさ、テンション上がるしさ！

蓮花：田中くんも練習試合なんだ。

田中：ああ南校とな・・・。

佐藤：田中からも頼んでくれよ。

田中：は？・・・あー・・・用事なけりや来てくれると嬉しいけど。

蓮花：あたしは大丈夫だけど。

美里：・・・わかったよ・・・バイト休むよ・・・。

佐藤：わゝありがとー！絶対来てよねゝ！

田中：悪い、サンキュ。

蓮花：ううん。

田中と佐藤は教室に戻って行つた。

蓮花：佐藤くん美里に来て欲しそーだったよ。

美里：えー？あたし大人男子が好みなんだけどー？

ねえ美里、みんなどうやって彼氏彼女になるの？あたし定義が解らない。何か違うの？友達と。何で付き合うの？

美里：そりゃ違うっしょ？友達は友達よ。彼氏になりや手繋いだりさ、キスしたり？できんじゃない。

蓮花：キス！？それする為だけの定義なの？

美里：定義・・・また難しくなってきたねえ・・・それをする為って言うより、したいって思うだろうし、もつと一緒に近くに居たいって思ったりしてくればさ、友達じゃあそりゃ無理しょ。

蓮花：・・・そういう気持ちがあるのかあ・・・。

美里：そんなもん、なるうー！とか思ってなれるもんじゃなし、気付いたらなつてたりするもんだよ。自然に。あんま考えなさんな。特に蓮花の場合、場数？・・・やっぱ男子と話さないと気持ちの違いいにも気付きにくいかもねえ・・・（おまけに鈍感だし・・・）。

蓮花：男子と・・・（――；）。

美里：だから、あんま深く考えないで。なる様にしかないからさ、大丈夫だよ。また何かあったら言ってきな。

蓮花：うん。ありがとう。

そこへ体育を選択している瀬野らが帰って来た。

高橋：瀬野やつぱ足早ええなあ。100m11秒代ってお前陸上や
つてたのかあ？

瀬野：中学ん時な！

高橋：どおりで早ええはずだわ！

瀬野：お前らにも俺様の走りを見せたかったよー！

美里：あゝはいはい、見たかったあゝ！瀬野くんの走りいー！

瀬野：お前軽くバカにしてんなまた・・・（－－＼）何なんだそのあ
しらい方は・・・。

蓮花：アハハ！あたしは見たかったよ！

瀬野：そっか！！だろ！？

高橋：・・・嬉しそうだな・・・。

瀬野：うるせっ！黙れお前は！！

美里：（－－＼）アホらし・・・。

蓮花：？

第28話：風邪（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第28話：風邪

佐藤：美里ちゃん！蓮花ちゃん！明日応援宜しくねえ！

美里：はいはい！ていうか勝算あんの？

佐藤：当たり前じゃあ！

田中：練習試合なのに緊張してくんな・・・。

蓮花：えゝ？本当？頑張つてね！

田中：おお！また明日な！

美里、蓮花：また明日あゝ！

そこに瀬野が入ってきた。

瀬野：また明日って何だよ。

美里：サッカーの応援頼まれたから明日行くの。あたしと蓮花。

瀬野：頼まれたあ？お前らはあれか！！頼まれればどこにでも行くのかよ！！

美里：だってねえ、彼氏いる訳じゃないし、自由よねえ蓮花あ！

瀬野：！！

蓮花：・・・うん、ていうか瀬野、風邪？

瀬野：ああ、多分。

美里：あー！あたしお昼のパン頼んでくるね！今日楓当番だ！

蓮花：うん。

美里は慌てて楓の所に行った。

瀬野：お前も明日行くんだろ・・・？

蓮花：うん。行くけど、佐藤くんが美里に来て欲しそうだった（笑）。

瀬野：田中も来るんだろー？

蓮花：そりゃサッカー部だもん。瀬野も来たいの？

瀬野：行くか！！

蓮花：ハハハ・・・風邪大丈夫？

瀬野：あゝそのうち治るよ・・・多分。

翌日

サッカー練習試合：南校VS北校 12：00

佐藤：あゝ美里ちゃん！

佐藤はグラウンド中央から手を振っていた。

美里：・・・本当元気な奴だな・・・あ！試合始った！

美里：佐藤ってさあ、ヘラヘラしてるけど試合中すごい真剣。意外！。田中も一見穏やか青年だけど攻めるねえ！

その時、佐藤のパスで田中がゴールを決めた。

美里、蓮花：お！！すごい！

美里：何だ本当に強いじゃん。

蓮花：どんなんだと思ってたのよ。うちのサッカー部結構強いでしょ？田中くんサッカーで引ッ張られてたし、佐藤くんもじゃないのかな。かなり上手いよね。

美里：そうなのお？知らなかったあ。

試合は南、北共に譲らず接戦のまま、ハーフタイムのホイッスルが鳴った。

佐藤：美里ちゃん！俺のパス見てくれてたあ？

美里：見てたあ！全然普段と違ってビックリい。

佐藤：惚れ直したかなあ。

美里：直すっていうか、惚れてないからその前に（・・メ）。

佐藤：辛口だなあ美里ちゃん。蓮花ちゃんも見てたあ？

蓮花：・・・うん見てた・・・勝ちそうだね・・・。

田中：勝つよ！サッカーは譲らねえからなあ。

蓮花：だっただった！頑張つて！

田中：おう！

そして瀬野宅

瀬野は病院から帰宅した。

瀬野：あーしんどい・・・何で熱出んだよ・・・。

昨日の夜から発熱し、朝から病院行きで点滴をして帰って来た。

瀬野：（今頃サッカー応援中かあ・・・くそっ・・・しんどいはイライラするわ・・・最悪だな・・・）あゝ！！・・・頭痛で・・・。

南校グラウンド

ハーフタイムも終わり、試合は後半戦へ突入していた。

美里：おゝ2-1！佐藤がゴールした！

蓮花：よくあんな人抜けれるね！本当に上手・・・。

美里：あ！また入れた！今度は3年かあ。考えてみたらあの2人1年からレギュラーってすごいよね・・・。

蓮花：そうだねえ。

後半からは北校の追い上げムードで、3 - 1で北校勝利で試合終了した。

田中：応援サンキューなあ！

美里：おめでとう！いやあ、見直しちゃったあ！

田中：見損なってたのかよ・・・。

美里：いやあ、攻撃のイメージ全く無かったからさあ（笑）。

蓮花：田中くん中学ん時から凄いよね。

田中：！！ハハっサンキュ！

佐藤：美里ちゃん俺はあ？

美里：見直したよ！

佐藤：えゝ見損なってたのお？

美里：うん。

佐藤：ひでえなあ・・・。

田中、蓮花：アハハ。

美里：うちらさ、電車の時間あるから、先に帰るよ。

田中：俺らまだ色々あるし、今日は本当にサンキュ！

佐藤：また来てよねえ！

美里：解った来るよ！じゃね！

蓮花：またねー。

美里、蓮花は電車で帰り、北駅で別れた。

蓮花：じゃね、美里！

美里：うんまた明後日！気をつけて帰ってね！

蓮花：はあい！美里もねえ！

蓮花は美里と別れて歩いて家に向かっていたら、携帯が鳴った。
『』。

蓮花：（あれ・・・瀬野だ。）はいはい？

瀬野：・・・。

蓮花：もしもおし！

瀬野：・・・サッカー終わったか？

蓮花：ああ、今美里と別れて帰ってる所だよ？てゆか大丈夫？すごいきつそうだよ。

瀬野：あー少し熱あるだけだよ。

蓮花：お父さんは？

瀬野：いや、出張・・・。

蓮花：・・・病院は？

瀬野：・・・今朝行つた・・・。

蓮花：・・・何か食べたの？

瀬野：あゝ昼頃カップ麺食つたよ・・・。

蓮花：カップ・・・そつか・・・。

瀬野：・・・特に用事つー用事じゃなかったんだ・・・またな。

蓮花：うん。

蓮花は電話を切った。

瀬野：・・・（そか、帰ってんのか・・・）。

しばらく瀬野が寝込んでいると、家のインターフォンが鳴った。

瀬野：・・・誰だよ・・・。

ピンポン×3 『 』

瀬野：あー・・・もう・・・。ハイ・・・。

瀬野がドアを開けると・・・

瀬野：！！なんで！！？？

蓮花：熱何度よ？

瀬野：・・・38度くらい・・・。

蓮花：あの、上がっていい？

瀬野：・・・ああ・・・どうぞ・・・。

第29話：意外な宿泊（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第29話：意外な宿泊

蓮花：うわ、具合悪そう・・・迷惑かとも思ってたんだけど、無いよりはましだろうと思って、色々買ってきたの・・・カップ麺とか言ってたし。

瀬野：・・・サンキュ・・・。

蓮花：まず、熱計つて。

瀬野：はい・・・。

瀬野は部屋へ行き、ベッドに横になりながら熱を計った。

『PPPP!-!』

蓮花：39・2度!? ねえ、薬飲んだの?

瀬野：・・・飲んでない・・・。

蓮花は瀬野のパーカーを触ると汗びっしょりで、布団もかぶらず、アイス枕も勿論していない。

蓮花：・・・ひとまず着替えようか、瀬野、タンスやらキッチンや

らちよつと借りるよ！

瀬野：ああ・・・すまん。

蓮花は何枚かのシャツを取りだし、瀬野に着替えをさせ窓を開けて喚起をした。そして冷蔵庫へ行き、アイス枕を探して瀬野の所へ持っていた。

瀬野：・・・悪い。

蓮花：全然。

蓮花は祖母へ電話を掛け、事情を説明した。

祖母（咲）：そう・・・そしたら具合良くなるまでついてなさいな。瀬野くんのお父さんに1本電話入れて許可だけとつときなさいよ。どうせ明日日曜だし、おじいちゃんには私から話しておくから。何か困った事が起きたら夜中でもいいから電話してきなさい。

蓮花：うん・・・わかった。本人にも聞いてからまた電話するね。

そうして蓮花は電話を切り、瀬野の部屋へ行った。

蓮花：瀬野？

瀬野：ん？

蓮花：瀬野さえ良けりやなんだけど、あたし今日居ようか？

瀬野：！！え！？

蓮花：具合かなりひどいみたいだし、ばあちゃん電話したらそうした方がいいかもって。言ってる場合じゃないかもって感じだけど、うちお節介家族でさ。

瀬野：・・・居てくれんの・・・？

蓮花：居ていいなら・・・看病させていただくけど・・・。

瀬野：・・・居てくれんなら、すげー嬉しい・・・けど・・・俺格好悪・・・。

蓮花：あゝ・・・格好良いと思った事ないから安心して。

瀬野：・・・居てくれんなら、なんでもいいや・・・。

瀬野はなんだか安心した。

蓮花：瀬野さ、お父さんに電話掛けてよ。事情だけ説明させて。

瀬野は父に電話を掛け、事情を話した後、蓮花に代わった。

瀬野（父）：ごめんね、蓮花ちゃん。親戚近くにいたら頼むんだけど、みんな遠くて・・・あいつの母親とも・・・。

蓮花：あー！大丈夫です！それは気にしないでください！

瀬野（父）：そうか、ありがとう。そしたら颯真宜しく頼む。

蓮花：はい、それじゃあ。

蓮花は祖母にまだ折り返し電話をし、成り行きを説明した。

祖母（咲）：そう。おじいちゃんがね、困った事あったらすぐに電話しなさいって。

蓮花：うん。ありがとう。それじゃあね。

蓮花は電話を切った。

蓮花：瀬野あんな食欲ないでしょ？おかゆとかもNG？

瀬野：あー食いたくねえ。

蓮花：そか。じゃあリンゴすりおろしてくるよ。それ食べてから薬飲も。

そう言つと蓮花はキッチンへ行き、リンゴをすりおろして瀬野の所へ持って行った。

蓮花：瀬野起きれる？起きれなかつたら食べさすよ？

瀬野：！！・・・それはいい・・・自分で食う。

蓮花：そか。お水ここに置いとくよー。あたし向ここの部屋行つとくね。

瀬野はリンゴを食べてから、薬を飲んで横になっていると、いつの間にか寝入っていた。蓮花はしばらくしてから、食器を下げに瀬野の部屋へ行つた。

蓮花：（よく寝てる・・・）

P M 1 0 : 0 0 -

瀬野：・・・あれ？？？今・・・10時・・・夢・・・？

瀬野は目が覚めたので、部屋を出て、細い廊下を歩いてリビングへ行くと、ソファに蓮花が居た。

瀬野：・・・夢じゃない・・・。

瀬野は普段も風邪の時も家に1人で居る事が多く、ソファに居る蓮

花を見てすごく安心した。

蓮花：．．ん？．．あ、起きたんだ。

そういつと蓮花は起き上がり、瀬野のおでこに手を当てた。

瀬野：．．．．。

蓮花：少しは下がったかなあ．．。

瀬野：ああ．．．．ちよつとは楽になつてる．．．。

蓮花：そうか。熱計ってみよつかまた。お腹すいてない？プリンとか果物あるよ？

瀬野：．．．．。

その時、瀬野は蓮花を思わず自分の方へ抱き寄せた。

蓮花：．．．．瀬野？

瀬野：サンキューなあ。

蓮花：．．．．ううん．．．．メロン、いる？

瀬野：ああ、いる・・・（熱のせいで理性が全く働かん・・・）。

蓮花：（・・・・・・・・何・・・・・・・・）

瀬野：風邪うつるな！悪い。

そう言いながら蓮花をそつと離れた。

蓮花：・・・・。

瀬野：メロン食いたい。

瀬野は可愛い笑顔を蓮花を見ながら言った。

蓮花：！！今、切る！

蓮花は突然の瀬野の行動に一瞬止まってしまい、瀬野の笑顔を見て、胸の奥がキュツと締め付けられる様な感じがした。

蓮花：（あたし・・・・拒否れなかった・・・・違う・・・・拒否らなかつたんだ・・・・）

第30話：気付き（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第30話：気付き

蓮花：（拒否らない・・・て・・・あたしと瀬野の距離って今どんなくらいなんだろう・・・すごく近い気がするけど・・・あたしこれに慣れてる・・・）

瀬野：体温計ってくるわ。

蓮花：・・・うん。切ったら部屋持つてくよ。プリンもいる？

瀬野：ああ、いる。

蓮花：（男子ってみんなこんなに近いもんなのかな・・・瀬野だけかな・・・田中くんとは・・・また違った距離感だな・・・瀬野に慣れすぎた？・・・あれ？・・・解んなくなってきたな・・・）

蓮花は瀬野の部屋へメロンとプリンを持って行った。

蓮花：瀬野入るよー熱どう？

瀬野：37.5度。

蓮花：さっきよりはましか。シャツ着替えて、これ食べて、薬！ね！？あたしまたリビング居るから。

瀬野：はいはい、サンキュ。

蓮花が部屋から出ていくと瀬野は言われた通りにシャツを着替えて、薬を飲んで横になった。

しばらくしてから蓮花は瀬野の様子を見に行ったら、瀬野は、薬のせいかぐっすり寝入っていた。

蓮花：朝熱下がってるといいけど・・・。

蓮花はそのまま瀬野のベッドの横に座り込んだまま寝入ってしまった。

AM 3：00 -

瀬野はふと目を覚ました・・・。月明かりが窓の隙間から差込、ベッドにもたれかかる様に寝ている蓮花が目に入ってきた。瀬野は蓮花の手を握りそのまま寝入った。

AM 8：00 -

蓮花：・・・ん・・・朝・・・あたし寝ちゃったんだ・・・。

蓮花は自分の手を握ったまま寝入っている瀬野に気付いた。

蓮花：（・・・手・・・）

蓮花はそつと手を離れた。

蓮花：（・・・何で握ってたんだろ・・・）

すると瀬野が目を覚ました。

蓮花：！おはよっ。

瀬野：・・・寝ぐせすげ。

蓮花：瀬野もね（笑）。

瀬野：恥ずかしー・・・。

瀬野はうつ伏せになった。

蓮花：いいから、ちょっと熱計ってみて（笑）。

瀬野は熱を計ると・・・

瀬野：36・5度！

蓮花：やったあ！よかったあ！熱下がったね！瀬野おかゆ食べれる？

瀬野：ああ、食べる。サンキユ。

瀬野はクスリと笑った。

蓮花はキッチンへ行き、おかゆを作っていると・・・

蓮花：・・・ねえちょっと、すごい見られてて緊張するんですけど。
つ。

瀬野：やゝなんかいいなあって思っ

蓮花：は？

瀬野：俺もう1回熱だそうかな。

蓮花：あんなきつそうだったのにい（笑）？

瀬野：だってお前来てくれるし。

蓮花：強制的にそうなるの（笑）？

瀬野：強制だろゝ。

蓮花：瀬野から強制されたい女子いっぱいそうだね（笑）。

瀬野：何だそれっ。呼ぶかよっ。つかその前に家に上げるかつ。

蓮花：・・・あたし・・・。

瀬野：蓮花だから上げたに決まってんだろっ。

蓮花：そか。

瀬野：当たり前だ！！

蓮花：信用してくれてありがとね。

瀬野：信用・・・つか・・・（こいつは本当に鈍いな・・・）
――（。）。なあ・・・お前は風邪になったのが他の奴・・・田中
とかでも看病したのか？

蓮花：？うん。美里でも田中くんでもこういう状況だったらしたと
思うよ？

瀬野：・・・そっか・・・お前の特別にはどうやったらなれるん
だ・・・？

蓮花：・・・？あたしの特別・・・？

瀬野：・・・や・・・何でもね・・・おかゆできた！？

蓮花：あ・・・できた・・・。

蓮花はおかゆと果物を瀬野の所へ持つて行つた。

蓮花：あのさ・・・あたし瀬野にすごい慣れちゃつてて、迷惑じゃないのかな・・・全部受け止めるつて言われてから多分あたし、全然遠慮なくなつてつてるし、瀬野は本当にあたしを拒否らないし、どんどん距離近くなつてつてる気がするしつ。

瀬野：迷惑な訳ねえだろ・・・。

蓮花：あ・・・そ・・・。

瀬野：俺と距離近くなるのは嫌か。

蓮花：・・・嫌じゃない・・・だから困つてんの。

瀬野：？は？

蓮花：よく解んない・・・だつて・・・。

蓮花は瀬野と話をしているうちに段々自分の気持ちに気付いてきた。瀬野との距離が近くなればなる程に瀬野に惹かれていく自分に気付いたからだ。

これ以上近くなると今以上に瀬野の事を好きになる事になる。そうになると、きっと自分が辛くなるだろう事を想像していた。

瀬野の受け止める発言から素の自分で飾る事なく初めて男子と向き合う事ができた蓮花は、自分のコンプレックスと一緒に正面から逃げずに付き合ってくれた瀬野が、いつの間にかすごく特別な存在になつていたのだ。蓮花の間合いに瀬野は既に入っていた。

蓮花：なんでもないや・・・おかゆ冷めちゃう。

瀬野：頂きます！！

蓮花：どうぞ・・・（瀬野と近くなるのは私は嫌じゃないけど、私の近いと瀬野の近いに差が出たしたら・・・ちゃんと距離を取らなくちゃ・・・これ以上は甘えらんない・・・）・・・薬ちゃんと飲んだら、あたし片づけして帰るよ。具合もよくなつたみたいだし。

瀬野：もう帰るのかよ・・・咲さんか健三さんに電話掛けてよ。俺お礼言うから。

蓮花：あ、うん。

蓮花は祖母に電話を掛けた。

祖母（咲）：あ、蓮花？どう？瀬野くんの様子は？

蓮花：大丈夫だよ、本人に代わるね。

瀬野：もしもし！

祖母（咲）：まあ、瀬野くんお久しぶりねえ！具合はどお？

瀬野：お陰さまで熱もすっかり下がりました。ありがとうございます。健三さんは？

祖母（咲）：おじいちゃんは朝から近所の人の家に囲碁に行ってるのよ。瀬野くんから電話あった事はきちんと言っておくわね。わざわざありがとね。

瀬野：いえ、こちらこそ。

祖母（咲）：また家にご飯食べにきてね（＾　＾）。

瀬野：是非。ありがとうございます。

祖母（咲）：蓮花には適当な時間に帰ってきてって伝えてちょうだい。それじゃあね。

瀬野：それじゃ。

瀬野は電話を蓮花に渡した。

蓮花：もしも・・・あれ？切れてる（笑）。

瀬野：適当な時間に帰ってこいだと。

蓮花：そか（笑）。帰ってお風呂入って寝よ！

瀬野：・・・本当にサンキューな。

蓮花：いいよこれくらい！具合また悪くなったら電話してね。

瀬野：ああ。

蓮花は後片付けをし初めた。

瀬野：後は俺適当にやるよ。疲れてんだろっから、家早く帰って休め。うちで休んで帰ってもいいけど。

蓮花：・・・ううん、大丈夫。ありがと。

瀬野：送るよ。

蓮花：病み上がりにやめてよっ！ゆっくし休んでよねっ。また心配なるじゃん。

瀬野：・・・そか・・・。

蓮花：そだよ。じゃ、帰るねあたし。

瀬野：うん、また学校でな。

蓮花：うんまたね。

瀬野は少し寂しかった。本当は蓮花を思い切り抱きしめたかったが、理性で押さえながら蓮花を見送った。

蓮花もまだ瀬野のそばに居たかったが、言い出すのも変な話で、そのまま帰宅した。

第31話：遠くなる距離（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第31話：遠くなる距離

月曜日

瀬野：蓮花！おっす！

蓮花：瀬野・・具合良くなった？

瀬野：お陰さまでー。

蓮花：良かったあ。

田中：木内！土曜応援サンキューな！

廊下を通りかかった田中が話掛けてきた。

蓮花：あ、田中くん！おはよ。

瀬野：おっす。サッカー勝ったのかよ。

田中：当たり前だ。木内応援来てくれたからなあ。

瀬野：（――）・・・！！

蓮花：大げさあゝ（笑）。

田中：アハハ！大げさじゃねえよ！じゃな！

瀬野：！！！！

田中は4組の教室へ入っていった。

蓮花：美里おはよう。

美里：あ！おはよ！

瀬野：おつす。

美里：ねえ蓮花！金曜から蓮花の好きな監督の映画始まるじゃん。
行くの？

蓮花：勿論！チェック済！

瀬野：お前映画好きなの？

蓮花：大好きー。

瀬野：監督までチェックしてんの？

蓮花：キャストで決める事もあるけど、大体監督は必ずチェックするよ。

そこへ若干空気の読めない、クラスメイトの高橋が入ってきた。

高橋：何だ〜？瀬野フラれたのかあ？

瀬野：何だよ！！

高橋：だってよく瀬野がフラれてる所面白いだろう？（ハ　ハ）

高橋は瀬野からまた殴られた。

高橋：>（、ハ、）<いつてえ！何だよお！

瀬野：うるせえお前は！！

高橋：片思いだからって焦んなってえ！！

瀬野：！！！！

瀬野は高橋を引きずっていった。

高橋：だ〜！！美里お！助けてくれえ！

美里：（（――））高橋にもバレてんのかよ・・・アホくさ・・・
）

蓮花：（・・・やっぱ瀬野好きな子いるんだ・・・なんか・・・
・思ってたよりショック・・・）

蓮花は体に衝撃が一瞬走った感じがした。

お昼

美里：蓮花あ！お弁当食べよ！

蓮花：うん！

2人が中庭に向かってっていると、瀬野が女子と会話していた。すると、話が終わり、美里と蓮花に気付いた。

瀬野：お前ら弁当か？

美里：あんたはまた告白か？

瀬野：違いよ！

美里：相手はそんな雰囲気じゃなかったけどお？あんたも鈍感だからねえ。

瀬野：そうなのか？

美里：さあ、お弁当食べようかあ蓮花！

瀬野：無視かよ！お前らどこで食うの？

美里：うちらいつも中庭だよ。晴れてる日はね。

瀬野：俺も一緒食うわー。

美里：えーじゃま。

瀬野：何でだよー！そんな事ねえだろ！蓮花！？

蓮花：どっちでもいいよ・・・。

瀬野：どっちでもいいも冷てえなあ・・・。

美里：ほら瀬野行くよ。休み時間無くなっちゃう。

3人は中庭でお昼を食べ始めた。

蓮花：瀬野いっつもパンでお腹空かないの？

瀬野：減るぞ。弁当くれんの？

蓮花：別にいいけど、パンくれんなら。

瀬野：えっ！！くれんの？

蓮花：食べたいんでしょう？あたしパン1つで大丈夫。

瀬野：やったあ！これ咲さん作ったのか？

蓮花：ううん、あたし。

瀬野：！！・・・頂きます！！

美里：（うれしそー・・・笑）瀬野が弁当作ってくれて言ったら作ってくれる女子いっぱいじゃないの？

瀬野：知らん奴の弁当食べつつうのかよ。

美里：そおんなデリケートだったのお（笑）？

瀬野：そういう訳でもねえけどなあ・・・。

3人はワイワイ話ながらお昼を食べた。

美里：さあ！！教室戻るか！次体育で100Mだよね・・・ 思い
だしたあ・・・。

瀬野：今日男子と一緒にだな。ご馳走様！！

蓮花：・・・わ、空っぽだあ！

瀬野：当たり前だ！上手かった！サンキュ。

美里：蓮花！あたしちよつと職員室行くから先に帰ってて。

蓮花：うん解ったあ！

美里は職員室へ走って行った。

瀬野：・・・蓮花、今度の土曜あいてたら映画いかな？お前映画好きなんだろ？俺も好きだし。これ（お弁当）と土曜日のお礼。

蓮花：・・・いって！気にしないで！あたしが勝手にした事だから！

瀬野：そっか・・・。

蓮花：お前何かあった？

蓮花：？

瀬野：気のせいかな？様子がおかしいぞ。

蓮花：何でもないよ！気のせい！教室戻ろう！

瀬野は、蓮花との距離が近くなったと思っていたが、急に遠く感じ出していた。

グラウンド

美里：蓮花はいいよねえ！足早いからさあ・・・

楓：蓮花ちゃん早いんだあ！

美里：中学ん時も全校リレーとか出てたよ。

楓：すっごい意外ー！

蓮花：アハハ！

楓：あ！男子の方も始まつてるー。

美里：本当だね。次瀬野か。高橋もいる・・・。

楓：わ！瀬野！ダントツで早ー！

蓮花：本当だー・・・（瀬野ってあんな格好良かったっけ・・・はっー！）

美里：あいつ何でも器用にこなすなあ・・・。

楓：次うちらだよ美里ちゃんー！

美里：あゝ緊張してきたよおお。

蓮花：頑張れっ！

男子の部

高橋：お？美里が走ってる・・・結構早えな・・・まあまあか？お！瀬野！次木内だ！

瀬野：本当だ・・・あいつ走れんのかな・・・。

高橋：スタートした！

蓮花は5人でスタートしたが、風を切る様にダントツで早かった。それを見ていた女子達もザワついていた。

瀬野：おー！！早え！！

高橋：・・・意外・・・。

瀬野はニッコリ笑っていた。

高橋：・・・お前の彼女じゃねえからな。

瀬野はまた高橋を軽く殴った。

瀬野：うるせえ！！

高橋：>（、ハ、）<いてえー！！

3組は体育の授業を終え、教室へ戻って行った。

美里：瀬野、あんた足早いねえ！

瀬野：言ってなかったか？

美里：いや、見て改めて驚いたあ！

瀬野：格好良かっただろ？

美里：足早かったよ。

瀬野：おい・・・会話ズレてねえか・・・お前わざとだろ（・・・）
・・・つつか、蓮花早えのな！

美里：うん、中学ん時からダントツで早いよ。

瀬野：へえ。

そこへ蓮花がフラッと入ってきた。

瀬野：お前相当足早えな！

蓮花：あー見てたんだ。うん、走るのだけは得意。

瀬野：俺見てたかー？

蓮花：うん、見てた。超早かった。

瀬野：格好良かったろー？

蓮花：うん。

瀬野：！！・・・お前そこはつつこんどけよなっ！照れるだろー！

蓮花：？え？

側で美里はクスクス笑っていた。

その日の放課後

美里：蓮花あ！あたしバイトだから帰るねえ！

蓮花：うん、頑張つて。また明日。

美里は掛け足でバイトに向かった。

瀬野：蓮花帰んの？

蓮花：うん帰るよー。

瀬野：じゃあ、帰りにマックおごる！

蓮花：大丈夫だってーまあたお礼でしょお？（笑）それに・・・

瀬野：それに？

蓮花：瀬野、好きな子いるって言ってたし、誤解されちゃうよー。

瀬野は蓮花の言葉に少し腹立たしさを感じてしまった。

瀬野：・・・何でお前がそれを言うの？

蓮花：・・・何でって・・・今まで考えなかったあたしが悪いよ・・・。

瀬野：誰にどう思われるかは俺が考える事じゃね？大体俺がそうしたくても？

蓮花：そうしたいって気持ちがあるだけであたしは十分だから。瀬野優しいから、気にして言うてくれてるんでしょ。ちゃんと伝わっ

てるよ。だから本当に気にしないで。

瀬野：全然伝わってない。

蓮花：？

瀬野：全然伝えられてない。

蓮花：伝わってるって。

瀬野：じゃあ俺とはもうどこへも行けないって事か！？

蓮花：行きたくないっていうか・・・そうじゃなくって・・・。

瀬野：俺、何かした？

蓮花：してないよ・・・する訳ないじゃん。

瀬野：俺嫌いになった？

蓮花：・・・なる訳ないじゃん・・・。

蓮花はとても困った顔をしていた。

瀬野：！！・・・あ、悪い・・・困らせるつもりは全然ない・・・
・すまん。

蓮花：大丈夫、本当にありがとう。それじゃね・・・。

蓮花は泣きだしそうだったが、我慢して靴箱まで走った・・・その様子を部活へ行こうとしていた田中が見ていた。状況を何となく察した田中は蓮花の後を追いつけた。

田中：木内・・・？

蓮花：！！・・・田中くん！

田中：・・・今から帰りか？

蓮花：うん！田中くんは部活・・・だね・・・

田中：ああ・・・何かあった？・・・。

蓮花：ううん！大丈夫！・・・部活頑張つて！

田中：・・・解つた・・・気をつけて帰れよ。

蓮花：ありがとう・・・。

教室

瀬野：（・・・感情的に話すつて・・・俺最低・・・近くなつたと思つてた距離が遠いなあ・・・お礼なんてただの口実なんだよ・・・）

第32話：蓮花の決意（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第32話：蓮花の決意

翌日

職員室へ来ていた蓮花は、担任からプリントの入った段ボールを教室へ持って行くように頼まれた。

蓮花：失礼しましたあ。

瀬野：それ持っていくのか？

蓮花：うん、全然重くないから大丈夫だよ。

瀬野：いいから貸せて。持つし。

蓮花：大丈夫大丈夫。

瀬野：頑固だな。いいから貸せて。

蓮花：いいってば！！ほつといて！！

蓮花は少し大きな声で、瀬野に言ってしまった。

蓮花：（はっ！！）・・・。

蓮花は中学時代を思い出した。

蓮花：・・・・・・・・。。。

瀬野：何だよご機嫌ななめかあ？

瀬野は蓮花の頭をそう言いながらポンポンと撫でた。

蓮花：・・・・・・・・。

瀬野：怒ると思ったか？（笑）、な訳ねえだろ。行くぞ、教室！。

蓮花：（あたし大バカだ……。だから瀬野を好きになったんだ……。瀬野のこういう所が……。やっぱりどんどん好きになるばかりだ……。胸が痛い……。）

教室

美里：ねえ、蓮花、あんた瀬野と何かあった？

蓮花はその言葉を聞いて、涙目になった。

美里：！！ちよっ！！・・・屋上行こ！！

察した美里は蓮花を連れて慌てて屋上へ行った。

屋上

蓮花：ううつ・・・。

美里：どうしたのぉー？

蓮花：あんなに・・・っあんなに寄るな・・・とかっ、ううつ言っといて・・・あんなに最初うつとおしかったのにっ・・・ううつ・・・いつの間にか瀬野が・・・瀬野の事がすごい好きになってっ・・・わあああー！！

蓮花は空を向いたままわんわん泣きだした。

しばらくして・・・

美里：落ち着いた？

蓮花：・・・ん・・・ごめんなさい。

美里：いいよ。

蓮花は土曜日の看病の事や、今までの経緯を美里に話した。

美里：・・・で、瀬野に好きな子いるから今のうちに距離を取ろうと・・・？

蓮花：瀬野といるとき、あいつのいい所がどんどん見えてきて、切りなくて・・・そんなだったら距離取つとけばさ、見えなくなるじゃん。

今までのままでいないと瀬野にも迷惑だろうしさ、気使わせるだろうし。

美里：あのさ蓮花、あんた瀬野の何を見てきたの？

蓮花：？

美里：瀬野は今まであんたをちゃんと受け止めてきたじゃん。だつたら気持ちもちゃんと受け止めてくれるって。大体瀬野が迷惑とか思っ訳ないじゃん。あいつそんな奴じゃないよ。

蓮花：・・・そっか・・・自分の事しか全く見えてなかったかも・・・。

美里：そうだよ。蓮花が好きになった人でしょ？瀬野を信じなよ。じゃなきゃ瀬野に失礼。迷惑かもって思っつて事は、自分も下げてるし何より相手も下げて見るって事だよ。そういうスケールで瀬野

は周りを見てないと思うよ。

蓮花：・・・ごめんなさい・・・あたし田中くんにもきちんと言わなくちゃ。

美里：そうだね・・・田中もきつと受け止めてくれるよ・・・。

蓮花：ありがと・・・美里・・・。

美里：ううん、あたしは蓮花が瀬野みたいな人を好きになって嬉しいよ。あいつバカだけど本当にいい奴だもんね。

蓮花：・・・ううっ。

美里：ひどい顔して泣かない泣かない。あたし先に教室戻っとくね。落ち着いたらおいでね。

蓮花：ん。

美里は教室に戻るため階段を下りて行った。すると、降りる途中で田中に遭遇した。

田中：おう。

美里：おっす・・・。

田中：木内知らね？

美里：あー……今、屋上居るけどー。。

田中：……そか、ちよつと行ってくる。

美里：田中！！

田中：……サンキュ加藤、大丈夫だよ。

美里：……（いい奴……）。

蓮花が屋上でボーっとしていると、ドアが開く音がした。蓮花は慌てて隠れた。

蓮花：……田中くん？

田中：おつす。

蓮花：……。

田中は蓮花の目が赤いのに気付いた。

田中：……昨日……瀬野と何かあった……？

蓮花：……何もないよ……。

田中：……木内、俺さ、今度もう一度木内に告白するって言った

よな。

蓮花は2度頷いた。

田中：俺、木内がまだ好きなんだけど……。

蓮花はまたその場で泣きだした。

田中：！！えっ！！

蓮花：違うの……ちが……あたし、中学の時から……うう……
田中くんの事尊敬して……て……すっごく感謝して……むし
る田中くん好きなんだけど……うう……。

田中：……瀬野？

蓮花：……ん……ごめんなさい……。

田中：……そっか……やっぱな……。

蓮花：？

田中：あいつ真っ正面から木内にぶつかっていったら？あれって
リスク高えのによくやるなって思ってた……。俺にはできねえな
って……。ちよっと思っただ……。。

蓮花：・・・ごめんなさい・・・。

田中：木内が謝る事ねえよ・・・正直に言ってくれてありがとな・・・
これからは友達として宜しく・・・。

蓮花：・・・田中くんありがとう・・・あたしに何かできる事ある・・・？

田中：んー・・・じゃあ・・・木内映画好きだろ？今度土曜映画行かね？最初で最後のデート。

蓮花：・・・そんなんでもいいの・・・？

田中：行ってくれんの？

蓮花：私でよければ・・・。

田中：そっか！土曜な！・・・俺先教室戻るな！

蓮花：・・・ん。

教室

瀬野：おい美里、蓮花は？

美里：・・・えー・・・今ちよつと・・・。

瀬野：気分でも悪いのか？

美里：違う違う、もう少ししたら教室戻ってくるって！

瀬野：・・・。

第33話：縮まる距離（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第33話：縮まる距離

金曜日

高橋：瀬野、お前木内と何かあったのかあ？

瀬野：いやあ・・・何もねえよ・・・。

高橋：・・・そか、最近あんま話してる所みねえつつうか・・・避けてるつつう感じでもねえし、距離置いてる感じだな・・・いよいよフラれたのか？

瀬野：・・・いや・・・だけど結構ショックだなあ・・・。

高橋：・・・逆じゃねえの？

瀬野：逆？

高橋：・・・自分で考えれつ。

瀬野が廊下を見ると、田中と蓮花が話をしていた。

瀬野：（・・・そろそろ限界かなあ・・・けど俺あいつ以外考えらんねえんだよなあ・・・）

田中：じゃ、明日な。

蓮花：うん。

美里：明日って・・・田中と映画行くの？

蓮花：うん・・・最初で最後のお願いらしい・・・。

美里：・・・返事したんだ。

蓮花：うん・・・。

美里：そっか。楽しんどいで。

美里はニツコリ笑いながら言った。

下校時間

瀬野は靴箱にいと、部活へ行く途中の田中に遭遇した。

田中：よー瀬野！

瀬野：おー今から部活か。

田中：まあ、部活あつて助かってるよ・・・そうそう、俺明日木内と映画行つてくんない！！

瀬野：は！？

瀬野は眉間にシワを寄せながら言った。

瀬野：お前が誘ったの？

田中：そだよ。

瀬野：．．．．．あつそ．．．。

田中：じゃあな！

田中は素知らぬ顔でその場を去り、部活へ向かった。

田中：（これくらいいいだろ．．．黙って行くのも木内も嫌だろうしな．．．）

瀬野：（まじでイライラしてきた．．．）！！あゝーもう！！

靴箱にいた周りの人が触れてはいけない人を見るような眼差しで瀬野を見ていた。

そして土曜日、田中と蓮花は約束通り映画を観に行き、蓮花の家まで歩いて帰っていた。

田中：映画良かったなあ。

蓮花：うん、途中泣きそうだった・・・頑張っただけだよ。

田中：くんも泣きそうだったでしょ？鼻すする音聞こえてきたよ（笑）。

田中：俺もこらえたよ！！でもまじでやばかった・・・。

蓮花：あはは！

田中：・・・良かった。

蓮花：？

田中：いつもの木内！

蓮花：・・・。

田中：今日は付き合ってくれてありがとな。

蓮花：ハハ・・・付き合っただけだよ。あたしも来たかったから来てるし、楽しかったよ。ありがとね。

田中：じゃ、また学校でな！

蓮花：うん！

田中は蓮花を家まで送ると、笑顔で手を振りながら帰って行った。

蓮花宅

蓮花：ただいまぁ！

祖母（咲）：おかえりい、楽しかった？

蓮花：うん！今日の晩御飯は～・・・おでんだ！

祖父（健三）：当たり～！

蓮花：ラッキイ！あたしお風呂入ってくるねえ！

P M 1 9 : 3 0 -

祖母（咲）：ねえ蓮花、今日夕刊取ってないわ、取ってきてくんない？

蓮花：はあい！

蓮花は玄関を開けてポストを見ようとすると、戸口に誰かいる様な

気がした。

蓮花：（…………誰…………！？…………あれ？）瀬野？

瀬野：あ…………。

蓮花：どうしたの？

瀬野：あ…………ごめん帰る。

そついうと瀬野はUターンして帰ろうとした。

蓮花：ちょっと！待って！

蓮花は瀬野の様子が少し普通と違うのを察して慌てて腕を掴んだ。

蓮花：何でもなくてここまで来ないでしょ。何かあったんでしょ？

瀬野：いや…………親父がさ…………再婚するかもつつて…………別にいんだけどさ、色々考えてたら俺っているのかな…………とか思ってきて…………気が付いたらここまで歩いてた…………。

蓮花：…………。

いつもとは少し違い、どこか寂しげな瀬野を蓮花はしばらく見つめた後、そつと瀬野を抱きしめた。

瀬野：・・・！

蓮花：ばあちゃんがさ、昔よくこうやってくれたんだ・・・お父さん居なくなつた時・・・。

しばらく蓮花は瀬野を抱きしめていた・・・瀬野は何が起きているのか状況を把握しようとしたが、そのままボーっとしていた。

蓮花：瀬野がいないと・・・あたしが困るよ・・・。

瀬野：・・・え？。

そう言うと、蓮花はそつと離れ、瀬野の両手を握つた・・・。

蓮花：・・・どんだけ歩いたの・・・冷たい手・・・家入ろ！

瀬野は我に返り・・・

瀬野：・・・えっ！！

蓮花：家ね、今日おでん！

蓮花は瀬野の手を引いて家の中に入っていった。

蓮花：ばあちゃん！お客さあん！

第34話：0（ゼロ）ミリ（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第34話：0（ゼロ）ミリ

祖父（健三）：おー！！瀬野くん久しぶり！！寒いから早く上がんなさい！

祖母（咲）：あらあ！上がって上がってえ！良かったあー今日おでん作りすぎたかなって思ってたのよおー。

瀬野：・・・あの、おじやまします。

祖母（咲）：蓮花、瀬野くんのお箸持ってきて！・・・あんた夕刊は？

蓮花：あ！忘れてたあ！持ってくる！

祖母（咲）：まあまあ今度はお箸忘れてるし・・・ごめんなさいねえ、そそっかしいたらないわね・・・

瀬野：ハハっ・・・いいえ。

瀬野は何だかホッと安心した。

蓮花：ごめんじいちゃん！はい、夕刊っ。

祖父（健三）：ハハありがとな。瀬野くんほら食べて。

瀬野：・・・頂きます。

祖父（健三）：あれから風邪は大丈夫か？

瀬野：ハハ、大丈夫です、ありがとうございます。

祖母（咲）：いいのよお、蓮花でお役に立てるならあゝ。あの日蓮花から血相変えたように電話かかってきてねえ、おじいちゃん？

祖父（健三）：そうだったそうだった。

瀬野：・・・。

蓮花：ばあちゃん！いいのそれは！！瀬野、玉子いる？

瀬野：ああ、いる。

蓮花：瀬野おでん好きだった？

瀬野：ああ、おでんも好きだよ。

蓮花：ジャンクフードとおでん。

瀬野：ちがーう。

蓮花：？

祖母は2人のやり取りを見ながらクスクス笑っていた。

祖母（咲）：1日で熱下がって良かったわね。

瀬野：本当にありがとうございました。

祖父（健三）：熱出したらいつでも連絡くれれば蓮花を看病にやるよ。

蓮花：おじいちゃん！！

瀬野：宜しくお願いします（笑）。

蓮花：！！

3人はわいわい話ながらおでんを食べた。

P M 2 2 : 0 0 -

祖母（咲）：時間が経つので早いわねえ、もう10時よ。

瀬尾：俺、そろそろ帰ります。

祖父（健三）：そうだな、またいつでも来なさい！

瀬野：はい！ご馳走様でした！

祖母（咲）：蓮花あ、食器後でいいから瀬野くんその辺まで送って

きなさい。

瀬野：あ！大丈夫ですよ！

蓮花：ううん、そこまで行くよ！瀬野、これマフラー！

瀬野：サンキュ、それじゃあまた。

祖父（健三）、祖母（咲）：またね、気をつけて帰りなさいね。

瀬野と蓮花は家を出て、戸口まで蓮花は瀬野と歩いた。

瀬野：今日サンキュな。

蓮花：ううん、大丈夫？

瀬野：・・・ああ・・・。

瀬野はしばらく蓮花を見て・・・

蓮花：？

瀬野：お前・・・今日、田中と映画行っただろ？

蓮花：え？何で知ってるの？

瀬野：田中から聞いた。

蓮花：田中くんから？・・・うん、行っただけ・・・。

瀬野：・・・そっかー・・・。

しばらく2人は沈黙が続いた。すると蓮花が・・・

蓮花：あの・・・少し話していい？

瀬野：ああ。

蓮花：・・・あたし・・・瀬野との距離の取り方が良く解んなくてきてて・・・。

瀬野：距離？

蓮花は頷いた。

瀬野：・・・大分距離置いときたいって事だろ？

蓮花：・・・ううん、逆。

瀬野：逆！！？？

蓮花：・・・。

瀬野：．．．えっ！！！！．．．けど最近距離大分保ってたろ？？

瀬野は何を言われているのか、驚いて整理がつかなかった。

瀬野：．．．．．じゃあ．．．例えば、センチにしたら何センチくらい距離とつときたいんだ．．．？

蓮花は少し考えた。

蓮花：．．．5センチくらい？

瀬野：．．．5センチ．．．？5メートルじゃなくて？

蓮花：．．．5センチくらい．．．けどそれともう彼女の距離．．．。

あたし瀬野の近くにいと、どんどん瀬野の事好きになるから距離をちゃんと保とうと思って．．．言うのも迷ったんだけど、瀬野ならちゃんと受け止めてくれるかなって思って思い切って言うけど、あたし瀬野が好き！

けど大丈夫だから！距離はちゃんと保つよ！だから、最近どんな風に瀬野と距離を取ればいいか解んなかったんだけど、嫌いにだけはならないで欲しいの！あたし頑張るから！

瀬野は蓮花が一生懸命何を言っているのかすごく良く解った。

瀬野：・・・俺にも聞いて。

蓮花：？

瀬野：お前と距離何センチ保つときてえか聞いて。

蓮花：・・・正直に答えてね・・・。

瀬野：ああ。

蓮花は聞くのが怖かったが、思い切って聞いた。

蓮花：・・・何センチ？・・・。

蓮花が聞き返したその瞬間、瀬野は蓮花にキスをして抱きしめた。

蓮花：！！

瀬野は蓮花の耳元で答えた。

瀬野：０（ゼロ）ミリ！

蓮花：0（ゼロ）・・・。

瀬野：何が嫌いにならないで！だよ！

蓮花：・・・だって・・・瀬野・・・好きな子・・・。

瀬野：お前だ！！鈍感っ。

瀬野が蓮花を見ると、線が切れたかの様にその場で泣きだした。

瀬野：泣くなよ・・・俺は嬉しくて泣きそうだ！！

その瞬間蓮花は瀬野に抱きついた。

瀬野：！！

蓮花：あたしも0（ゼロ）ミリいっ・・・ううっ。

瀬野は満面の笑で笑った。

瀬野：さっきセンチって言ったろ・・・。

蓮花：・・・遠慮してみたー・・・ううっ。

瀬野：アハハっ、おい！お前今日何で田中と映画行ったんだよ！！

俺今からお前の彼氏だから聞く権利あるぞ！

蓮花：うつつ・・・田中くんしばらく前に・・・告白されて・・・。

瀬野：おゝだったなあ。

蓮花：・・・知ってたの！？

瀬野：お前追っかけていたら偶然聞こえたんだよつ。

蓮花：やだ、覗きい？趣味悪ー・・・。

瀬野：何だよっ覗きつて！それで！？

蓮花：瀬野の事好きだからって伝えたら、最初で最後だから映画に行きたいって・・・。

瀬野：・・・そつか・・・（だからあいつ俺に・・・わざとか・・・）。

蓮花：本当は瀬野と行きたかったけど、・・・好きな子他にいるし・・・
・と思つてたし・・・。

瀬野は言葉にできないほどの嬉しさで、もう一度蓮花を抱きしめた。

瀬野：俺、今日今までの人生で最悪の日と思つてたけど、人生最高の日！蓮花、もう一回聞かせて・・・俺の事？

蓮花：・・・大好き。

瀬野：俺も大好き！お前、鼻水出てるぞ（笑）。

蓮花：うそー：寒いし恥ずかしいー：。

瀬野：可愛い。もっかいチュウして？

蓮花：鼻水でてるからやだ：。

瀬野：アハハっ。

第35話：周りの反応（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第35話：周りの反応

翌日

瀬野は朝、鞆箱で田中とサッカー部のマネージャー谷口に遭遇した。

瀬野：おっす。

田中：おお。

瀬野：……あれから、蓮花と付き合う事になった。

田中：……そっか。

瀬野：……サンキュ、昨日。

田中：いや、別にー、俺スキあったら割って入るかもよ、お前鈍感だしなあ。

瀬野：……何のスキだよ！！余計な事すんなよっ。

田中：アハハ！

谷口：田中くん！

田中：？

谷口：田中くんそろそろ他も見えて！

田中：・・・。

瀬野：お前も大概鈍感だろーが・・・。

田中：え？

教室

美里：そっかあ良かった良かったあ（*^|^*）

蓮花：・・・うん、ありがとね美里。

美里：なあにが！あつ！彼氏の登場だよお

高橋：え！！お前ら付き合っ事になったのかー！！??

瀬野：お前はギヤアギヤアうるせえんだよっ、そつとしとけよっ！

蓮花：アハハ。

瀬野：！おはよ！

蓮花：ハハ、おはよ！。

高橋：だから逆だっつったろお？

瀬野：？

高橋：木内こいつ昨日超暗くてさあ、距離置かれてるだのなんだ・
・んぐぐつ！！！！

瀬野は高橋の口を慌てて塞いだ。

美里：・・・ったく・・・。

高橋：何だよっ、俺合ってただろっ（、ハ、）

瀬野：わかったから黙れよ！！

美里：・・・まあ・・・良かった。

高橋：美里、俺らも付き合うか？

美里：SHRの後、現国だねえ、用意しなくちゃあゝ

高橋：無視かーっ（T―T）

瀬野：・・・。

蓮花：瀬野、お家は？

瀬野：あれから親父と会ってねえんだわ・・・。

蓮花：・・・そか。

瀬野：けど、お前が大分クッション変りになってるよ。サンキュー。

蓮花：あたし何にもしてないしっ。

瀬野：何もなくていんだよっ、側にいてくれりゃ。

蓮花：！！照れる！！

瀬野：ほんとの事だし（笑）。夢みたい。

蓮花：っっ！！

それから数日、瀬野と蓮花は一緒にいる時間も増え、校内でも度々その様子が目撃されだしていた。

他クラス女子：ねえねえ、あの2人って最近かなり一緒にいない？

他クラス女子：3組の子に聞いたらやつぱ付き合ってるらしい・・・。

他クラス女子：えっ！ショック！あたし瀬野くんのファンだったのに（T―T）！

他クラス女子：けど・・・相手が木内さんじゃ何も言えないかも・・・
・美男美女・・・木内さん男子苦手って聞いてたけど瀬野くんは大

丈夫だったのかな・・・。

瞬く間に2人の噂が広がっていった。

高橋：瀬野、お前らの事すげー聞かれるぞ。特に女子から。

瀬野：良い事だな。変な虫もつかねえし俺にも寄ってこねえ。

美里：あんたら目立つよね。

蓮花：瀬野ファンの視線が最近痛いです・・・。

瀬野：お前・・・そんなで嫌になったとか言い出すなよつ。

蓮花：まさかっならないよ。ただ・・・一時前はあたしも瀬野に好きな子いると思ってたから、そんな時のあたしと同じ気持ちかと思うとね・・・。

美里：そんな仕方な無い事考えんなつうの！瀬野はあんたが好きなの！その気持を大事にすればいいの！！

瀬野：お前は本当にいい奴だな・・・。

美里：だから・・・

瀬尾：いい女って言ってよねっだろ？

美里：アハハっ！そう！

そこへ4組から田中のクラスメイト佐藤が入ってきた。

佐藤：ねえねえ、2人付き合う事になったんだねえ。

瀬野：そうだよ・・・何だお前は苦情か・・・？

佐藤：まさかあ、瀬野は俺に冷たいよなあ祝福してるよあ。

瀬野：嘘つけっ何の用だっ。

佐藤：美里ちゃんさあ、今週の土曜あ？

美里：？バイトです。

佐藤：やー友達から映画のチケット貰ったから一緒行かないかなあ
と思ってえ。

美里：何であたし？

佐藤：おれ美里ちゃん一筋なんだけど？

美里：いつから？

佐藤：大分前！。

美里：あたし大人男子が好みなの。ごめんなさいね。（即答）

佐藤：美里ちゃん辛口だなあ〜まいいやあ、俺また誘うし〜、あ、来週の土曜はあけといてねえ〜！

美里：ちよつー！

佐藤：じゃあねえ〜。

佐藤は手を振りながら笑顔で去って行った。

美里：行くって言うてなあー！！

蓮花：アハハ。行ってきたよ美里。

美里：えー！何なのあのチャランチャランした感じはー！！

蓮花：佐藤くんあれキャラじゃないの？サッカーん時すごい顔真剣だったしね。いい人そう。

瀬野：おいー！俺以外の男子をむやみに褒めるなー！！お前に関しては俺は相当嫉妬深いぞ。

蓮花：えー・・・嫉妬深い男って何か嫌ー。

瀬野：えゝー！！

美里：・・・ここもコントだな・・・お似合い、ふふつ。

放課後

瀬野：蓮花く帰るぞ。

蓮花：うん、美里、また明日ね！

美里：はいはあいまた明日あー！

2人は教室を後にした。

瀬野：お前土曜あいてる？

蓮花：うん。

瀬野：どっか行こうか。

蓮花：じゃあ映画！あと1本観たいのある！

瀬野：よし決まり！

蓮花は下を見ながらニコニコしていた。

瀬野：・・・嬉しそう。

蓮花：え？そりや嬉しいでしょつ。映画観れるし！

瀬野：そっか！（笑）

蓮花：マックも行けるかな？

瀬野：行ける！（笑）

蓮花：・・・あと瀬野といれるし。

瀬野：！！・・・もう一回言って。

蓮花：言わない！！（、^、）

瀬野：えー・・・（、3、）

第36話：初デート（前書き）

前書き　男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・

・続きは本編でどうぞ・・・。

第36話：初デート

翌日

蓮花宅

祖母（咲）は庭の自家製野菜のお手入れをしていた。

瀬野：おはようございます！

祖母（咲）：あらあ！瀬野くん！お久しぶり・・・でもないわね（＃
＃・＃・＃）。

瀬野：アハハ・・・はい。あの、先日から蓮花さんとお付き合いさせ
た頂く事になりました。

祖母（咲）：みたいねえ（＊、＊）、おじいちゃん！瀬野く
んよお！

大きな声で咲は健三を呼んだ。すると家の中から・・・

祖父（健三）：おお！！おはよう瀬野くん！蓮花から聞いてるよ。

瀬野：あの、よろしくお願いします！

祖父（健三）：何がぁ！こちらこそ蓮花をよろしく頼むな・・・
、、）

瀬野：はい！！

祖母（咲）：蓮花ぁ！彼氏迎え来たわよぉ（＊、＊）

階段をバタバタと走りながら蓮花が降りてきた。

蓮花：！！

祖母（咲）：落ち着きなさいなぁ・・・。

蓮花：だって！！ばぁちゃんが大きな声で彼氏とか言うから！

祖母（咲）：だってそうじゃなあい（＊、＊）

蓮花：そうだけどっ。

祖父（健三）：気を付けていつてきなさい。

蓮花：いつてきますっ。

瀬野：（笑）

その様子を見ながら瀬野はクスクス笑っていた。

瀬野：それじゃ行ってきます。

祖母（咲）：ごゆつくりいゝ（＊、＊）

蓮花：！！

蓮花は照れながら自宅を後にし、2人は歩きながら映画館へ向かった。

季節は秋、風が吹く度にキンモクセイの香りがしていた。

瀬野：相変わらず仲いい家族な。

蓮花：・・・ありがと・・・瀬野ん家、どなった？

瀬野：あれから親父とも色々話たんだけど、俺が卒業するまで入籍はしないんだと。

蓮花：・・・そか。

瀬野：大丈夫だよ。お前いるし。

蓮花：そ・・・そか・・・。

瀬野：うん。そうだよ。しかしお前やっぱ私服は雰囲気変わるのな

あ！

蓮花：瀬野もでしょ？

瀬野：そうか？

蓮花：・・・うん。

瀬野：格好良いか？

蓮花：うん。

瀬野：！！そこは否定しとけよな！照れる！！

蓮花：（、＊）アハハ・・・あの・・・。

瀬野：？

蓮花：・・・手！

蓮花は右手を差し出した。

瀬野：・・・。

瀬野は一瞬ポカンとしたが、照れくさそうに蓮花の手をパツととって手を繋いで歩きだした。蓮花は嬉しかったので、笑顔で笑い返した。

瀬野：あゝー！可愛い！

蓮花：（、＊）アハハ。

瀬野：・・・お前楽しんでるだろ・・・。

蓮花：うん。

瀬野：認めんのかよつ。

蓮花：手ゝあつたかい

第37話：たまに好き（前書き）

前書き　男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・

・続きは本編でどうぞ・・・。

第37話：たまに好き

瀬野：映画結構空いてるなあ。お前何が観たいの？

蓮花：えつとね、コレ！！

蓮花が指したポスターを見た瀬野は・・・

瀬野：なあ・・・お前田中とは何見たの？

蓮花：コレ。

瀬野：・・・何で田中とはヒューマンで俺とはホラーなんだよっ！

蓮花：・・・アハハもしかして苦手？

瀬野：いや・・・そうでもねえけど、初デートでホラー・・・。

蓮花：だって恐い映画は一人じゃ観れないじゃん！何かの拍子に掴まれる人じゃないと来れないでしょー・・・1人で映画よく来るけど、これは観たくても観れないんだもん。苦手だけど観たい・・・みたいな・・・ごめんて。

瀬野：・・・そういう理由だったらいいよ。行くぞつ。

蓮花：いいの？

瀬野：いいよつ。

蓮花：やったあゝ！（^^）！

2人はチケットを購入し、映画館内に入っていた。

瀬野：はい、手。

蓮花：えっ！

瀬野：途中で叫ばれても困るし、最初から握つといて。

蓮花：・・・はい・・・叫びませんから・・・。

そう言いながら蓮花は恥ずかしそうに瀬野の手を握ると、周りが暗くなり映画が始まった。

2時間後 -

瀬野：（笑）お前さ、まじで苦手なんじゃなかった！途中何度ビクッてなったよっ！

蓮花：だって油断してるとさあ、急にビックリさす様な事になってるしさあゝ！（ーー；）ごめんなさい。

瀬野：いやあ、映画よりお前が面白かったよ（笑）。
蓮花：やっぱ一人で来なくて正解（ー；）・・・。

瀬野：ああ（笑）。次、マック持ち帰って家行くぞ。

蓮花：いいの？行つて。

瀬野：勿論！

蓮花：じゃあ、お父さんのマックも買つて行こうよ。

瀬野：アハハ、親父はゴルフ。サンキュー。

蓮花：そか・・・。

2人はマックでお昼を買い、瀬野宅へ向かった。

瀬野宅 -

瀬野：どうぞー。

蓮花：お邪魔します！何か改めて来ると緊張する・・・。

瀬野：3度目か？

蓮花：そっかー3度目か。最初は待たされて、その次は看病させられて・・・。

瀬野：悪かったよ・・・俺は逆に嬉しかったけどなっ、最初は次の日お前と出かけるっつのに緊張して寝れなかったんだよっ。風邪はむしろ看病してくれてラッキーだったし！

蓮花：・・・そうだったんだ・・・。

瀬野：そうだよっ。なのにお前は・・・。

蓮花：！！なんか！本当にごめんなさい！最初、寄るなだとか色々言ってしまったっ！だってっ・・・。

瀬野：いいよ全然。もう伝わったし。これから色々返してもらっし。

蓮花：！何をっ！

瀬野：何だろなっ。

蓮花：・・・どれだけ伝わったか解らないけれど・・・瀬野には本当に感謝してて、あたしの壁を体当たりで壊してくれた事がどれだけ大きかったか・・・時間かかるかもだけど、ちゃんと返すよ！

瀬野：うっそ。

蓮花：？

瀬野：何も返さなくていいよ。最初から言ってるけど、傍に居てくれればそれでいい・・・あとはー・・・たまぁに好きって言ってくれりゃいいや。

蓮花：そんなんでもいいの！？

瀬野：アハハ、いいよ。

蓮花：・・・好き。

瀬野：！！たまにでいい！照れるから！

蓮花：ううん、本当に好き。

瀬野：・・・。

少し微笑みながら言っている蓮花に瀬野はキスをした。

2人はそのまま瀬野宅で話をしたり、ゲームをしたりしながら過ごした。時間はあっという間に過ぎていき・・・

P M 5 : 0 0 I

瀬野：5時、そろそろ帰ったがいいか？

蓮花：そだね・・・早いなあ時間過ぎるの・・・。

瀬野：・・・送るよ。

蓮花：いいよ大丈夫（b ^ - ^ ）

瀬野：嫌だ。俺が送りたいの！。

蓮花：・・・ありがと。

2人は、手を繋いで蓮花の家まで歩いた。

蓮花：今日はありがとね。

瀬野：何で？

蓮花：楽しかったから！

瀬野：お互い様だろ！。

蓮花：アハハっそっか！

話しながら歩いていると、あっという間に蓮花の家に着いた。

蓮花：・・・あれ？

蓮花の家から男の人と女の人が出てきた。

瀬野：お客さん？

すると、男の人が2人に気付いて・・・

蓮花：何で、ここにいるの？

たたずんでいるのは、幼い頃の記憶しかない蓮花の父、徹と、後妻の涼子だった。

第38話：父との再会（前書き）

前書き 男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・

・続きは本編でどうぞ・・・。

第38話：父との再会

父（徹）：．．．あ．．久しぶり．．．。

蓮花：瀬野、今日ありがとう。

4人がぎこちない様子でいると、家の中から祖父（健三）と祖母（咲）が出てきた。

祖母（咲）：まあ、瀬野くん送ってくれたの？

瀬野：．．あ、はい．．。

祖母（咲）：わざわざありがとね。上がって行ってって言いたいんだけど．．．。

瀬野：いえ、大丈夫ですよ！．．．あの、俺今、蓮花さんとお付き合いさせてもらってる瀬野といいます。

瀬野は蓮花の父と後妻の涼子に挨拶をした。

蓮花：．．．。

父（徹）：そうか．．あの．．．．．ありがとう。

瀬野：？

涼子：……。

蓮花：瀬野、また連絡する。今日は本当にありがとう。

瀬野：……ああ……またな。

瀬野は、蓮花の気持ちと状況を察したように蓮花の背中にそっと手を置いた。

瀬野：じゃ、また来ます！

祖父（健三）：気をつけて帰れな。

瀬野：はい！

瀬野は蓮花を心配そうに見た後、家に帰って行った。

祖母（咲）：あの、ここに居てもなんだから、も一度家入りなさい。
徹。

父（徹）：ああ。

蓮花：……。

家に入ると、祖母（咲）はお茶を入れた。リビングに全員座っているが、会話は無いままとても静かだった・・・。

蓮花：今更どうしたのよ・・・。

目を合わす事なく蓮花が問いかけた。

父（徹）：お前には・・・合わす顔が無くて・・・なんて言っていないか検討もつかなくて・・・。

涼子が徹の背中に手を置きながら、じつと徹を見つめていた。

父（徹）：あれから大分月日も経って・・・本当に今更なんだが、やっと・・・普通に生活できる様になって・・・お母さんを失ってから、喪失感でいっぱい、何をやっても埋まらなくて・・・。

父（徹）は、涙を流しながら話していた。

蓮花：・・・。

父（徹）：子育てまで・・・放棄する事になってしまった私を・・・この弱い私を、許してくれとは言わないが、どうしてもお前にだけは謝りたくて・・・やっここに来れて・・・。

蓮花は泣きながら話す父とそれを黙って見つめている涼子を見て、胸が苦しかった。よく一緒に公園で遊んだ父とは違って、とても弱々しく見えた。

涼子：・・・蓮花ちゃん・・・徹さんね、いつも蓮花ちゃんの事は思ってたのよ・・・ただね・・・。

蓮花：・・・解ってる・・・。

涼子の話を遮る様に蓮花が話した。祖父（健三）も祖母（咲）もただ黙ってそこに居た。

蓮花：・・・解ってる・・・解ってる・・・あたしは大丈夫だよ。

蓮花は父に何を伝えるべきか一生懸命考えた。

父（徹）：・・・。

蓮花が父の目を真っ直ぐ見ると、父（徹）も蓮花を真っ直ぐ見た。

蓮花：・・・あたし・・・じいちゃんとはあちゃんに大切に育てて貰ったよ・・・あたしは幸せだよ。だから大丈夫だよ。

蓮花は父を責める事はしなかった。

父（徹）：・・・ありがとう・・・。

涼子：蓮花ちゃん・・・。

蓮花：・・・気が向いたら、また家来てよ・・・涼子さんも。

すると、父（徹）と涼子は2人で泣き始めた。祖父（健三）と祖母（咲）も目に涙が溜まっていた。

祖母（咲）：そんなに泣かないで・・・徹！ほらっ涼子さんも！

祖父（健三）：徹・・・さっき会った瀬野くん、なかなか良い青年だぞっ。

父（徹）：・・・蓮花の彼氏だったよな・・・。

蓮花：・・・うん・・・今度ちゃんと会ってくれる？

父（徹）：・・・ああ、勿論。

涼子：・・・夕ご飯時にすみません、今日はひとまず帰ります・・・。

祖父（健三）：・・・そうじゃな・・・また改めて来る時は、一緒に飯食おうな！

父（徹）：・・・。

蓮花：嫌なの？

蓮花は冗談まじりに、少し怒った様な風に言った。

父（徹）：まさか・・・いいのか・・・？

蓮花：いいよっ・・・。

父（徹）：アハハ・・・ありがとう・・・。

父（徹）はまた目に涙を浮かべながら笑顔で言った。

蓮花：涼子さんも一緒に来てね・・・。

涼子：・・・ありがとう！

祖母（咲）：今日は寒いから、風邪引かないように帰りなさいね。

父（徹）：ああ、ありがとう。

父（徹）と涼子が玄関へ向かうと・・・

蓮花：涼子さんっ。

涼子：？

蓮花：・・・今まで父を支えてくれてありがとう・・・これは
私も宜しくお願いしますっ。あたしは、十分幸せだからっ、今度は
涼子さんが父と幸せになってっ。

蓮花は頭を下げながら言うと、涼子はまた泣きながら・・・

涼子：蓮花ちゃん・・・頭を上げて・・・ありがとう・・・。

父（徹）：・・・父さん・・・母さん・・・ありがとう。

祖父（健三）：何の何のっ、体に気をつけろよっ。

祖母（咲）：また今度ね！！（^^）！

そう言うと、2人は帰って行った。玄関のドアが閉まった後・・・

蓮花：・・・わあああつつ！！！！。

その場に座り込み、泣き崩れる蓮花の背中を祖父（健三）は何も言わず擦っていた。

祖母（咲）：蓮花・・・ありがとね・・・あなたは自慢の孫よ。

第39話：スケボー（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第39話：スケボー

次の日 -

P M 1 2 : 0 0

祖母（咲）：あら、蓮花おはよ。随分遅かったわね、起きるの。

蓮花：おはよ・・・。

祖父（健三）：昨日は良く眠れたか・・・？

蓮花：あんまり眠れなくて・・・寝付いたのが夜中3時くらい・・・。

祖母（咲）：あらあら、ご飯食べるでしょ？

蓮花：うん、ありがとう・・・。

『
』

祖母（咲）：蓮花、携帯なってる！

蓮花：・・・本当だ・・・。

蓮花は誰からかも確認しないまま、ぼんやりしながら電話に出た。

蓮花：はいはい蓮花・・・。

瀬野：俺だよ。

蓮花：瀬野・・・あ、おはよう・・・。

祖父（健三）と祖母（咲）は、瀬野からの電話だと解ると何だかホツとした。

蓮花：うん・・・・・・・・わかった。

数分瀬野と話をした蓮花は電話を切ると・・・

蓮花：ちよつと出かけて来るね。

祖母（咲）：その格好で行くの？デートって感じじゃないわよ。

蓮花は、膝上くらいまである大きめのグレーのパーカに、下はブルーデニムのスキニーを着ていた。

蓮花：こんなラフな格好で来いって言うから・・・。

祖母（咲）：あらそう・・ならいいけど、気を付けて行ってらっしゃいね。

祖父（健三）：遅くなりそうな時は電話しろな。

蓮花：うん、行って来ます。

蓮花は、瀬野に言われた通りスニーカーを履いて出かけた。

北公園前 -

瀬野：よっす！時間より少し早えな！

蓮花：．．．スケボー．．．できるの？瀬野．．．。

瀬野はスケートボードを2台手に持っていた。

瀬野：趣味。蓮花した事ある？

蓮花：ない！．．．けど、興味すごいある！

瀬野：そりゃー良かった！俺結構上級者！（^^）

蓮花：本当？すごい！教えてくれんの？

瀬野：勿論！この公園、スケボー用のコーナーあるから結構よく来るんだよ。

蓮花：へえ！滑ってみて！！

瀬野：よし！！

そう言うと、瀬野は持って来たスケボーで軽快に滑り出し、しばらくして蓮花の前にかえってきた。

蓮花：・・・かっこいい・・・。

瀬野：！！！！そ・・・そうか！？

瀬野は顔を少し赤くしながら言った。

蓮花：あたしできるかなあ？

瀬野：できるよつ、蓮花運動神経いいだろ？・・・けど、最初から今の技は早いから・・・乗り方と降り方からな。その後、プッシュ！

蓮花：はい！！（ハハッ）

瀬野：まず、足をテールに乗つけて・・・

2人は時間を忘れて、夕方まで遊んだ。

P M 1 7 : 0 0 I

瀬野：おーもう5時！

蓮花：えーっせっかく滑れる様になったのにいつ！

瀬野：アハハッ、いつでも教えるよ。また一緒に来よ。

蓮花：・・・はあい（＊、）あ、ちょっと、待ってて！

瀬野はベンチに座っていると、蓮花がジュースを買って走ってきた。

瀬野：おゝ気が利くー！喉カラカラー！

蓮花：はい！

瀬野：サンキュ！

蓮花は瀬野の左横に座った。

蓮花：瀬野、今日ありがとね。

瀬野：いやー、丁度会いたかったし。

蓮花は瀬野の左手を取って、手を繋いだ。

瀬野：……。

瀬野は、またその手を自分の方へ引っ張って、握りなおした。

蓮花：昨日さ、久しぶりに父親見たらさ、弱々しくってさ……色々言ってるって最初思ってたんだけど、言えなかった。てゆうか、言ったらダメだと思ってさ……。

瀬野は黙って聞いていた。

蓮花：何て伝えたらいいか解らなくて、自分は今幸せだっただけ伝えたよ……。

瀬野：……いんじゃないの、それが一番最善だろ。

蓮花：そうかな・・・。

瀬野：ああ。

そう言いながら瀬野は頭をコツンと蓮花の頭にぶつけた。

蓮花：多分、こんだけ気持ちに余裕ができてんの瀬野のお陰・・・。

瀬野：俺？

蓮花：うん。あたし、瀬野に助けられっぱだしっ。ごめんなさいっ。

瀬野：いや、彼氏の特権だし！他に頼られたら嫌だしっ！

蓮花は瀬野を見ながら嬉しそうに笑った。

瀬野もそんな蓮花を見てすごく嬉しかった。

蓮花家―

祖母（咲）：ねえ、出会うべき時に出会うもの・・・。

祖父（健三）：ああ・・・蓮花から見ると、徹達を見てるみたいだな。

祖母（咲）：そうねえ、付き合い当初から、違和感無かったわね、多分恵さんお嫁さんに来るわって直感的に思ったわあ。

祖父（健三）：ハハハッ！

第40話：角が取れる（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第40話：角が取れる

翌日―

蓮花：美里おはよー。

美里：あ、おっはよー！デート楽しかった？

蓮花：うん！

美里：幸せそ〜・・・いいなあ、あたしにも春来ないかなあ。

蓮花：美里、今週佐藤さんと映画じゃなかった？

美里：言ってたねー、・・・ハハハツつと。

蓮花：バイトは休んだの？

美里：休んでない、・・・後で聞くなあ・・・。

蓮花：あ！噂をすればだよつ、佐藤くんつ。

佐藤：？おはよー蓮花ちゃん、蓮花ちゃんから声掛けてくれんの珍しー、美里ちゃん、土曜日バイト休んだよねー？

美里：・・・、・・・。

佐藤：まさか休んでないの、悲しいなあ・・・。

美里：ていうか、本気だったんだ……。

佐藤：本気だよー！休んでよー！

美里：……解ったよ……休むよ……。

佐藤：本当に！？ラッキー！約束だからねー！

佐藤は手を振りながら、嬉しそうに4組に入っていった。

美里：はいはあゝいゝ。あいつ、あたしのどこがいんだろ……
あたしタメに好かれんの初だし……。

蓮花：美里上級生多いもんね。

美里：んーあいつの魅力もわからんっ……けど、いいや……行
つてみるかゝっ。

蓮花：楽しんできて！

美里：うん……。

蓮花：あのさ、美里……話変わるけど、あたし土曜日父親に会っ
たよ。

美里：徹さんに……？

蓮花：うん・・・結局何にも言えなくて・・・涼子さん見てたら・・・すごい支えてたんだって伝わってきて・・・言いたかった事より大変さの方が見えてきちゃって・・・

美里：・・・瀬野は？

蓮花：知ってる・・・土曜日送ってもらった時、少し遭遇して・・・。

美里：そか・・・なら、徹さんも安心したんじゃない？蓮花幸せそうで・・・。

蓮花：そかな・・・。

美里：そうよ、瀬野という時、幸せそうだよ。今幸せって伝えれた？

蓮花：うん。

美里は優しく微笑んだ。

美里：親孝行だね・・・瀬野いて良かった・・・いなかったらあたし出番だったけどねっ！、

蓮花：本当だ・・・。

美里：あゝあたしも彼氏欲しい

すると割って入る様に高橋が入ってきた。

高橋：美里ー！俺あいてるぞー！

美里：聞いてたのかよっ、っつか、聞いてないよっそんな情報っ。

高橋：だって瀬野も最近ご機嫌だしよっつまんねえなあ、あいついじるの面白かったのにー。

瀬野：おい！、お前、朝から何なんだっ！

瀬野が高橋の後ろから首に腕を絡めて言った。

高橋：！来てたのかよっ。く・・・苦し・・・。

瀬野：今来たんだよっ！

蓮花：おはよっ。

瀬野：おすっ。

美里：ふうっっ幸せそっ。

瀬野：うるさい！

高橋：木内も角取れたみたいになってさ。

蓮花：角取れた？

高橋：・・・木内が！！！！・・・木内がこっち見て話してるよーっ！

蓮花：え？

瀬野：朝からうるせーなお前は・・・。

美里：アハハッあたしも嬉しい

蓮花：？

瀬野：俺は少し不安になるよ・・・。

蓮花：？

美里：何でよっ、瀬野効果大きいでしょー名誉名誉！

父親との少しの和解と、祖父母以外に自分を理解してくれる瀬野の存在が確実に蓮花を変え始めていた。

そんな蓮花を嬉しく思う美里とは裏腹に瀬野は少し焦りも覚えたが、嬉しかった。

第41話：意外な佐藤（前書き）

男子が苦手だった蓮花はクラスメイトの瀬野と付き合うことになり、父親とも和解しつつあった。そんな中、田中の友人、佐藤が美里の事を好きになり・・・続きは本編でどうぞ・・・

第41話：意外な佐藤

11月の土曜日に4組の佐藤と美里は約束通り待ち合わせをしていた。

美里は、約束の10時より少し早く待ち合わせ場所に来ていた。11月も半ばになり、外はすっかり冬モードに入りつつあった。美里がぼんやり待っていると、佐藤が小走りやってきた。

佐藤：美里ちゃん早い！

美里：うん、佐藤も以外に早い。超ルーズかと思ってた（笑）

佐藤：いきなり辛口（笑）、俺結構テキパキしてるのに。

美里：多分、話し方だねー語尾伸ばす感じがっ。

佐藤：あゝ、これかー…治るかなあ…。

美里：治さなくていいよっ。

佐藤：美里ちゃんが治さなくていいってーなら治さな〜い

美里：・・・あっそ。

佐藤：つれないなあ〜ていうか、今日貰った映画のチケット、ホラーなんだよね（、、）

美里：っえー！この前、蓮花が観て超怖かったつつてたアレー！
？あたしホラー苦手ー！、、。

佐藤：なあんだ苦手かゝならー！水族館とか行くー？（、、）

美里：映画のチケ無駄んなっちゃうよ？

佐藤：別にいいよ、美里ちゃんと水族館行けるなら（、、）決
まりね

美里：・・・いや！、、！

佐藤：？

美里：ホラー観る！

佐藤：え、？無理は・・・

美里：無理じゃないっ、行くー！の変わり・・・途中で叫んだらごめ
んなさい・・・。

佐藤：何それ（、、）叫んでも全然いいよ、俺は。義理堅い
なゝ美里ちゃんは、じゃ、ホラー行くけど、途中で無理な時は言
ってね

美里：はい・・・。

美里は約束をした以上はそれを守る・・・という義理堅い性格なの

で、映画だったけど、そんな些細な約束さえも美里にとっては約束は約束だった。

2人は映画館に入り、後ろの座席に座った。

美里：緊張するー。

佐藤：あはは、美里ちゃん、出たい時はすぐ言っただよー。映画の約束したけど、そこにはこだわってないからー（、、）

美里：うん！

映画が始まってすぐ、辺りは静かになり、美里はガチガチになり座っていた。

その様子を佐藤は横から眺め、クスクス笑っていた。

映画が始まってから40分程経過した時・・・映画のスクリーンに急におどろおどろしい映像が映りこんだと思ったら・・・

美里：っギャー！！！！

美里の悲鳴は映画館に結構な具合で響き、佐藤は映画より美里の悲鳴に驚いた。

佐藤：くっ・・・（笑）美里ちゃん・・・くくくっ、出ようか・・・。

・
美里は映画館が暗かったために解らなかったが、顔を真っ赤にして、これ以上は観れないと思った。佐藤と美里は映画館の外に出ると・

美里：！！ごめん！！（Ｔ―Ｔ）

佐藤：アハハハ！！！！（大爆笑）全然いいけど！！！！まじか！！？

美里：・・・だつて！！

佐藤：あゝ、お腹痛あい！あーごめんごめん、美里ちゃんしっかりしてるイメージしかないからさあ、意外中の意外だったよ。大丈夫？

美里：大丈夫です・・・ていうか！そんなに笑わないで！！

佐藤：ごめん！時間中途半端だけど何か食べる？

美里：食べる・・・。

2人は喫茶店に入り、昼食をとる事にした。

美里：あゝ、やっぱり無理だったわ。

佐藤：だから言ったのにいゝ、けど美里ちゃん約束守ってくれたんだよねゝ気持ちちはちゃんと伝わってるからいいよゝ。

美里：約束は約束だけど、途中で放棄しちゃったけどねゝゝまた別の映画今度観に来よう。

佐藤：え？いいのゝ！？ラッキゝ！

美里：ゝゝゝ何であたしとそんな映画みたいの？

佐藤：えゝ、美里ちゃん好きだしゝ。

美里：あつそ。

佐藤：またまたつれないなあゝゝゝ美里ちゃんさあ、何にも考えてないフリしてさあ、いつも周りの事考えてんじゃん？で、タイミングもいいし、空気も読むでしょゝ？過干渉じゃないし、頭いいよねえ。俺そういう人に初めて出会ったんだよねえゝ。

美里：ゝゝゝゝそう。

佐藤：俺さあ、優しさの押し売りとか、正義感の押し売りとか苦手でゝ、あ、けど正義感もや優しさも持つてないよりは持つてる方が好きなんだけどねゝゝ。美里ちゃんは本当にストライクなんだよねえ。蓮花ちゃんとも田中とも瀬野とも、いい感じだもんねえゝ。

美里：そうゝゝゝゝゝ意外ねゝゝゝ。

佐藤：？何がゝ？

美里：・・・・あたしもそついうの苦手・・・・。

美里は価値観が自分と似ているのに少し驚いていた。チャラチャラした奴だな・・・・という印象しか持っていなかったが、佐藤に対する印象が少し変わった。

第42話：美里と蓮花（前書き）

男子が苦手だった蓮花はクラスメイトの瀬野と付き合うことになり、父親とも和解しつつあった。そんな中、田中の友人、佐藤が美里の事を好きになり・・・続きは本編でどうぞ・・・

第42話：美里と蓮花

佐藤：あのさ、美里ちゃんはさ、なんで蓮花ちゃんと仲良くなったの？ちよつと興味あつてさあ。

美里：・・・蓮花と？ええつとねえ・・・

中学回想 -

中学時代の美里は男女問わず仲良くなれるタイプだったが、女子とつるむのを苦手としていた。

一方、蓮花は入学当初は容姿端麗で男子中心に騒がれたが、本人の男子嫌いが災いして、次第にその噂は広まっていき、隠れファンという感じにおさまってきていた。

美里も蓮花もタイプこそ違ったが、校内ではどちらも目立つ存在だったのでお互いに認識はしていた。

そして、美里は1人で行動する事が多かったが、蓮花も大概1人で行動していた。というのも蓮花は、男子に騒がれるがゆえに、女子から反感をかう事も多く、そういった事がさらに災いして男子嫌いに輪もかかっていった。

中学3年で同じクラスになった後も1学期はほとんど会話する事なく過ぎた。その頃蓮花は、男子絡みの逆恨みもごく1部だったので、一緒につるむまではいかなかったが、次第に女子とは仲良くできる様になっていた。

そんな夏休み前のある日、1つの事件が起きた。

女子集団：美里ちゃん、絵里がさあ河野くんの事好きって知ってるよね……？

美里：うん、知ってるけど……。

女子集団：美里ちゃん最近河野くんと話す事多くない？絵里がかわいそうだよ。

美里：あー……そうなんだ……だけど、話してるだけで別に好意がある訳じゃないよ？

この頃美里は女子の独特な連帯感が苦手で、女子とつるむのを苦手としていた。

女子集団：そうだけど、こういう時はさっ協力するもんじゃん！

その様子を席が近かった蓮花は、見てはいなかったが、聞こえてきていた。

蓮花：……。

美里：協力って……あたし言うてる事よく解んないんだけど。

女子集団：解ないってっ！美里ちゃん冷たいっ。

美里：え？冷たいって・・・協力って・・・そういう・・・。

女子集団：ねえ！蓮花ちゃんもそう思うでしょっ！？

女子がいきなり前を向いて座っていた蓮花に問いかけた。

蓮花：は？

蓮花は少し冷めた顔で振り返り、女子集団を見渡して言った。

蓮花：全然冷たくないと思う。

女子集団：えっ！？蓮花ちゃん美里ちゃんの味方なのっ！？

蓮花：あたしはどっちの味方でもないよ。ただ、加藤さんは冷たくないと思うよ。

蓮花は感情的にならず、淡々と答えた。

美里：・・・。

女子：だって絵里がかわいそうじゃんっ！？

蓮花：思わないよ？河野くんと話さない事が優しさなの？な訳ないでしょ？河野くんは物じゃないし、そこは自由だよ。
もっと他に協力の仕方あると思うし、屈折してるよ。

女子：あたし達はただっ・・・絵里の為にっ・・・。

蓮花：それは解るよ。それが屈折してる。私は、誰かの為ってそういう事じゃないと思う。

蓮花は女子集団の方をまっすぐ見て、堂々と自分の意見を伝えた。

女子：・・・。

いつも言葉少ない蓮花がはっきりと意見を言ったので、女子もビツクリしたと同時に、何も言う事ができなかった。

美里：・・・いや、もういいよ・・・。

蓮花：良くないよ。

美里：え？

蓮花：加藤さんちゃんと協力してるでしょ。絵里と河野くん話でき

る様にアシストしてるでしょ、だから、加藤さんに謝って！

女子集団：……そうだったんだ……美里ちゃん、ごめんなさい……。

美里：いや、別にいいよ。

女子達は、気まずそうに、そそくさとその場を去っていった。

美里：……なんか……ありがと……。

蓮花：別に。自分がああいうの苦手なだけだし、だから自分の為だよ。お陰様でスッキリした。こちらこそ余計な事してごめんなさい。

美里：え？

その瞬間、美里は大笑いした。

美里：アハハハハッ！何それっつ。自分の為ってっ。

蓮花：だって加藤さんは別にどっちでも良かったでしょ？

美里：……確かに、どっちでも良かったけど……誤解されようが、されなかるうが……けど、単純に嬉しかったから、ありがとっ。

蓮花：……そ。

この件以来、美里と蓮花はよく話をする様になり2人で行動する事も増え、いつの間にか親友になっていった。

喫茶店―

佐藤：へえ〜（、）そんな事がね〜。

美里：あたしが唯一本音で色々話できる友達かなー蓮花は。多分、あん時、加藤さんの為につとか言われてたら、余計なお世話とかくらい言ってたかもしれない・・・。

佐藤：なんか蓮花ちゃんに妬いちゃうな〜。

美里：は？

佐藤：美里ちゃんと蓮花ちゃんの馴れ初めも聞けたし〜、次は水族館行こうか〜（、、）

美里：うん、いいけど。

第43話：ジンベエザメ（前書き）

男子が苦手だった蓮花はクラスメイトの瀬野と付き合うことになり、父親とも和解しつつあった。そんな中、田中の友人、佐藤が美里の事を好きになり・・・続きは本編でどうぞ・・・

第43話：ジンベエザメ

佐藤と美里は喫茶店を出ると、近くの水族館へ向かった。

佐藤：美里ちゃん何が見たい？

美里：ジンベエザメ。

佐藤：・・・ぶははっ、ジンベエザメか！

美里：何！可愛らしく、イルカかなあゝ　とでも言うと思った？

美里は、両手を前で組みながら、瞬きを数回して上目遣いと言った。

佐藤：思わなかったけど、ジンベエザメとは思わなかったなあゝ。

美里：あははっ。ごめんごめん！

佐藤：何で謝るの？俺こんな風に、イルカかなゝ　とか言う女子
苦手だしゝ（笑）

佐藤もさっきの美里の真似をして両手を前で組みながら、瞬きをパチパチッと数回しながら答えた。

美里：あはははっ！やめてよっ、あんた変わってるねえ。大体男子ってそういう子好きじゃん。

佐藤：だねー可愛いとは思っけど、それだけー。それから、拓だよ拓。名前。

美里：拓？じゃー呼び捨てOK？

佐藤：OK。けど何で美里ちゃんジンベエザメなの？

美里：んー。ジンベエザメってさあ、群れないじゃん。優雅に堂々と泳いでてさあ、あんなに存在感あってでっかいのに、性格優しいももんねえ。そんな感じの所が見て癒されるー。

真顔で答える美里を佐藤はじっと見ていた。

佐藤：。．．．なんか美里ちゃんみたいだねえ。

美里：っえー！！いや！そんな格好良くないし！！ジンベエ様までにはっ！

普通の女子ならサメという時点で嫌がりそうな所を美里はなんだかうれしそうに冗談めいて、右手を左右に振りながら謙遜していた。その様子を見た佐藤は、クスクスと笑っていた。

佐藤：美里ちゃんやっぱいいよねえ。

美里：は？

佐藤：思った通りの人だ。じゃあ俺海みたいな人になる。

美里：海？

佐藤：だってジンベエザメが自由に泳げるでしょ？

美里：……海みたいな人……考えた事もないけど……。

佐藤：あー美里ちゃん冗談だと思ってるでしょ、。

美里：冗談意外ないでしょうがっほらっ水族館、着いたしっ！

2人は水族館に入ると、小さな熱帯魚からクラゲ、さらには名前も不明な形の珍しい魚達を見ながら歩いていると、ジンベエザメのコーナーにたどり着いた。

佐藤：美里ちゃん、ジンベエザメ！

美里：……本当だあ……。

2人の上をジンベエザメが優雅に泳ぎながら通り過ぎた。

美里：やっぱりいいなあ。

2人はしばらく上を見たままたずんでいると、ジンベエザメが角を曲がり見えなくなつた。

佐藤：同じ水槽だから歩いてたらまたきつと会えるよ。行こう。

美里：うん。

それから数回ジンベエザメにも無事会つ事ができ、満喫した2人は水族館を後にした。

佐藤：良かったねえ

美里：うん良かったあ　ここ来るの2度目。行ける距離だとなかなか来ないからさ。

佐藤：良かったあ美里ちゃんが楽しんでくれて～（^^）　そいえばさあ、美里ちゃんて何のバイトしてんの～？

美里：喫茶店だよ。接客。

佐藤：そっかあ。今度行くよ～。

美里：え？部活あるから無理じゃん？そっいえば今日部活は？

佐藤：今から部活～。喫茶店は1人で行くよ～部活帰りにい～。

美里：っえ～！！今から部活！！？？行ってくれば、またの機会

でも良かったのに！！

美里は驚いて、足を止めて佐藤の方を振り向いて言った。

佐藤：だってうちのサッカー部毎日練習あるから、こんなでもないかと美里ちゃん誘えないもん。

美里：・・・・・・そうなんだ・・・・・・。

佐藤も美里に合わせて一瞬足を止めて言ったが、また2人ともゆっくり歩き始めた。

佐藤：美里ちゃん、俺の事本気で考えてね。

美里：・・・・・・本気なの！？

美里はまた足を止めて、佐藤の方を振り向き言った。

佐藤：やっぱり冗談と思われてる。

歩きながら答えた佐藤は、美里を振り返りながら言った。

美里：や・・・あたし、年上としか付き合った事ないし・・・。

佐藤：けど、年齢と中身って必ずしも比例しないでしょう？

中学生の頃は勿論上級生と、そして高校では、夏頃まで美里には大學生の彼氏がいたが、束縛もわがままもすごくなり、わずか2ヶ月程度で破局していた。年上だと期待して付き合っていると、意外に子供じみていたりして、美里もよく解らなくなっていた。

美里：・・・そうだね・・・。

佐藤：俺さあ、恋愛とか全く興味なかったんだよねえ。サッカーさえあれば別に何でもいいやって思ってたんだけどさあ、美里ちゃん見てたら、サッカーもつと頑張れそうだなって思ってた・・・後は！・・・側に居て欲しいから・・・居たいから？かな？

美里：・・・そう・・・。

佐藤：今すぐじゃなくていいからゆっくり考えて。俺、気は長いからゆっくり待ってる。

第44話：バイト（前書き）

男子が苦手だった蓮花はクラスメイトの瀬野と付き合うことになり、父親とも和解しつつあった。そんな中、田中の友人、佐藤が美里の事を好きになり・・・続きは本編でどうぞ・・・

第44話：バイト

デートから数日が過ぎ、美里は佐藤の事が気になりつつ、普通の学校生活を送っていた。

教室の廊下側の席に座っている美里は、ふと4組の方を見ると、佐藤が女子と会話をしていた。

美里：（あいつ、今まで気にもしなかったけど、結構女子と話してるよなあ・・・てか、男女問わず・・・か。親しみ易いんだな・・・）

すると、美里に気付いた佐藤が笑顔で手を振った。

美里：・・・あはは・・・陽気なやつ・・・。

美里も呆れた風な顔で、手を振り返した。

その様子に気付いた蓮花が、すかさず美里に聞いた。

蓮花：ねー美里、佐藤ちゃんと付き合いだしたの？

美里：まさか・・・（、）・・・真剣に考えてくれとは言われ

たけど・・・。

蓮花：本当！？やっぱり佐藤くん本気だったんだ。

美里：んー・・・よく解らん（、、）。

蓮花：今までの美里のタイプとは違うよね。

美里：明らかに・・・ね。待つんだってさ。

蓮花：やだ本気っ・・・けど、美里断らない所見ると、嫌ではないんだね・・・。

美里：だよねゝあたしもビックリ。てゆっかいつの間にか、あいつのペースになつてる感じがするっ！、ゝやだ、催眠術！？

蓮花：違うと思うよ？

目を細めて、蓮花はすぐに突っ込んだ。

美里：いいの！あたしの事は！

蓮花：はいはぁゝい、けど何かあった時は言うてくださあい。

美里：ありがとっ。

美里は笑いながら言った。

美里：今日もバイトがんばろー！つつ。

両手を上に上げながら美里は叫んだ。

蓮花：ねえ、美里、あたしもさバイト始めようかと思って。

美里：何のバイト？

蓮花：ファミレス。昨日面接行ったらOKです　って。

2人が話をしていると、瀬野が教室へ入ってきた。それと同時に、女子と話をしていた佐藤が窓側の美里の傍へ歩いてきた。

美里：あゝ瀬野。

佐藤：美里ちゃんお久あゝ

美里が廊下側を振り向くと、佐藤が肘を突いて顔を出していた。

瀬野：何の用だ佐藤っ。

佐藤：相変わらず瀬野も俺に冷たいよなあゝ、。

美里：瀬野、蓮花バイトするんだ。

瀬野：あーらしいなあーっ、まったく心配事が増えるつつうの。

蓮花：はあ？自分だって先週から始めたじゃんかー。

瀬野：俺はいいのー。

佐藤：瀬野って蓮花ちゃんの事になると余裕ないよねえ。

瀬野：！！お前のそういう所がイライラすんだよっ！

佐藤：え？図星だからあ？

瀬野：なっ・・・。

美里：まゝまあゝ2人とも落ち着いてー（ー；）

瀬野：だってお前ファミレスっていっぱい男くんだぞ？どうすんだよっ。

蓮花：どーもしないし・・・客だし。

瀬野：そういう意味もあるが、そういう意味でなくてっ！！

佐藤：え？何何い？他のカッコイイ男子に蓮花ちゃん奪われないか心配なの？瀬野って蓮花ちゃんの事ちゃんと見てないと思うー。

瀬野：！！見てるよっ。

美里：えゝ？そうかなあゝ？見てないと思うー。

美里は佐藤の口調を真似て言った。

瀬野：お前ら・・・わざとかつ。

美里：いるよねえ、自分の彼女になった途端に籠の中に入れたがるタイプ。

佐藤：いるいるゝ、まさか瀬野もそういうタイプだったとはねえゝ。

瀬野：！！！！そうじゃねえよっ！

蓮花：えゝそうだったのおゝ？

蓮花も佐藤と美里の口調真似をして言った。

瀬野：・・・。

瀬野が少しいじけた様子なのを悟った蓮花は・・・

蓮花：その籠、嫌じゃないけどね。

瀬野：！！！！

瀬野は顔を赤くして蓮花を見た。

蓮花：でもバイトはするしっ！

瀬野：・・・・はい・・・ですよね・・・・。

佐藤：何だかんだで仲いいねっ、。

美里：（コントか・・・・（ー；；）・・・・うん。

佐藤：美里ちゃんてバイト何時までなの？

美里：いつも大体8時までだよ？今日は9時までかな。

佐藤：そうかあゝじゃあ、今日部活早く終わったら行くよ。

美里：え？本当に？でも喫茶店だから部活帰りに・・・微妙じゃない？

佐藤：全然。美里ちゃんに会えればそれでいいから（^^

美里：・・・・あつそ。

佐藤：またまたつれないなあゝ、あ、次の授業始まっちゃうから俺教室戻るね（^^

美里：はいはい。

佐藤は手を振りながらその場を後にした。

蓮花：佐藤くんて・・・頑張るね。

美里：本当だよねぇ。今まで大人男子にしか興味なかったから、戸惑うよねえ。軽いイメージがどうも取れないし・・・。

瀬野：佐藤は結構深いと思うぞ。

美里：深い？

瀬野：ああ。あいついい奴だと思うぞ。

美里と蓮花は、会う度に佐藤と口喧嘩をしている瀬野の発言をキョトンと聞いていた。

第45話：優しさ（前書き）

男子が苦手だった蓮花はクラスメイトの瀬野と付き合うことになり、父親とも和解しつつあった。そんな中、田中の友人、佐藤が美里の事を好きになり・・・続きは本編でどうぞ・・・

第45話：優しさ

夕方美里は学校が終わるとバイト先の喫茶店へ向かった。裏口から喫茶店へ入ろうとすると、同じバイト生の椿（他校生）が同級生と話をしている様子だった。なんだか険悪なムードが漂っていたが、この光景を目にするのはバイトを始めてから実は3度目くらいだった。

美里は、椿に話かけた。

美里：椿、早くお店入らないとマスター怒るよ（笑）行くよつ。

椿：あ！！そつか！！・・・あの・・・それじゃあつ。

椿は女子達にそう言うと、美里に続いて店内にそそくさと入って行った。

美里：お疲れ様です！

マスター：おゝみさっちゃん、椿ちゃんお疲れ！今日も宜しくねえ。

美里：はあい！

美里と椿が喫茶店のロッカー室に入ると、同じくバイト仲間の未央（他校生）が先に来ていた。

未央：お疲れ美里。

美里：あ！お疲れ！

椿：お疲れ。

美里：今日もバイト頑張ろうねえ！

椿：・・・うん！

未央：元気だな美里は！

美里はエプロンをつけると笑顔で店内に入っていた。

未央：・・・ねえ椿、さっきの人達ってこの前の人達でしょ？

椿：・・・うん。

未央：あんだだけあたしが言ったのに、まだ？

椿：・・・うん、ごめん。

未央：椿は謝らなくてもいいよっ！悪いのはあいつらじゃん！あたしああいう人達って許せないんだよね！！椿口数少ないからいい気になってんじゃない！？どうなのそれっ。

椿：．．．．。

未央：今日もお金いくらあげたの！？

椿：．．．．だって．．．。

未央：っもっ！！ダメだよ！今度きたらあたしまた言うからね！この前はあたし見て帰って行っただけだよ！！

椿：．．．．あ、大丈夫だよ．．．何とかするから．．．。

未央：大丈夫じゃないよっ、美里ちゃんにも手伝ってもらおうかなっ。

マスター：おゝい、2人とも準備できたか？

店内はお客さんが増え始め、騒がしくなってきた為、マスターが2人を呼びに来た。2人は慌ててロッカー室を出て、店内に行った。

未央：すみませえんっ。

マスター：今日も頼むよっ。

美里が勤めている喫茶店は人気も高く、夕方は主に会社帰りのＯＬで賑わっていた。今日は美里と未央が９時まで、椿は８時までのシフトだった。

PM 8 : 40 -

店内が少し落ち着いてきた頃、ドアが開いた。

『カランカラン』

美里：いらっしやいませ・・・あ！！

佐藤：来るっていったでしょ？

佐藤は、店内に入るとカウンターに座った。

美里：まさか本当に来るとはっ・・・。

佐藤：えゝ俺どれだけ信用ないのよ・・・、。

美里：・・・けど、部活帰りに何食べる？・・・。

佐藤：俺甘いもの好きだし大丈夫だよ？とりあえず、珈琲って言いたい所だけど・・・やっぱコーラとく・・・何があるかなあ。腹減った。

美里：軽食食べる？サンドイッチとかになるけど・・・。

佐藤：うん！それ！！

美里：了解！！

美里は佐藤のオーダーを聞くと、カウンターの方へ行き準備をしていた。

未央：ねえねえ美里ちゃん、あの人美里ちゃんの彼氏？格好いいね！

美里：違うし・・・（――；）

未央：そうなのっ！？サッカーやってるんだねっ部活帰りっ。スポーツマンで背も高い！

美里：・・・んーそうだね・・・（――；）

店内の客はいつの間にか佐藤だけになっていた。

美里：はい！サンドイッチとコーラ！

佐藤：わあうまそ〜！いただきまあす！美里ちゃん9時まででしょ？

美里：うん。

佐藤：じゃあ、あと少しだね、一緒に帰ろうよ。

美里：・・・うん、お家一緒の方向？あたし北方面だよ？

佐藤：俺も北！

美里：そっか・・・一人で食べておいしい？（笑）

佐藤：美里ちゃんと帰るのが目的だから全然おいしいよ（笑）！

美里：・・・あつそ！っていう間に9時だしつ。ゆっくり食べてね！
！食べてる間、あたし後片付けしてるし、待つから。

佐藤：嬉しい事言ってくれるなあ〜はあい！

美里は少しあきれ加減で答えたが、悪い気は全くしていなかった。
美里が食器を洗っていると、未央が話しかけてきた。

未央：ねえ、美里ちゃん、椿の事なんだけどさあ、あの子同級生か

らカツアゲあつてゐたいんだよね、今日も裏で！許せない！？

あたしああいう弱い者いじめみたいなの許せなくって！1度追い払ってやったんだ！

椿がさあ！何も言えないのにつけこんでる感じだよーね！

美里：・・・。

お店は緩やかな音楽が流れていたが、カウンターでサンドイッチを食べていた佐藤にも何となく話は聞こえてきていた。

未央：こちらでさあ、何とかできないかなっ！でなきゃ椿かわいそうだよっ！絶対あたし許せない！

美里：うーん・・・未央の気持ちは解るけど、これは椿の問題だから。

未央：美里ちゃん、同じ未央のバイト仲間でしょ？何とも思わないの！？

美里：思わなくはないよ・・・けど、こちらが何とかしても意味ないよ。しばらく見守りなって。

未央：・・・何それっ、あたし美里ちゃん見損なっただ！

美里：・・・え！？

未央：美里ちゃんなら何とかするって思ったから言ったのにつ。じ

やあ、美里ちゃんはどういう考えなの！？このままほっとけつて言うの？

美里：・・・・・・。

美里は食器を洗い終わると、水道の水を止めた。

美里：きつい事言うようだけど、大丈夫？

未央：・・・・え？・・・・大丈夫だよ・・・・。

美里：あたし、椿からカツアゲの事何にも聞いてないよ。これは椿の問題で、椿が自分で何とかしたいって思わないと何にも解決しないんだよ。そして、椿がカツアゲされてるのを、未央は私に言っ、その相手を追い払ったとか言っ、たけど、それって椿の為なの？

未央：・・・・そうだよ・・・・。

美里：・・・・本当に椿の事を思うなら、カツアゲされてたとか自分がそいつらを追い払ったとかは第3者に言っちゃだめだよ・・・・あたしが椿なら、カツアゲされてたとか人に言われたくない。

あたしは、椿が自分であたしに相談してきたら助けるよ。椿がそうしたいって思わなくちゃ意味ないと思ってるから。言っ、てこない所を見ると、椿にも何か考えがあるかもしれないし、今あたしにできる事は、現場を見かけたら、一緒に店内に連れてつたり、バイト中、椿が余計な事考えないように楽しくバイトできるようにする事くらいだよ。

未央：・・・・・・・・・・そつか。

未央は何だか恥ずかしくなってきた。

美里：ただ、もしもよ、椿が助けて欲しいって思ったとして、それ
で関係が成立してるならそれはそれで良いと思うけど・・・あたし
それも何か違う気がして・・・まずは椿が動かなくちゃ意味ないと
思ってる。

そこには依存しか存在しない気がするよ。人によるけど・・・だ
から、今回の件は、椿があたしに本気で相談してきたら、あたしは
全力で助けるよ。それまではあたしなりに見守るよ。限界まで。

時間は9時30分になっていた。そこへマスターが気を利かした様
に入ってきた。

マスター：おいおい、もう9時半だぞ！ごめんよ〜気づかなくて〜。

美里：あ！もう9時半なんだ、未央！帰ろう！拓！ごめん！！遅く
なった！！

佐藤：いいよ〜裏で待ってる〜。

佐藤は笑顔で答えた。

美里：マスターお疲れ様でした！

未央：お疲れ様です。

マスター：うん、明日も宜しく頼むね。

美里と未央はロッカー室へ行きエプロンを取ると、急いで裏口から出た。

佐藤：お疲れ、美里ちゃん。

美里：ごめんね、ありがとう。

未央：あのっ・・・美里ちゃん！

美里が未央の方を見ると・・・

未央：今日はごめんなさい。

美里：・・・ううん、いいよ・・・言い忘れたけど・・・あたし、未央みたいに正義感ある人好きだから・・・全く無い人なんかより全然好き。

未央：本当？

美里：そういうの大事でしょ。

未央：あたし美里ちゃんに嫌われたかと思ったけど・・・そっか・
・なんか恥ずかしい！自分目線で見えてないあたしっ！美里ち
ゃん、これからも宜しくねっ！

美里：勿論！こちらこそ宜しくね！

未央：うん。宜しく！あ、彼氏さんもごめんなさい。

佐藤：いいんだよ。

美里：彼氏じゃないしっ！！！！

未央：アハハ。それじゃあ、また明日！

佐藤：帰り遠いの？

未央：・・・ううん、すぐそこです！

佐藤：送らなくて大丈夫？

未央：っ全然っ！大丈夫です！うち見えてるしっ・・・あの、あり
がとうございますっ。

佐藤：タメだからタメ語でいいし。

未央：タメなの！？先輩かと・・・ありがとう！

佐藤：気をつけてね。

未央：はい・・・あ！うん！それじゃあ！

そう言つと未央は走つてその場を去つた。

美里：・・・本当にごめんなさい。

佐藤：ううん、全然いいよ。こうして一緒に帰れてる訳だし。

美里：けど30分くらい待たせて・・・。

佐藤：言つたろ？俺気が長いって。（笑）

美里：サッカーでも気が長いの？

佐藤：サッカーでは超短気（笑）！

美里：アハハっ、だよな1度試合見に行った時すごい顔違つたもんね。

佐藤：あゝあの惚れ直してないって言われた事件だっけ、。けど俺今日美里ちゃんもつと好きになつたけど。

美里：え？

佐藤：美里ちゃんやっぱ優しいよね。

美里：????ええ???・・・ちよつときつかったかなって自己反省してたし・・・。

佐藤：けど、自信もってちゃんと自分の意見を言っただんでしょ?

美里：うん勿論・・・。

佐藤：じゃあ、自己反省はいらないよ。

美里：そうかな・・・。

佐藤：そうだよ。美里ちゃんの一生懸命で精一杯の優しさなんですよ?

美里：・・・うん。

佐藤：伝わって幸い、伝わらなきゃそれまで・・・今回は伝わったみたいだね。良かったね。

美里：・・・拓・・・ありがとうね。

佐藤：名前で呼んでくれたの3度目だね。(^^ 嬉しいなあ?)

美里は佐藤といるとなんだか落ち着いた。

美里：だ〜!!柄にもなく熱く語っちゃってえ!!聞いてくるからあ〜!恥ずかしいよ〜今日は〜っ。

佐藤：美里ちゃんって、普段あんまり言葉にしている様でしてないからねえ。色んな美里ちゃんが出てくるけど、俺全部好きだけど。

美里：好き好き言っなっ！

佐藤：だって好きなもんは好きでしょ？

第46話：決着&過去形（前書き）

男子が苦手だった蓮花はクラスメイトの瀬野と付き合うことになり、父親とも和解しつつあった。そんな中、田中の友人、佐藤が美里の事を好きになり・・・続きは本編でどうぞ・・・

第46話：決着&過去形

それから数日 -

美里と未央が話をしてから数日、今日は美里と椿が9時上がりだった。

マスター：おい、みさっちゃんと椿ちゃん！今日もお疲れ！9時だから帰っていいよ。

美里：もう9時だ！椿！上がるうかつ！（^^）！

椿：うん！マスターお疲れ様でした！

マスター：2人とも気を付けて帰れよ。

美里、椿：はい！

2人はロッカー室へ行き、エプロンを取ると裏口から出た。すると、2人の女子と男子が1名裏口で椿を待っていた。この女子は以前から椿からカツアゲをしていた2人だ。

椿：・・・美里ちゃん、先帰ってていいよ。

美里：・・・。

とは言うものの、美里もさすがにその場を去る事はできなかった。

女子：椿、今日バイト前に会えなかったからさういつものって思ってた。

椿：……。

美里：（男までいるし……）……椿、あんたさあ……いつまでこんな続ける気だよ。

椿：……美里ちゃんには……解んないよ……。

美里：……うん、一生解らないと思うわあ。

椿：……！

美里：あたしは、自分で守りたいもんや大切にしたいもんは自分で解ってるから。人に媚売る様なやり方でしか守れない様なもんなんで、必要ないし、要らない。

椿：……あたしがこうしないと、妹が変わりになるの！妹守る為だったら、こんくらい何て事ない！

美里：ふーん……この場合はどうなんだろうね。根本的に自分を大切にしない人は誰も何も大切になんてできやしないし、守れないと思うけど。

椿：！！！！。。。。。

椿は妹を守る為にと思っていたが、美里の言葉に衝撃を受けた。

美里：まあ。。。あんたがそれでいいなら、いんじゃない。

美里は少し不機嫌そうに椿を見ながら言った。すると、一緒に来ていた男子が。。。

男子：つつかさ、ごちゃごちゃうるさいし、あんた誰だよ。俺ら椿に用事あるから来たのにさあ。

美里は自分に言われているのは解っていたが、しれっとしてその場にいた。

男子：無視かよ！！

椿：やめて！！！！美里ちゃんには関係ないから。。。。。

女子：ごちゃごちゃ言っでないでさ、いつもの貰ったらすぐ帰るし
うちら。椿ちゃん！

椿：。。。。。。。

女子：早くしてよっもう遅いしさあ。

椿はいつも通り、財布を出そうとしたが、さっきの美里の言葉が頭をよぎった。

女子：早く、椿ちゃん

椿：・・・・・・・・・・やらない・・・。

椿は両手を握りしめて言った。

美里はハッと椿を見た。

女子：は？何？妹から貰っちゃおっかなっじゃあ。

椿：！！やめて！それもさせない！！だからこんな関係続いてたけど・・・もう・・・一生ここには来ないで！

椿が一生懸命叫んで言っているのを聞いて美里は少し笑みを浮かべた。するとそこへ後ろから・・・

佐藤：あゝここにいたんだあゝ美里ちゃん！お店行ったらとつく

に出たって聞いてさあ〜。

美里が後ろを振り返ると、部活帰りの佐藤がニコニコしながら立っていた。

美里：拓！！

それと同時に佐藤はスタスタと男子の前に行った。

佐藤：お前さ、女子と一緒にこんな所きて楽しそうだなおいっ！

いつものヘラヘラした佐藤とは違い、ものすごい気迫で言っていた。

男子：な・・・なんだよっ・・・お前に関係ねえだろっ。

気迫もさる事ながら、身長も佐藤は181cmでサッカーで鍛えている為、ガタイも良かったので、見た目から相手も少し引いていた。

佐藤：関係ねえじゃねえだろ？未来の俺の彼女とその友達に手でも出してみろよっ、出るとこ出てやるからなっ！！それから・・・

佐藤は女子達の方をギロつと睨むと、女子がすこしビクツとした。

佐藤：椿ちゃんの妹にも手くだしてみろよっ、お前ら一生嫁行けねえようにしてやるぞ。嘘だと思ふなよ。俺は守りたいもんは本気で守るタイプだからな。自分の守りたいもんさえ守れりゃあ、手段は全く選らばねえし、法律も関係ねえぞっ！！

佐藤は最初は淡々と話していたが、最後はかなり怒鳴った。

女子：！！・・・解ったよっ！帰ろうっ！！！！

女子は、男子の腕を引っ張っぱりながら、3人はその場を去って行った。

辺りは、何事もなかったかの様に静まり返り、椿は気が抜けた様に、その場にペタンと座り込んだ。

美里：・・・大丈夫？

椿：・・・うん、あの・・・美里ちゃん・・・。

美里：ん？

椿：・・・ありがとう・・・それから、美里ちゃんの彼氏さんも・・・ありがとう。

佐藤：いいえ（^^）一件落着だねえ？またあいつら来るような事があつたら言つてねえ。

椿はほつとしたように目を伏せた。

佐藤：椿ちゃんも今日は一緒に帰ろうか。

椿：いいえっ、大丈夫ですっ。

美里：一緒帰ろっ。

美里が笑顔で言った。

椿：・・・ありがとう。

佐藤：よしっ、帰るか！美里ちゃんも俺がちゃんと送り届けるからね（、、）

美里：ありがとう。

佐藤と美里は、椿を1人で返すのは心配だった為、一緒に送って行った。

佐藤：椿ちゃん、遠慮しないで、何かあったらすぐ言っただよ。

椿：ありがとうございますっ。

佐藤：もう椿ちゃんもタメなんだからタメ語でいいからっ（、、）

椿：タメなんだっ！えっ、ごめんなさいっ、あ、ごめんっ。

美里：未央にも椿にも間違われてるし（笑）

佐藤：なんでだろ。

椿：悪い意味でなくてっ、むしろ逆！

佐藤：ならいいやっ（、、）椿ちゃんまたねっ

美里：あははっまたね！

椿：ありがとうっ、また明日！

椿は手を振り続け、しばらく2人を見つめてから家に入った。

美里：拓、今日はありがとね。

佐藤：全然。

美里：いつからいたの？

佐藤：んっ、最初から。

美里：・・・そっか・・・愚問だけど、何で助けてくれたの・・・。

佐藤：ほんと愚問。美里ちゃんは嫌かもしれないけど、美里ちゃんの為。とその友達の、椿ちゃんの為。それ以外ないよ。俺、特に美里ちゃんに対しては、感情入っちゃうから、あんなの許せないでしょ。脅しでも何でもないよ、マジだよ。

佐藤が真剣な顔をして話していた。美里はこの佐藤の顔を見るのはサッカー以来2度目だった。

美里：・・・法律関係ねーとか言ってたよ？（^^;）

佐藤：あれもマジだよ。

美里：・・・。

2人は話ながら歩いていると、美里宅に着いた。

美里：うち、ここ。

佐藤：ここか（、、） あっという間に着いちゃったな。椿ちゃん宅とそんな離れてないんだね。

佐藤はさっきの表情とは逆に、いつものヘラッとした感じに戻っていた。

美里：拓、今日はほんとにありがとね。

佐藤：うん。

美里：あと、さっき嫌かもしれないって言ってたけど・・・。

佐藤：？ああ、美里ちゃん、余計な事するなって思うかな～と思ってさ～、女子同士なら見守ったかもだけど、男いたしさ～・・・。

美里：解ってるっ。

美里が佐藤を遮るように言った。

美里：解ってる・・・それに・・・すごい嬉しかったし・・・。

佐藤：かったし？惚れ直した～？

美里：惚れ直してはないけど・・・。

佐藤：ちえ～・・・。

美里：直してないけどっ！ていうか、惚れてなかったから！

佐藤はキョトンとした表情になった。

美里：そ．．．ありがとつ、また明日！

美里は捨て台詞のように言い放つと、家に入って行った。

残された佐藤は、しばらくそこへたたずんでから、歩き始めた。

佐藤：惚れてなかった．．．．．なかった．．．過去形？

第47話：美里の気持ち（前書き）

男子が苦手だった蓮花はクラスメイトの瀬野と付き合うことになり、父親とも和解しつつあった。そんな中、田中の友人、佐藤が美里の事を好きになり・・・続きは本編でどうぞ・・・

第47話：美里の気持ち

それから -

その後、椿も落ち着き、何事もなかったかの様に日が過ぎていた。

美里は今日もバイトだったので、早々と帰ろうと靴箱にいた。

美里：（・・・・・・拓、あれから喫茶店来ないなあ・・・・部活忙しいのかなあ・・・・・・）

田中：加藤、今日もバイトか？

美里：？あゝ田中、うんバイト・・・・・・ねえ、最近サッカー部って忙しいの？

田中：ああ、大会前だからみんな気合入りまくりだよ？

美里：ああ・・・・大会前なんだ・・・・（それでかな・・・・）

田中：どうかしたのか？・・・・そいえば昨日、部活帰りに本屋に寄ったら要先輩に会ったぞ。

美里：・・・・・・要先輩・・・・懐かし・・・・元気だった？

田中：うん、元気そうだった！おまえの事聞かれた。

美里：あたしの事・・・・・・・・ふうん・・・・そっかあ。

田中：高校入ってから会った事ある？

美里：ううん、無い。

田中：中学ん時から格好良かったけど、輪かかってさらに男前な
ってた（笑）

美里：そりゃあ・・・・・・・・。

田中：だよな、お前が唯一追っかけてた先輩だしなあ（笑）

美里：笑う所じゃないしつ。りな先輩いたから追っかけていうよ
り憧れでしょ？

田中：そっかそっか（笑）！じゃ、俺部活行くなっつ。

田中は手を振りながらグラウンドへ走っていった。

美里：・・・・・・・・要先輩かあ・・・・・・・・。

中学の頃、要は男子バレー部のキャプテンで、美里は女子バレー部
だった。要は女子からの人気も高く、誰からも憧れられる存在だっ
たが、当時、同学年のりなと交際していた。

美里：（そういうば、りな先輩とまだ続いているのかなあ・・・あたしと要先輩が話していると露骨に嫌な顔されたっけ・・・）

美里は当時、要に憧れていたので、よく話をしていたが、その現場を目撃される度にりなは嫌な顔をしていた。要の彼女という立場が羨ましかった美里は、可愛くて、スタイルも良く、要ともお似合いで申し分ないりなが、何故そんなに露骨に嫌な顔をするのか不思議だった。

喫茶店 -

椿：ねえ、美里ちゃん、この前の未来の彼氏さんとはどうなってるの？

美里：ええ！？・・・ああ・・・そんなセリフ言ってたっけな。

椿：言ってたよ！羨ましい！あたしもあんな言われたいしっ！

未央：あゝ！それってこの前のサッカー青年でしょ！？

椿：未央ちゃん知ってるの？

未央：うん、2人で9時までバイトしてた時に来てたよ。格好いいよねえ！椿も見ただ！

椿：うんっ、最近こないよね。来てる？

美里：あー．．ううん、来てない。学校でもクラス違うからあんま会わないし、部活も今忙しいみたいで。

未央：へえ、美里ちゃんとお似合いだね。

椿：未央ちゃんもそう思う？

美里：はいはいいいからっ仕事仕事っ．．．今日あたし8時までだからあと少しだっ。

その時、1人の男子高校生が店に入ってきた。『カランカラン

』

未央：！！ちょっと、まじで格好いいっ美里ちゃんっ。

美里：え？

美里がドア付近を見ると．．．

美里：．．．．．要先輩？

要：あ、いたいた！田中にここっで聞いて来てみたんだ！

美里：（あいつっ、．．．．．バイト先漏らしたなっ．．．）

未央：ああ・・・なんで美里ちゃんの周りってイケメンばかりなんだろう。いいなあ。

入り口付近で話す2人を見て、未央が羨ましそうに言った。

椿：いいじゃん、こちら紹介してもらえばっ！

未央：肝心な事忘れてた！そうだよねっ！

美里：未央、椿っ、あたしあがるね！

未央：はいはい、お疲れ様あゝ

美里はロッカー室でエプロンを取ると、また喫茶店内に戻り、テーブルに座っていた要と同じ席に座った。

美里：あの・・・何か話が・・・？

要：やー・・・田中に会ってさ、加藤の話聞いたら急に懐かしくなっ
て。

美里：あははっそうなんだ。田中、相変わらずサッカー馬鹿ですよ。
っ。

要：そうみたいだな。

美里：りな先輩は元気してます？

要：あー・・・元気は元気・・・。

美里：そうですか・・・。りな先輩、高校でもサッカー部マネージャーしてるんですか？

要：いや・・・してないよ。

美里：そうなんだ、りな先輩可愛いからマネージャーさせなかったとか（笑）？な、訳ないか・・・先輩そんな人じゃないですよね（笑）

要：・・・別れた。

美里は一瞬固まった。

美里：あの・・・ごめんなさい。ペラペラと・・・。

要：いや、いんだ・・・中学ん時からさ、加藤とよく話してたろ？

美里：同じバレー部だったし、憧れの先輩でしたからー。

美里は笑いながら、懐かしそうに言った。

要：本当はさ、中学の最後あたりから、あんまうまくもいってなくて・・・高校入ってしばらく続いたんだけど、どうも無理でさ。

美里は要の話を黙って聞いていた。

その頃、喫茶店の外に部活上がりの佐藤が来ていた。

第48話：水槽（前書き）

男子が苦手だった蓮花はクラスメイトの瀬野と付き合うことになり、父親とも和解しつつあった。そんな中、田中の友人、佐藤が美里の事を好きになり・・・続きは本編でどうぞ・・・

第48話：水槽

未央が佐藤に気付き、ジェスチャーで状況を伝えようとした。

未央が美里を指さした。

佐藤：美里ちゃん？

未央が両手とお尻を突き出して、トスの格好をした。

佐藤：・・・な・・・なんだありや・・・。

椿：未央ちゃん・・・あたし外行って伝えてくる。佐藤くん余計困惑してるから――；

未央：！！・・・そうすれば良かった・・・あはは・・・^ | ^ ；

椿は一瞬喫茶店を出て、あまり詳しくは解らなかったが、佐藤に状況を説明してから、店内に戻った。

美里：先輩たち絶対別れないと思ってた。

要：そうか？

美里：だって絵に書いたようなカップルだったしー。

要：はは・・・何それ。中学ん時から結構束縛凄かったしな・・・
加藤と話たくても話せなかったし。

美里：へー・・・。

要：束縛つつつか、加藤は特に意識してたみたいだけど、それも無理もないかもな。

美里：よく話てましたもんね・・・確かに。

要：いや、俺実は中学の途中で別れ話したんだけど、拒否られて。

美里：えっ！？

要：・・・加藤の事、好きになったからって言ったんだ。

美里：っ！！

美里はひたすら驚いた。

美里：・・・あの・・・。

要：今ごろ何だよって思われるだろうけど、加藤今彼氏いなければ、俺の事考えてくれねーかなって思って。頭にはずつとあったんだけ

ど、偶然田中に出くわしたから、チャンスかなって。

美里はしばらく黙ったまま座っていたが、軽く溜め息をついた。

美里：・・・先輩、あんな懂れてた先輩にこんな事言ってもらえて、
凄い嬉しいです。

要：・・・。

美里：・・・けど・・・ごめんなさい・・・。

要：・・・時期が違いすぎたかな・・・。

美里：んー・・・よく解らないですけど・・・。

要：好きな奴がいるんだ？

美里：んー・・・みたいです。

要：みたいです？

美里：最初、全く興味無くて、有り得ないって思ってたんですけど、
・・・しかもタメだし・・・。

要：・・・あー・・・やっぱタイミングで大事だなー・・・。

美里：つつ・・・なんか、ありがとうございます。

要：いや、スッキリした。サンキューな・・・・・・・・・・。

しばらく沈黙が続いた後、要が意を決したように笑顔で言った。

要：よし、出るかつ！

美里：・・・・はい。

要の笑顔を見た美里は少し安心した様に返事をした。2人はお店を出ようとすると、未央が慌てて美里に耳打ちをしてきた。

美里：えっ！？拓がつ！？

要：？

美里：あ、いいえっ、いんですっ出ましようっ。

2人が外に出ると、佐藤が寒い中、喫茶店の前の壁にもたれて待っていた。

要：・・・・帰りは大丈夫そうだな。

要は佐藤に気付き、軽く頭を下げた。

要：またな、加藤っ。

美里：またっ！

美里は要に手を振りながら見送り、佐藤の所へ駆け寄った。

美里：寒い中何やってんのよっ！！大事な試合があるでしょうが
あつ！！！！

佐藤：・・・・・・・・。。。

佐藤は美里のすごい剣幕に驚いて、目を丸くしていた。

美里：マフラーもしないでえっ！！バカ！！

美里は慌ててマフラーを佐藤の首に巻きつけ、かばんの中から手袋を出して、佐藤に渡した。

佐藤：・・・・いいよ、美里ちゃんが寒いでしょ？

美里：あたしは部活とかないいいのっ！止めてよっ！いいから
してー！！

佐藤：……。はい……。

佐藤は返事をする、渡された手袋をはめた。

美里：帰るよつ寒いからつ。

2人はそのまま家の方角へ歩き出した。

佐藤：なんで試合の事知ってんの？

美里：あゝ今日田中が言ってた。

佐藤：そつかあゝ。

美里：拓ってさあ、いつもマイペースだねえ。

佐藤：そかな。

美里：んゝいつも余裕ある感じに見える。

佐藤：あはは……。そう見える？

美里：見えるよゝ。

佐藤：じゃあそう見える様にがんばってるからかも。

美里：？

佐藤：今頭の中はさっきのイケメン誰だろう？とか美里ちゃんの何なんだろう？とか、彼氏だろうか？とか全く余裕無いっ。

美里：中学ん時の先輩！

佐藤：ふん．．．好きだった先輩？

美里：そ！！

佐藤：．．．あの人．．．海のおいがする．．．。

美里：？先輩遠かったじゃん。においなんてする訳ないでしょ。先輩サーフィンやってないはずだけど．．．始めたのかな．．．。

佐藤：．．．そうじゃなくて．．．美里ちゃんジンベエザメでしょ？海好きだよな．．．海が理想だよな。

美里：ああ．．．．．．そういう．．．。

佐藤：俺、海になれる様に頑張りたいけど、あんな所見ただけでコレだもんね。多分きつと俺は水槽くらいだ。コレにも若干腹が立つよ。ていうか．．．こんな感情的になる自分にも少し腹が立つ。

美里：．．．．．．ねえ．．．その水槽、ジンベエザメ泳げないの？

佐藤：．．．泳げるよ。けどまだちょっと狭いんだろうね．．．。

美里は下を向いてクスクスと笑い出した。

佐藤：？何？

美里：段々語尾が延びなくなってきた（笑）

佐藤：だから・・・余裕無いって言ったでしょっ。

美里：超余裕無い…………。

佐藤：…………。

佐藤が歩くのを止めて、少し悔し恥ずかしそうに美里を見た後、またゆっくり歩き始めた。

美里：あたし水槽がいい…………。

それを聞いた佐藤は、歩くのを止めて美里の方を振り返った。

美里：水槽の管理人が優しそうだし、大事にしてくれそうだから。

佐藤：…………結構頼りにもなるよ。

美里：うん、それは知ってる。

佐藤：…………どんな時も傍にいろよ。

美里：うん、楽しみ。

佐藤：泳いで・・・くれるの？

美里：泳がせてくれるの？

佐藤：勿論！ジンベエザメ専用の水槽だから！

そう言いながら佐藤は満面の笑みで美里をギュッと抱きしめた。

美里：痛い痛いっ（笑）

佐藤：あ！ごめんっ嬉しすぎたっ！

第49話：信頼（前書き）

男子が苦手だった蓮花はクラスメイトの瀬野と付き合うことになり、父親とも和解しつつあった。そんな中、田中の友人、佐藤が美里の事を好きになり・・・続きは本編でどうぞ・・・

第49話：信頼

翌日 -

3組 -

美里：じゃあ風邪大丈夫だったんだね。

佐藤：うん、あれから喉少し痛いかなあって思ってただけど、薬飲んで寝たらこの通り！

美里の席の横で、佐藤は隣の瀬野の椅子を借り、座りながら話をしていた。

瀬野：おい・・・佐藤、お前俺様の椅子返せよ・・・ていうか、ここ3組だって言ってるだろうが。帰れっ。

美里：まあまあ、いいじゃない椅子くらい・・・（――；）

佐藤：そうだよ、瀬野は器小さいからなあ、。

瀬野：！！大体なんでお前がここにいるんだよっ！

佐藤：だって俺美里ちゃんの彼氏だし、クラス違うとあんま話せないだろう？

瀬野：・・・・・・は？いつから？

美里：昨日から？

蓮花：・・・・・・あはは、あたしも今朝知った（笑）

瀬野：・・・・・・まじか・・・・・・仕方ねえなあゝ・・・・・・じゃあ、1分な。

佐藤：セコッ！！やっぱ器がねえ・・・・・・。

美里：器がねえ・・・・・・。

瀬野：お前ら2人でかかってくる気が・・・・・・。

蓮花：大体何でそんなに仲悪いわけ？

佐藤：瀬野、美里ちゃんの事最初っから呼び捨てだし！。

美里：・・・・・・あんたも大概器小さいでしょ・・・・・・海は・・・・・・？

佐藤：あ、それとこれとは別ね。

美里：・・・・・・（――；）。

瀬野：海？大体、美里は美里だろ、っーか休み時間終わるぞっ帰れ帰れっ。

瀬野は右手を振りながら佐藤に言った。

佐藤：ふーん、じゃあ帰ろうつと〜・・・美里ちゃんまたねえ〜と、またね蓮花！

瀬野：！！！！あいつつ！

佐藤は手を振り、笑いながら4組に帰って行った。

美里、蓮花：・・・・・・（――；）バカみたい。

美里：蓮花、バイト調子どう？

蓮花：いいよ〜、大分慣れたし他のバイト生が結構親切に教えてくれるし助かってる。

瀬野：・・・・・・その親切に教えてくれるバイト生は男か？

美里：ったく〜余裕の無い男はコレだから・・・おお〜嫌だ。

瀬野：！！！！なっ・・・・。

美里：あ！！！！授業始まる！！！！

瀬野：！！！！

蓮花と付き合ってしばらく経過したが、瀬野と付き合いだした頃か

ら蓮花が次第に変わり始め、少し社交的になっていった。
最初の頃は安心感があったのだが、瀬野は最近、自分と共有していない時間も増え出したせいか、少し不安になってきていた。

放課後 -

蓮花は放課後バイトへ向かった。

美里：瀬野今日バイト休みなの？

瀬野：ああ。

美里：蓮花って最近変わった感じするね。

瀬野：やっぱそう思うだろう？俺不安なんだよなー・・・。

美里：またあ、それ言うなら蓮花もじゃん？あんた学校にファンク
ラブあったんだよ？今は彼女できた噂広まってうやむやになってる
けどさあ。

瀬野：・・・んー・・・俺今日あいつのバイト先行ってみよう
かなあ・・・。

美里：冗談でしょ？偵察？瀬野がつうわっ。

瀬野：キモイみたいに言うなよっ！

美里：あんたも変わったね。大分蓮花に翻弄されてる感じだけど・
・（ー；）大丈夫だって、何がそんなに不安なのか全然わかり
ませんけど？

瀬野：お前が何でそんなに自信満々なのに当人はこんななんだろう
な・・・。

美里：あんたが自分の事しか見えてないからでしょー？

瀬野：？

美里：ったくさあ、行ってくればあ？バイト先！じゃああたし帰
るからっ

美里はそう言うと、そそくさと帰って行った。瀬野は美里の助言を
聞いて、多少迷いながら自宅へ帰ってDVDを観ていたが、やっぱ
り気になり、蓮花のバイト先へ向かう事にした。

瀬野：・・・・・・バイト終わってっかな・・・。

蓮花バイト先
ファミレス
-

しばらく歩いてバイト先に着くと、ガラス越しにオーダーをとって
いる蓮花が見えた。

瀬野：・・・まだいたのか・・・がんばってんな・・・つか・・・寒いっ。

蓮花は同じバイト仲間の男子と普通に話をし、たまに笑ったりしていた。

瀬野：普通に話せる様に（男子と）なったんだよなあ・・・人の彼女と楽しそうに・・・つか蓮花、俺以外と話す時に楽しそうに笑うな。今日バイト何時までだろうな・・・。

時間はPM7：30分、蓮花は今日8：00までの勤務だった。その事は瀬野は知らなかったが、外で待つ事にした。

瀬野：寒いっ、寒さ対策してくんだっ！

30分程待った時に、蓮花がバイト生（男子）と一緒にファミレスの裏の方から歩いてきた。

バイト生（男子）：木内さん、今日送るよ！

蓮花：ああ、大丈夫。

バイト生（男子）：いつも断るけど、日も落ちるの早くなってるし。俺じゃ不安？

蓮花：ううん、気持ちだけもらっとくね。誰だから嫌とかじゃなくて、家も近いし、あたし彼氏以外の人と歩くのがどうも無理でさ。ごめんなさい。それじゃあね。

バイト生（男子）：そっか・・・わかった。じゃあ・・・。

蓮花：うん。お疲れ。

蓮花はファミレスの前でしばらくそんな話をして振り返ると、人にぶつかった。

蓮花：痛っ！・・・ごめんなさい！！

蓮花が目を開けると・・・

蓮花：！！！！瀬野っ、来てくれたの？えっいつから？こんな寒いのにっ。

蓮花は瀬野の両手を握ると、かなり冷たかった。

蓮花：どんくらい・・・いたの？ここに・・・。

瀬野：・・・40分くらい？・・・悪い・・・勝手に。

蓮花：ううん、全然・・・学校でまた会えるけど、もう顔見れない
と思った時間に顔見れると嬉しいねえ。

蓮花が笑顔で言ったその顔とその言葉が、瀬野はすごく嬉しかった。

瀬野：なんか、美里と佐藤が蓮花の事見えてない気がするって言
ってたのちよつと解ったかも。

蓮花：何それ。

瀬野：いやー・・・ここんと俺様とした事が余裕無くて・・・い
かん！！自分の事ばっか考えてたな。

蓮花：余裕無くなるような事あたししたの？

瀬野：いや・・・してない・・・というか、最近社交的になっ
てくるから・・・いい傾向なんだけど、お前可愛いからめっちゃ不安
だった・・・。

蓮花：だった・・・？

瀬野：いや・・・だったんだけど、けど！もう過去形！

蓮花：・・・ならいいけど・・・心配するだけ時間無駄だよ？

瀬野：？

蓮花：・・・確かに話は普通にできるまでなってきたけど、基本的に瀬野にしか興味ないし。

瀬野：えっ！！

蓮花：当たり前でしょ。あたし男子不信だったんだけど・・・？
瀬野の対する信頼度は絶大に大きし。もし仮に瀬野があたし以外の子を好きになる日がきたとしても・・・考えるだけで寂しいけど・・・
・会えただけで奇跡だと思ってるから。付き合えて本当ラッキーって感じ？けど、理想としては・・・ずっと横にいて一緒に笑って欲しいし、傍にいたい・・・。

瀬野：・・・。

蓮花：？どうかした・・・？変な事言っただけだし・・・？

瀬野：や・・・めっちゃ嬉しい・・・。

瀬野は蓮花をそっと抱き寄せた。

瀬野：ごめん・・・なんか俺恥ずかしくなってきた・・・器小ええっ佐藤の言う通りか・・・。

蓮花：あははっ、嬉しいよ！そんな余裕無くなるくらい考えてくれてたんでしょ？器は小さくないよ（笑）ていうか、小さくても瀬野なら何でもいいやつ。

瀬野：蓮花、お願いだからずっと横にいて。

蓮花：うん！あと・・・瀬野じゃなくて、颯真って呼んでいい？

瀬野：！！照れるけどそっちがいい！

蓮花：うん！じゃあ帰ろっ颯真！

瀬野は少し照れ笑いをしながら、蓮花の手をとり2人は歩いて帰って行った。

蓮花：今度ね、うちで鍋するんだけど颯真も来てね。

瀬野：勿論！

蓮花：お父さんが一度きちんと話したいんだって。

瀬野：！！まじか！！

蓮花：そんなビックリしないで（笑）

瀬野：俺んちの母親もお前に会いたいんだと。ついでに兄貴も。俺に彼女ができたの父親が言ったらしくて、興味津々だったぞ。

蓮花：えゝつすでに緊張してきたあゝ。なんでそんな興味津津なのゝ？

瀬野：俺が将来の嫁だからって言ったからかな？

蓮花：！！

2人は顔を向き合い、笑いながら仲よさそうに帰って行った。

第49話：信頼（後書き）

長い間お付き合い頂き、ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7611w/>

人を好きになる理由

2011年11月20日09時54分発行